

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	酒井哲郎		所 属	医学研究科システム生理学講座	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	1) 生理学IIの講義・実習においては、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題提供までの「広く深い」知識の習得を目指す。そのため、power pointの内容に随時改良を加えていく。さらに、昨年度に続き、非常勤講師2人による特論の講義によって、カリキュラムを充実したものとす。2) 医学外国語では国際的に定評のあるGuytonの生理学教科書を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に生理学の知識の習得を目指す。3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、われわれの研究室での最新の研究を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指す。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起する。		0.30	1) 生理学IIの講義のスライドを改訂・増補し、より神経科学の学習の効果を促進した。また非常勤講師2名体制でカリキュラムを充実させた。2) 医学外国語では、学術英語を読むための技術を教えることが出来た。3) 医学概論Aでは、われわれの研究の一端を紹介し、基礎医学へのearly exposureを進めた。4) 大学院教育では、コース共通科目の講義をおこない、われわれの研究により得られた心房性不整脈についての知見をpresentationした。学位論文の主査・副査をつとめ、研究のpresentationの場におけるdiscussionを通じて研究成果についてのcommentsや、修了後の研究の進め方についてのアドバイスを与えた。
研究	0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開する。このテクニックを駆使してこれまでに継続してきた、実験的心房細動の光学的解析の研究を進める。なお、この実験形を用いた不整脈研究をおこなっているのは、世界的にもわれわれのみである。研究成果は論文にまとめて発表するほか、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなう。特に本年度は英国バーミンガムで開催される国際生理学会で発表をおこなうほか、米国マサチューセッツ州Woods Holeで開催される膜電位感受性色素発見記念研究会に招聘されており、そこでの研究成果の発表を予定している。研究費獲得のため、。科学研究費補助金などの外部資金の応募を積極的におこなう。		0.40	膜電位光学イメージングの実験を精力的に進め、光学的測定法を用いた実験心房性不整脈の研究を進めた。細胞内Ca動態擾乱するを薬物により様々なパターンの不整脈が発現することをつきとめ、その解析を進めた。この結果は日本生理学会大会において発表され、目下論文作成中である。さらに英国バーミンガムで開催される国際生理学会に参加して研究成果の発表をおこなうとともに、米国マサチューセッツ州Woods Holeで開催される膜電位感受性色素発見記念研究会に招聘され、研究成果を発表するとともに世界の先進的研究者と意見交換した。
社会貢献	0.05	日本生理学会評議員をはじめ、日本生物物理学会・日本神経科学学会・米国Society for Neuroscience会員として学会の発展に貢献していく。また来年度の西日本生理学会の当番校であるため、学会開催の準備作業をすすめる。		0.10	日本生理学会評議員として、学会の発展に貢献してした。さらに平成26年3月の日本生理学会大会のプログラム委員として米国Yale大学のLB Cohen教授の招聘をおこなった。また西日本生理学会の当番予定校の学会事務局代表として、学会事務を引き継ぎ、学会開催の準備作業を開始した。
管理運営	0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視して教室の管理・運営をおこなう。		0.15	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークおよび教室費の有効活用などにより、スムーズな教室の管理・運営をおこなうことが出来た。
進路指導	0.05	指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じる。さらに、今年度は1年次の担当となるため、新しい環境に迷いがある学生に対して随時e-mailや面談により丁寧な相談をおこない、彼らの医学へのmotivationを高め、drop outを防ぐ。		0.05	1年次の指導教官として担当学生の相談に応じてきた。また生理学を履修するM2生に対しても積極的に学習のアドバイスをおこなった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	細川 浩		所 属	システム生理	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	Neuroscienceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。		0.35	Neuroscienceの最近の研究成果を反映した感覚総論を講義ノートに追加した。 情報科学演習に初期の統計処理、実験のデータ処理の要素を追加した。
研究	0.45	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 豊橋技術科学大学知識情報工学科との共同研究を進める。 東京医科歯科大学難地疾患研究所との共同研究を進める。		0.45	研究成果をまとめて第90回日本生理学会で発表した。 豊橋技術科学大学知識情報工学科と共同実験を9、12月に行った。 東京医科歯科大学情報部と実験解析プログラムの改良について議論した。
社会 貢献	0.05	学会誌の査読委員として学会活動に貢献する。 沖縄県体育協会行事の運営に競技審判員として貢献する。		0.05	沖縄県山岳競技予選会において競技審判長として貢献した。 東京国体山岳競技に参加し、沖縄県監督として貢献した。
管理 運営	0.05	機器センターのME部門長として臨床および基礎系研究者の研究活動を支援する。		0.02	機器センターのME部門長に選任されなかったため研究支援ができなかった。 主任監督者として大学入試センター試験運営に貢献した。
進路 指導	0.10	指導教員として学生の勉学、生活面の相談に応じアドバイスする。		0.13	M1の指導員として渡嘉敷研修に参加して、大学生活についてアドバイスした。 4月、10月に班会を開いて学生の近況を把握し、勉学、生活面の指導をした。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		梁 運飛	所 属	医学部	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	学部担当科目(生理学の実習)を担当し、学生の実習を丁寧に指導する。去年の実習に現れた問題により、実習書及び実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。		0.40	去年の実習に現れた問題により、実習用テキストを改定し、今年度の学部学生の電気生理学実習は去年度よりかなり順調になった。実習に関する教育目標を達成した。	
研究	0.50	1、動物実験モデルにおける高血糖症に対するEM-Xの効果に関する英語研究論文を直して国際雑誌に再投稿する。2、沖縄にある亜健康(未病)研究所と連携し糖尿病に関する共同研究を行う。3、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。		0.50	1、研究成果「Medical and health benefits of fucoidan extracted from mozuku」を[The 7th World Natural Medicine Conference (China)]で発表した。2、研究成果「The medical researchs on mozuku and fucoidan」を[The 4th Annual Conference of Medicaled Diet and Dietotherapy of WFCMS]で発表した。3、研究成果「Menthol Induces Surgical Anesthesia and Rapid Movement in Fishes」を[The Open Neuroscience Journal]に投稿した。	
社会貢献	0.05	続けてボランティアで日曜日の沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。		0.05	ボランティアで世話人として毎月の第一の日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。	
管理運営	0.05	大学センター試験及び二次試験の監督関連業務等に積極的に参加する。		0.05	大学センター試験と本学の二次試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		村山 貞之	所 属		医学研究科・放射線診断治療学
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	卒前教育:毎週のポリクリ時の教育、M4に対する放射線医学の講義 卒業後教育:毎週の放射線科の症例検討会 逐次の専門修練医の教育		0.10	十分に目標を達成した。加えて、大学院生3人の学位論文作成を支援した。
研究	0.10	肺癌、感染症、呼吸機能に関する画像診断の研究を進める。特に、320列CTを用いた多施設研究(共同研究で資金獲得済み)、肺結節の良悪性の鑑別、cine MRIによる肺高血圧症の診断(文科省科研費獲得済み)に力を入れる。PETセンター開設に伴い、新しい核種を用いた臨床研究を進める。		0.10	十分に目標を達成した。加えて、320列CTを用いた低線量胸部CT画像の多施設研究において、リーダーシップを発揮した。
社会貢献	0.10	沖縄県医師会の理事としての活動を行う。病院長として、さまざまな社会貢献を企画する。地域医療再生基金を獲得できた遠隔読影システムによるへき地病院の画像診断の読影を推進する。		0.10	十分に目標を達成した。遠隔読影システムにてへき地離島のCT,MRIの読影を指揮した。
管理運営	0.65	病院長として、あらゆる病院の管理業務を指揮する。		0.65	十分に目標を達成した。
進路指導	0.05	ポリクリ学生に対して、進路指導を行う。		0.05	ポリクリ学生に対して昼食会を行い、進路指導を行っている。充分、目標を達成した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		戸板孝文		所 属		医学研究科 放射線診断治療学講座
職 名				職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	系統講義に加え多施設共同研究グループでの最新の臨床研究結果を紹介し、悪性腫瘍の集学的治療における放射線治療の役割と重要性を有機的に理解させる。臨床実習においては、IMRT, IGBT, 定位放射線治療等高精度放射線治療の治療計画立案に参加させ、放射線治療の魅力を感じさせる教育を行なう。これらを通じて臨床の現場で激しく不足する放射線腫瘍医を志す学生、研修医を育成する。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのコーディネータとして県内のがん教育野活性化を進めるとともに、九州大学との教育連携を進める。大学院生の教育指導を行い研究論文作成を指導する。		0.25	系統講義を4コマ(治療学、放射線医学)行った。医学外国語(英語)の教員を担当した。臨床実習にて高精度放射線治療計画と実施、EBMIに基づく治療方針立案検討の教育を毎週行った。倫理討論講義の講師を担当しがん臨床研究をテーマに学生に討論を行わせた。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの本学担当のコーディネータとして、講演会/講習会開催し(3件)、e-learningクラウドへの参加推進を進めるとともに、九州大学との連携プログラムを完成し相互の学生受け入れを実施した。九州がんプロ全体研修会(福岡)に参加した。学会(全国レベル)等で教育講演を行った(5件)。JCOG主催の放射線治療若手臨床試験勉強会にモデレータとして参加した。大学院生1名の研究・論文作成指導を行い、1名の学位取得に直接関わった。	
研究	0.20	国際英文誌への論文投稿(1編)文部科学省科学研究費の獲得、厚生労働省研究班への班員としての継続参加による配分研究費獲得、多施設共同試験への継続参加(JCOG)、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法の実施(JCOG)に向けたWG組織運営(研究代表者)、治療パラメータに関するプロトコル立案。a子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療のプロトコル作成と臨床例の集積。		0.20	国際英文誌に学術論文が掲載された(共著者5本)。米国の専門教科書2つに(Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 6th Edition, Controversies in the Management of Gynecological Cancers)に執筆文が掲載された。厚生労働省研究班分担研究者(4班)、に参加した。文部科学省科学研究費(基盤C)を獲得した。子宮頸癌に対するIGBTプロトコルを完成し患者登録を開始した。JCOG放射線治療グループと婦人科腫瘍グループ内で共同試験を計画しコンセプトを完成した(研究代表者)。	
社会貢献	0.10	専門学会(日本婦人科腫瘍学会、日本癌治療学会等)にて各種ガイドライン作成、日本産婦人科学会での取扱い規約改定作業、子宮頸癌放射線治療の全国実態調査の継続。放射線治療研究会の開催により県内での放射線治療の啓蒙、県立看護大学での講義担当、放射線治療専門医制度委員会委員として問題作成・試験面接等を担当。沖縄県重粒子線協議会委員として作業をすすめる。他施設からの放射線治療部門見学の積極的受け入れ。		0.10	専門学会(日本婦人科腫瘍学会、日本放射線腫瘍学会)にて子宮体癌ガイドライン作成委員、卵巣癌ガイドライン評価委員、小線源治療部会ガイドライン作成委員を務めた。放射線治療専門医制度委員会委員として問題作成・試験面接等を担当した。沖縄県重粒子線治療施設導入可能性検討協議会委員として作業をすすめた。他施設からの放射線治療部門見学の受け入れ(4件)を実施した。	
管理運営	0.30	放射線部放射線治療部門チーフ、院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムのコーディネータ、臨床研究支援センター副センター長、病院再整備準備室副室長、中期計画達成プロジェクト戦略的研究推進経費による「沖縄県におけるがん臨床試験・治療推進プログラム」の運営		0.30	放射線部放射線治療部門チーフ、院内がん登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムのコーディネータ、臨床研究支援センター副センター長、病院再整備準備室副室長等として、マネージメントを進めた。	
進路指導	0.05	2年次指導教官として進路指導		0.05	2年次指導教官として進路指導を実施した	
診療	0.10	放射線治療外来(週3日)を引き続き担当する。放射線治療計画、腔内照射。		0.10	放射線治療外来(週3日)を引き続き担当した。放射線治療計画、腔内照射。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		垣花 泰政	所 属		放射線診断治療学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	放射線治療物理学講義、大学院生の研究指導		0.30	放射線治療物理学講義担当 大学院生の学位取得 大学院生の学会発表指導
研究	0.30	医学物理学会及び医学物理学会誌での研究発表		0.30	医学物理学会及び医学物理学会誌での研究発表 海外学会での発表
社会貢献	0.10	所属学会の委員会への参画		0.10	医学物理士認定機構認定コース委員 国立がん研究センター放射線品質管理推進室アドバイザーパネル委員
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.00	
病院業務	0.30	放射線治療業務		0.30	放射線治療機器の管理、放射線治療業務担当
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	石内勝吾		所 属	脳神経外科	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学部教育として学問的分析力の養成、脳神経外科の診療の基本を、大学院生には神経科学の研究指導・博士論文の作成指導、専門医取得予定者には高度化手術の手術戦略、放射線生物学、神経病理などの専門教育をおこなう。		0.20	修士課程の大学院生2名の学位論文が受理された。博士課程3名については現在投稿中が1名、論文準備中が2名である。
研究	0.20	中期計画の目標の実現のために、健康長寿復興および生涯健康脳の医学生物学研究を学部横断的推進に中心的な役割を果たし健康長寿に関する新しい研究アプローチから学術創生をめざす。		0.10	精神科と連携で課題「安静時脳活動Default Mode Network (DMN) をめぐる謎」の解明を27年度 特別経費(プロジェクト分) 概算請求し本部に申請書を提出した。
社会貢献	0.10	国民の健康と福祉増進のための啓蒙活動を行う。その一環として社会法人脳神経外科学会の支援する市民公開講座を開催し脳卒中、がんの最新研究成果を社会に発信することで長寿社会の実現と健康長寿脳獲得方法を発信する。		0.10	第36回日本基礎老化学会主催の市民公開講座では250名の参加者を前に「百寿者から学ぶライフスタシス」をテーマに健康長寿に関する沖縄の現状を話し新聞社4社からのインタビューを受けた。OISTからも市民公開講座での講演依頼があり最先端研究における研究者倫理について600名の大学院生と市民を前に英語で講演した。
管理運営	0.10	研究担当の副医学部長・戦略的研究推進委員としてリーディング大学院等大型予算の獲得、医学研究科構成員および脳神経外科科長として医学部・病院の化石化・硬直した組織体制に関して論理性・透明性を高め開かれたプロセスで政策決定・意思決定が出来るようにsocial innovationを推進する。		0.20	副医学部長として学部横断的研究推進のために臨床科横断的な研究を推進した。OISTとの研究連携を具体化するためにOIST学長及び理事と懇談した。附属病院の経営再建のために経営ミーティング議長として収益率の向上策を策定した。
進路指導	0.10	研究室を学部学生に開放し日常的な悩み、進路相談、健康管理など学部学生の生活指導、進路相談をオフィスアワーをもって行う。		0.10	指導教員として年2回及び随時必要時に学部学生10名との懇談・指導・面談を行った。
診療	0.30	診療の適切性・安全性・先進性を追及し脳腫瘍手術のために術中MRI診断システム、脳血管手術のための術中hybrid CTの導入を推進し高次機能病院としてふさわしい手術室環境を構築する。脳・神経センターの樹立を目標に神経内科、画像診断学と連携し日常診療の提携を密に行い、診療レベルの向上をめざす。		0.30	術中MRIを導入し稼動を開始した。年170例の脳神経外科手術を実践した。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長嶺 英樹	所 属		医学部脳神経外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	各担当学生毎に症例の検討、基礎知識の学習、指導に努める。また外来実習時は、問診、身体所見から鑑別疾患の列举、必要となる検査項目の設定など、臨床に即した系統的判断の指導を行う。			0.20	各学生毎に症例の検討、基礎知識の学習、指導に努めた。また外来時は新患者に対する問診、身体所見から鑑別疾患、検査内容の選定、検査結果の評価に関して指導を行った。		
研究	0.30	HTLV1キャリアと脳腫瘍との相関解析に於いて、適宜関連学会での報告を行い。又、神経膠腫の当科に於ける予後解析は症例を蓄積し継続中であり、論文作成に努める。			0.30	HTLV1キャリアと脳腫瘍との関連解析に於いて学会への参加など新知見の取得に努め、また、新規神経膠腫患者の予後解析を継続中である。		
社会貢献	0.05	地域連携パスの意見交換会に出席し、当院での脳卒中連携パスの実施、推奨に当たっている。また、脳腫瘍病理学会、神経内視鏡学会への参加から最新知見を得て、臨床に還元し社会貢献へ繋げる。			0.05	地域連携パスの意見交換会出席し、当院での脳卒中連携パスの実施、推奨に当たっている。関連学会への積極的参加を継続中である。		
管理運営	0.05	各学内委員会への参加。入試関連業務、CBT、OSCE判定医員など進級試験に関する業務にも積極的に参加している。			0.05	各学内委員会への参加。入試関連業務、CBT、OSCE判定委員など進級試験に関する業務にも積極的に参加している。		
進路指導	0.10	脳神経外科業務を主体として、実習学生の医師業務に対する疑問、質問への対応、全人的な患者対応の手法などを指導している。また研修医説明会にも積極的に参加し、進路指導に努める。			0.10	脳神経外科業務を主体として、実習学生の医師業務に対する疑問、質問への対応、全人的な患者対応の手法などを指導している。また研修医説明会にも積極的に参加し、進路指導を行っている。		
診療	0.30	社会人院生として、基礎研究による最新知見の取得、発展、臨床実技能力の研磨に努める。			0.30	臨床業務の中で脳神経外科医師としての技術、知識の研鑽取得にと努めている。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		外間洋平	所 属	脳神経外科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	症例プレゼンテーション指導, M3講義(神経系の解剖と機能, 神経系の検査), マイクロ顕微鏡縫合実習		0.25	予定通り施行した。マイクロ顕微鏡実習はシミュレーションセンターを利用した。	
研究	0.25	DTI based tractographyの臨床応用。症例の経過において, 各種神経線維束を描出し, 電気生理学的検査, 神経学的検査, 高次機能検査との関連を評価, 解析する		0.25	データを取得し評価, 解析を進行している。	
社会貢献	0.05	研究成果の学会発表, 論文作成をもって社会貢献とする		0.05	作成途中。	
管理運営	0.05	各種病院会議への出席		0.05	出席した。	
進路指導	0.05	学生の希望科聴取, 助言		0.05	プレゼンテーション指導, マイクロ顕微鏡実習中に聴取し, 助言した	
診療	0.35	診療、手術手技レベルのステップアップ。脳神経外科専門医レベル以上の知識, 技術の獲得を目標とし勉強する		0.35	3D術前検討や, 術後カンファレンス, 神経内科とのカンファレンス等を利用し, 勉強している。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

脳神経外科学講座

名 前		西村正彦		所 属		医学研究科脳神経外科分野		職 名		助教	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	学部生を対象にした授業は神経解剖学「神経科学トピックス」を担当する予定である。授業のテーマごとに学生への発問を行い、授業内容を理解しているか確認する。また、発問を複数の学生へ行うことで、授業への参加度を高めるよう促していく。授業ごとのミニテスト、感想文の提出を実施し、授業の理解度、授業方法・内容について点検を行う。また、臨床実習生を対象にした授業は、ニューロリハビリテーションの実践、使用する機器について演習を交えた講義を行う。fMRI検査見学実習を通して、fMRIの基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行う。				0.20	学部生を対象にした授業は神経解剖学「神経科学トピックス」を担当した。授業のテーマごとに学生への発問を行い、授業内容を理解しているか積極的に確認した。また、発問を複数の学生へ行うことで、授業への参加度を高めるよう促した。授業ごとのミニテスト、授業への意見・感想を確認し、授業の理解度、授業方法・内容について点検した。また、臨床実習生を対象にした授業では、ニューロリハビリテーションの実践と原理、使用機器について演習を交えた講義を行った。また、fMRI検査見学実習を通して、fMRIの基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行った。				
研究	0.35	平成26年度科研費申請に向け、動機づけに関与する神経基盤の解明、ヒト海馬歯状回の記憶・学習機能に関する脳機能マッピング研究を査読付国際誌にて論文発表を行い、課題を解決できる実験計画を立案する。また、平成25年度宇流麻学術研究助成基金へ研究助成申請を行う。放射線が海馬歯状回の記憶・学習機能に及ぼす影響に関する研究報告を査読付き国際誌へ投稿発表する。第47回日本作業療法士学会にて「ロボットスーツを用いたpusher症候群のニューロリハビリテーション」を口述発表する予定である。また、同テーマは査読付き国際誌へ論文投稿する。経頭蓋直流電流刺激(tDCS)による上肢運動機能の改善と脳機能への影響について査読付き国際誌に論文投稿する。ロボットスーツを用いたニューロリハビリテーションの効果検証と脳機能への影響について査読付き国際誌に論文投稿する。学会活動においては第113回九州医師会総会・医学会脳神経外科分科会の事務局を担当する。				0.35	ヒト海馬歯状回の記憶・学習機能に関する脳機能マッピング研究について、査読付き論文誌への投稿を準備している。動機づけに関与するヒトの神経基盤に関するfMRI研究をPLOS ONEに投稿した。また、ロボットスーツを用いたリハビリテーションに関する症例報告をJ Med Rehaに投稿した。第47回日本作業療法士学会では「ロボットスーツを用いたpusher症候群のニューロリハビリテーション」を口述発表した。第11回沖縄県作業療法学会にて「慢性期脳血管障害患者の上肢運動機能障害に対する経頭蓋直流電流刺激による治療と神経機能画像による評価」について口述発表した。平成26年度科研費申請では、経頭蓋直流電流刺激法を用いたニューロリハビリテーションの効果検証について研究計画を作成し、倫理審査委員会の承認を得て、若手Bへ応募した。学会活動においては第113回九州医師会総会・医学会脳神経外科分科会の事務局として運営に携わった。平成25年度琉球大学若手研究者支援研究費を受給した。				
社会貢献	0.10	本年度は浦添市障害者介護給付費等審査委員として、月1回の頻度で浦添市障害者介護給付費等審査会に参画する。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業(90分×10回)、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業(90分×30回)を実施する。				0.10	平成25年度は浦添市障害者介護給付費等審査委員として、月1回の頻度で浦添市障害者介護給付費等審査会に参画した。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業(90分×10回)、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業(90分×30回)を実施した。沖縄県医師会脳神経分科会の事務局担当として脳神経分科会の運営補助を行った。沖縄県作業療法士会の新人作業療法士を対象にした研修会の講師を担当した。				
管理運営	0.10	本年度は、リハビリテーション連絡委員を担当し、附属病院の診療環境の向上に貢献する。				0.10	本年度は、リハビリテーション連絡委員を担当した。また、脳神経外科の副医局長を拝命し、当医局の構成員の親睦及び学術交流に務めた。				
進路指導	0.05	進路選択肢のひとつとしての脳外科医の業務・大学院脳神経外科分野の研究内容の紹介、情報提供を行う。				0.05	医学部卒業後の進路選択肢のひとつとしての脳外科医の業務・大学院脳神経外科分野の研究内容の紹介を行った。				
診療	0.20	脳腫瘍、脳血管障害等の中枢神経障害によって運動機能障害を引き起こされた患者を対象に、運動機能回復促進を目的に経頭蓋直流電気刺激(tDCS)、ロボットスーツHALシステムでの訓練を実施する。また、病棟看護師と連携し、運動機能障害を引き起こされた患者の機能回復訓練を実施する。術前検査としての運動機能、言語機能、記憶機能に関わる脳機能の計測を機能的MRIにて実施し、安全な手術療法が実施できるよう患者の脳機能マッピングを行う。また、術中神経機能モニタリングを担当し、安全な手術療法の実施に貢献する。				0.20	脳腫瘍、脳血管障害等の中枢神経障害によって運動機能障害を引き起こされた患者を対象に、運動機能回復促進を目的に経頭蓋直流電気刺激(tDCS)、ロボットスーツHALシステムでの訓練を実施し、良好な回復を得た。病棟看護師と連携し、運動機能障害・日常生活障害を持つ患者の統一的なアプローチが実践できた。術前検査としての運動機能、言語機能、記憶機能に関わる脳機能計測として機能的MRIを駆使し、患者の脳機能マッピングを実施した。結果、安全な手術療法の実施に貢献できた。また、術中神経機能モニタリングの担当者として神経機能モニタリングを行い、安全な手術療法の実施に貢献した。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		片桐 千秋	所 属		医学研究科 脳神経外科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.05	大学院生の実験技術指導		0.10	基礎実験の技術指導および研究の方向性への助言を随時行った。
研究	0.95	高圧酸素療法併用放射線治療によるマウス腫瘍への効果を分子細胞生物学的に解析。TRPM7変異マウスの脂質代謝異常の詳細を生化学的に検討。Fray遺伝子のヒトホモログOSR1とSPAKの低酸素応答への関与を検討。		0.85	高気圧酸素療法併用放射線治療によるマウス腫瘍への効果を組織切片における免疫組織学的検討を行った。TRPM7変異マウスの脂質代謝異常は脂質酸化に関与するPPAR α との関連が強いことが示唆された。Frayの低酸素応答に関してヒトホモログSPAKがグルタミン酸トランスポーターを介した制御に関与することが示唆された。
社会貢献	0.00			0.04	国際放射線神経生物学会、分子細胞生物学会、生理学会、NO学会に参加しこれまでの研究成果を報告し、さらに新たな知見を得て自身の研究や学生等への教育に貢献している。
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.01	基礎研究に進みたいと意向を示した学生に対し、初期研修と大学院を閉校できるプログラムのある大学のラボを紹介し見学を仲介した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		澤口昭一	所 属		医学研究科・眼科学講座
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.24	医学科2年指導教官として生活及び学習指導を行う。眼科臨床研修医師の教育・研究指導を行う。最新の診療データをもとに、緑内障の診断治療に関するレクチャーを行う。医師および学生に対するAV機器を使用した手術教育を行う。最新の画像解析機器を用いた臨床実習を行う。		0.24	指導教官として食事会飲み会で学生との懇親をはかった。最新の画像解析機器(カシヤ、UBM)の臨床実習を行った。眼科臨床研修医師の教育研究指導を行った。医師及び学生に最新の診療データをAV機器を用いてレクチャーを行った。
研究	0.24	緑内障の疫学調査を遂行する。閉塞隅角緑内障の診断治療について最新の画像解析機器を用いた研究を行う。		0.24	疫学調査の論文を2編米国の主要眼科ジャーナルに採用され公表された。レトロスペクティブに閉塞隅角緑内障の発症と眼球形態について研究を行った。
社会 貢献	0.01	アイバンク協会の理事として沖縄県の角膜移植の遂行に尽力する。沖縄県へき地離島医療会議の委員として活躍する。教育センター委託医。 特に視覚障害児の進路判定業務と裁判所の判定業務に従事する。		0.01	アイバンク協会の定期懇談会に出席した。障害者児童の進級判定に関しての会議に出席した。沖縄県心身障害児適正就学指導委員会の委員として適正な身体障害児の進学の判定に貢献した。
管理 運営	0.25	医学部附属病院副院長・大学院医学研究科予算委員会委員/医学科・医学研究科厚生委員会委員		0.25	医学部附属病院副院長・自己点検・評価委員会、医療安全管理委員会、医学科・医学研究科厚生委員会委員に出席した
進路 指導	0.01	指導教官として医学科学生の進路指導を行う。臨床研修指導医として臨床研修および後期臨床研修医師の進路を指導する。		0.01	指導教官として医学学生の進路指導を行った。臨床研修指導医として、初期研修、及び後期研修の指導教育を行いその進路について指導した。
診療	0.25	緑内障を中心とした眼疾患の診断と治療、手術		0.25	緑内障を中心とした眼疾患の診断と治療、手術を引き続き精力的に行った
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		太田 孝 男	所 属	育成医学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	系統講義の自主的な出席率を向上させる。症例に基づき、疾患病態を考える力を育成する。臨床実習ではクリニカルクラークシップを実践し、教科書と実際の患者の違いを認識させ、自分自身で問題を解決する能力を養成する。		0.30	講義の出席率は改善している。年度目標も達成できつつある。	
研究	0.30	小児期の生活習慣病と心疾患発症危険因子の関連解析を周産期の栄養面から検討する。また、わが国の小児期の家族性高コレステロール血症(FH)の実態とFH患児の動脈硬化進展状況の調査研究を行う。研究成果は国際誌に発表する。		0.30	ほぼ年度目標は達成できた。研究成果は5編が国際誌に発表済み。	
社会 貢献	0.10	沖縄県周産期医療協議会委員として周産期医療体制の充実を図る。日本小児科学会代議員として、沖縄県小児科医のレベルアップを図る。日本動脈硬化学会理事として動脈硬化性疾患治療ガイドラインの作成(小児部門)を行う。		0.10	沖縄県の小児医療は充実してきており、沖縄小児科学会会長としての目標は達成できた。動脈硬化疾患治療ガイドラ2013年版の出版できた。	
管理 運営	0.10	育成医学講座教授、附属病院小児科長、附属病院周産母子センター部長として担当部門の教育・研究・診療の充実を図る。環境省エコチル調査の沖縄地区サブユニットセンター長として調査の統括を行う。		0.10	医療事故もなく順調に目標は達成できた。エコチル調査も順調に進んでいる。	
進路 指導	0.00			0.00		
診療	0.20	附属病院小児科での専門外来・病棟の充実を図る。		0.20	2名の医局員が新入局し、外来、病棟共に充実してきている。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		知念安紹	所 属		育成医学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.15	M4学生の講義(遺伝先天代謝異常)、テスト問題作成、OSCE医療面接講義および試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、遺伝カウンセリング研修の医師指導		0.15	・・・M3・M4学生の講義(遺伝先天代謝異常・小児症候学)、テスト問題作成、OSCE医療面接試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。遺伝カウンセリング研修の医師の指導を実施している。
研究	0.20	ムコ多糖症におけるイソフラボン治療の効果、Morquio病の骨髄移植による治療効果、脂肪酸代謝異常症の疾患予防について、環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)		0.25	Morquio病の骨髄移植で9年経過の成果をMGM reportsにて論文アクセプトされた。環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)を担当し、調査地区である宮古島で講演を行った。日本小児科学会誌および琉球医学会誌の査読を行った。アラジール症候群の頭蓋骨早期癒合症について小児遺伝学会で報告した。線維芽細胞を用いたムコ多糖代謝の実験の調整中である。
社会貢献	0.10	Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、		0.05	ダウン症の親の会の相談などサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、
管理運営	0.05	医療機器安全専門委員会、NSTのサポート		0.05	医療機器安全専門委員会の参加、NSTの6階西病棟(小児科)の会議の運営
進路指導	0.10	ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学2年生の指導教官としての役割		0.10	ポリクリ学生の指導相談、M2指導教官として懇親会(2回実施)と事務手続きの連絡や学業・生活相談を行った。
診療	0.40	先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。		0.40	先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 紀子	所 属	小児科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部担当科目(免疫、小児膠原病)を担当し、系統講義、ポリクリ学生に対してベッドサイドティーチング等を行う。初期研修・後期研修医への研修指導を行う。		0.30	系統講義を行い、ポリクリ学生に対して外来・病棟実習を積極的に行った。小児科配属の前期・後期研修医に対して研修指導を行った。	
研究	0.30	小児膠原病に関する臨床研究を行い、積極的に学会発表を行い、論文採択をめざし研究論文を作成する。また、治験への参加し最新の治療に関しての評価を行う。難治性小児リウマチ性疾患の多施設共同研究に参加する。		0.30	日本小児科学会および日本リウマチ学会で発表した。日本小児リウマチ学会では、運営委員として各ワーキンググループ(①MAS, ②JIAの初期治療の改訂, ③小児リウマチ研修会in OKINAWA)の委員として臨床研究を行っている。	
社会貢献	0.20	小児膠原病に関する診断・治療に関して、リウマチ専門医として一般小児科医へ啓蒙のため、諸研究会で講演を行う。また、各保健所において、地域の患者さんと家族に対して、疾患に対する基礎知識や療養の相談を受けるための教育講演を行う。		0.20	小児膠原病に関する診断・治療に関して、リウマチ専門医として一般小児科医へ啓蒙のため、諸研究会で講演を行う。	
管理運営	0.10	小児科外来医長として、外来での診療が円滑にすすむように、安全確保、事故予防、さらに諸問題の解決にあたる。また、院外委託検査委員会等の会議に参加する。		0.10	小児科外来医長として、外来環境の整備(キッズコーナー、待合室・診察室の環境整備、授乳室の整備)を行った。また、院外委託検査委員会会議の出席。感染対策委員(実務者)として、感染予防・感染対策業務を行った。	
進路指導	0.00			0.00		
臨床	0.10	市中小児科での一般診療(救急も含めて)を通して、情報の収集と診療技術の向上をめざす。		0.10	市中小児科での一般診療を行い、診療の補助に貢献。また、その情報を収集し、診療手技を向上させた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		呉屋英樹	所 属		育成医学分野
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学生、研修医に対する講義、実習を通し後輩の教育を行う		0.30	シミュレーションを用いた新生児蘇生をほぼ毎週行えた。
研究	0.20	臨床研究および学会への投稿、発表などを行う		0.10	研究会での発表にとどまった。
社会貢献	0.00			0.00	
管理運営	0.10	NICUのリスクマネージャーとしての役割を担う		0.10	リスクマネージャーとしての役割を担えた。
進路指導	0.00			0.00	
診療	0.50	日常の病棟業務、外来診療など		0.50	入院患者の業務に加え、予防接種外来も充実した。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木幹男	所 属	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.15	系統講義、ベッドサイドティ칭を中心とした学生教育を行う。学生が興味を持ち自ら学習するように患者さんとできるだけ接する機会を増やす。FDに参加する。		0.15	学生教育は力をいれて、行えた。	
研究	0.27	学会誌への投稿や進行中の研究を引き続き行う。国内外の学会でシンポジストをつとめる。		0.30	論文投稿や国際学会、国内学会でのシンポジストとパネリスト、特別講演などをおこなった。	
社会貢献	0.10	沖縄県地方部会の会長、関連学会の評議員・代議員を務め、一般、会員の福祉向上をめざす。学会の特別講師として講演する。公開講座を開催し、広く市民へ耳鼻咽喉科疾患について啓蒙する。		0.10	沖縄県地方部会の会長、関連学会の評議員・代議員を務めた。耳鼻咽喉科学会の専門医講習会で講師として講演した。耳の日、鼻の日、人工内耳講演会を企画実施した。	
管理運営	0.12	臨床科の教授として各種委員会に参加する。副病院長、副医学部長としての役職を務める		0.10	各種委員会に委員、委員長として参加した。副病院長は12月まで務めた。副医学部長としての業務もおこなった。	
進路指導	0.01	指導教官として4年生の学習、生活指導を行う。		0.01	指導学生の勉学、生活指導をおこなった。	
診療	0.35	外来・病棟・手術に診療科長として取り組む。		0.34	稼働率は100%以上を達成し、手術件数増加、在任日数減少と目標を達成できた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		我那覇 章	所 属	耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	学生講義、ポリクリ実習を通し、学生教育を行う。		0.10	講義、ポリクリ実習を通じた学生教育を行い得た。	
研究	0.60	科研費(課題番号 23791914)の研究成果を学会誌への投稿する。 今後、現在進行中の研究の継続を行う。		0.30	科研費(課題番号 23791914)の研究成果を BMC Medical Geneticsに投稿し、論文 Pathogenic substitution of IVS15 + 5G > A in SLC26A4 in patients of Okinawa Islands with enlarged vestibular aqueduct syndrome or Pendred syndromeが掲載された。現在、新たに科研費を獲得し研究を発展させる形で継続中である。	
社会貢献	0.10	市民公開講座や患者団体等における講演やマスコミを通じた耳鼻咽喉科疾患の啓蒙活動を行う。		0.20	①市民公開講座「耳の日」講演会を開催、講演を行った。 ②市民公開講座 高度難聴医療の最前線「補聴器と人工内耳」において講演 ③沖縄県心身障害児適正就学指導委員として障害児の就学指導を行えた。 等の講演や活動を通して社会への啓蒙、療育施設への働きかけが行えた。	
管理運営	0.05	関連する委員会への参加を行う。		0.05	委員会への参加は適宜行ったものの、CBTの運営には参加は出来なかった。	
進路指導	0.05	実習生に対して学習、進路指導を行う。		0.05	実習指導、ポリクリ総括を通じた総合的な耳鼻科教育と進路指導を行い得た。	
診療	0.00	診療科として年間100例以上の耳科手術		0.30	耳鼻科として年間100件以上の耳科手術を行い得た。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜友名 朝則	所 属		医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.10	学生講義に過去の国家試験問題を取り入れながら学生の学習意欲をかきたて、さらに実習では患者さんとの接し方などより実践的な教育を行う。さらに研修医に対しても耳鼻咽喉科の知識を幅広く指導する。			0.05	学生の講義に関しては問診の取り方、診断のアプローチの仕方を中心に臨床に即した講義を行い、なるべく興味を持てるよう努力した。		
研究	0.25	音声と脳機能に関する研究を引く続き行う。また、音声の分析に関する機器を用いて、音声に関する研究を進めていく。これまで行ったデータをもとに学会発表、論文投稿を行う。			0.30	音声と脳機能に関する研究が計画通り行えた。国内学会へ報告し、論文へも投稿した。		
社会貢献	0.03	耳の日、鼻の日講演会などの地域貢献事業に積極的に助力を行う。			0.01	耳の日、鼻の日講演会などの地域貢献事業に助力した。		
管理運営	0.10	病棟医長として病棟が無駄なく円滑に回転するよう勤める。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努める。			0.10	病棟医長として病棟が無駄なく円滑に回転するよう勤めた。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努めた。		
進路指導	0.02	当院への就職希望の学生に対して積極的に相談に応じる。			0.01	当院への就職希望の学生に対して積極的に相談に応じる機会が少なかった。		
診療	0.50	音声障害、嚥下障害、唾液腺疾患、頭頸部癌の保存的治療、手術治療にとりくむ。			0.53	計画通り音声障害、嚥下障害、唾液腺疾患、頭頸部癌の保存的治療、手術治療にとりくんだ。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		近藤 毅	所 属	医学研究科・精神病態医学講座	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	1. 医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2. 医学研究科学生に対し、精神病態医学および心身医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。		0.20	1. 医学部学生に対し、精神医学系3コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・医学概論・TBL各1コマを担当し、臨床実習では総括を行った。 2. 医学研究科学生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として6名の研究指導を行った。	
研究	0.25	1. 専門領域である精神薬理学的研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2. 臨床精神医学の一般領域における研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。		0.25	1. 大会長として第23回日本臨床精神神経薬理学会・第43回日本神経精神薬理学会合同年会を沖縄にて主催した(2013.10.24-26)。 2. 社会精神医学関連で3編の論文発表を行い、国際自殺予防学会(2013.9.24-28)にて共同演者として学会発表を行った。	
社会 貢献	0.10	1. 精神疾患に対する偏見の改善や認識の向上に向けて、地域住民やゲートキーパー層への教育・啓発的介入を継続的に実践する。		0.10	1. 自殺予防活動の一環として、地域住民(那覇市)、コメディカル(南部福祉保健所)や一般医(那覇市医師会)への教育・啓発講演を行い、沖縄県自殺対策連絡協議会の委員を務めた。	
管理 運営	0.20	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行う。 2. ハラスメント相談室長として学内のハラスメント相談にあたるとともに、ハラスメント相談室員会議を主催し、相談員の質の向上に努める。		0.20	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。 2. 医学部の教務委員会・学務委員会・倫理審査委員会等の委員を務めた 3. 全学のハラスメント相談室長およびハラスメント防止委員会副委員長を務めた。	
進路 指導	0.05	1. 若手医師が専門医取得に向けて臨床研修機関を選択する際や、学際的な知識・技術の向上のため国内および国外留学を希望する場合に進路相談を行う。		0.05	1. 若手医師の精神保健指定医および専門医取得に向けて必要な教育・指導を行った。 2. 精神科研修委員会・地域医療推進委員会を運営・開催し、専門研修の充実を図った。	
診療	0.20	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、初期・後期臨床研修医の診療力の向上を図る。		0.20	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科では心身症を中心とした患者の診療を行った。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		三原一雄	所 属		精神病態医学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	1)学生・研修医が精神科的視点を持った診療を理解できるようにする 2)教育連絡主任会議に参画し、新たな教育方法を習得する 3)OSCEの医療面接に責任者として参画する 4)研究内容を教材として用い、教育に反映させる		0.25	1)学生・研修医に予診を担当させ、精神科的な診療を理解できるように努めた 2)学生および研修医からのフィードバックを重要視した 3)平成25年度はOSCE医療面接の責任者担当者として、積極的に参画した 4)学生・研修医が精神科に興味を持つように、研究内容を紹介した
研究	0.15	1)全国学会での報告発表に貢献する 2)海外の学術誌へ論文の投稿を行う 3)全国学会を事務局として主催し、学術活動に貢献する 4)学会賞あるいは研究費の獲得を目指す		0.20	1)研究グループとして、全国学会2題、シンポジスト1題の研究発表を行った。 2)論文3本を国外の英文雑誌に投稿し、審査を待っている 3)事務局長として参加者1500人の規模全国学会を主催した 4)学会賞・研究助成金は獲得できなかった
社会 貢献	0.10	1)精神保健判定医として医療観察法関係研究協議会に参画する 2)児童扶養手当法に関する審査業務の認定医として参画する		0.10	1)医療観察法関係研究協議会に参加し、更に、那覇地方裁判所より医療観察法に基づく、入院または通院処遇事件の精神保健審判員に任命されている。 2)児童扶養手当法に関する認定医として、毎月2回の認定を行った
管理 運営	0.10	1)救急部運営委員会・材料部委員会・医療品安全管理専門委員会・キャンサーボード運営委員などの院内委員会に携わる 2)卒後臨床研修センターのセンター員として研修医のメンタルヘルスサポートを行う 3)安全衛生委員会のカウンセラーとして職員の安全と健康の維持・増進に努める		0.10	1)医療材料検討委員会、救急部運営委員会、医薬品安全管理専門委員会、キャンサーボード運営委員に携わった。 2)卒後臨床研修センター員として、研修医のメンタルヘルスサポートに積極的に関わった。 3)安全衛生管理委員会のカウンセラーとして安全衛生委員会に携わった。
進路 指導	0.05	1)学生および研修医が率直に意見を述べることのできる聴取する機会を増やす 2)学生および研修医から積極的に意見を聴取する 3)学生および研修医の学習法および進路指導に関して、適切な助言を与える		0.05	医局説明会・後期研修説明会を開催することで 1)学生および研修医の進路指導に適切な助言を与えた 2)学生および研修医から積極的に意見を聴取した。 3)教育および進路指導に関して、適切な助言を与えた。
診療	0.35	1)認知行動療法、弁証法的行動療法などの新たな診療技術および治療技法の獲得に努める 2)精神保健指定医として隔離・拘束等による患者の行動制限の最小化に努める 3)患者サービスの向上に寄与する		0.30	1)弁証法的行動療法など新たな診療技術および治療技法の獲得に努めた 2)精神保健指定医として休日・夜間でも病棟からのコールに対応し、患者の行動制限の最小化に努めた 3)経過が安定している症例には転院を促し、一人一人の患者さんのの診療時間を十分に確保し、患者サービスの向上に寄与した
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	島袋 盛洋		所 属	医学部		職 名	助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0.20	臨床研修医については、臨床現場において週当たり、約10時間の指導を行った。医学部生については、2週間に1回の講義および臨床実習の指導を行った。				
研究	0.10	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0	行わなかった。				
社会 貢献	0.10	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0.2	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行った。那覇市にて思春期の自殺予防の講義を2回行った。				
管理 運営	0.10	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0.1	病棟医長としての業務を行った。				
進路 指導	0.05	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0.05	年間を通して 若手医師の進路指導および助言を行った。				
診療	0.45	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う		0.45	精神科全般についての診療および児童思春期外来業務を行った。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲本 讓	所 属	医学研究科・精神病態医学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	医学部学生に対して、精神医学の系統講義を行う。また、臨床実習においては予診の取り方や、ロールプレイを用いたうつ病患者さんへの問診法について講義・実習を行う。		0.20	・・・3年次を対象に「コンサルテーション・リエゾン精神医学」の系統講義を行った。また、5, 6年次を対象に「ロールプレイを用いたうつ病患者さんへの問診法」「精神保健福祉法」について講義を行った。ポリクリ学生に対しては本診察や病棟実習を通して精神症状の評価・治療についての指導を行った。	
研究	0.20	一般医に対するうつ病の認識・希死念慮への対応について啓発講演を行い、その効果について比較研究を行う。その研究結果を学会および論文にて発表する。		0.20	・・・一般医に対するうつ病の認識・希死念慮への対応について論文を作成中である。研究内容の一部についてノルウェーで開催された国際自殺予防学会で発表を行った。	
社会貢献	0.05	自殺予防活動の一環として、一般住民や一般医に対してうつ病の啓発講演を行う。		0.05	・・・県で実施した自殺予防相談メール事業のアドバイザーとして、返信メール内容の監修を行った。	
管理運営	0.20	琉球大学附属病院の副外来医長として外来業務運営に関するサポートを担う。病棟ではグループ長として安全管理や研修医・学生への指導を行う。		0.20	・・・副外来医長として外来での逆紹介推進について強化を行った。グループ長として学生・研修医の指導を行い、グループ内患者のリスクマネジメントを行った。	
進路指導	0.05	初期研修医や後期研修医に対して、将来の進路の参考になるよう助言・相談を行う。		0.05	・・・初期研修医・後期研修医むけに「認知行動療法」「摂食障害」に関する講義を行った。往診でせん妄患者さんへの対応・薬物療法について指導を行った。将来どの科に進んでも役に立つ知識・面接技術について指導を行った。	
診療	0.30	外来診療、病棟業務に従事する。		0.30	・・・外来において新患および再来患者の診療を行った。病棟では主治医およびグループ長として担当患者の診療を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	成富研二		所 属	医学部 遺伝医学講座		
職 名	教授					
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学の講義内容を最新のものに改定する ・医学英語の講義内容をより総合的なものに改善する 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学講義内容についてビジュアル的教材を増加させた ・医学英語の講義に電子辞書・ネット検索の充実, DVDによる聞き取りを取り入れた 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝性疾患データベースのアップデートと翻訳作業を推し進め、琉球大学HPからの公開をさらに充実させる ・次世代シーケンサーを使った遺伝子解析を行う 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝性疾患データベースをOMIMやその他の文献を参考に毎日アップデートし、さらに翻訳作業を継続した ・次世代シーケンサーによる遺伝子解析により新しい責任遺伝子を発見し報告した 	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性疾患協議会のメンバーとして沖縄県の小児医療に貢献する ・遺伝性疾患データベースと診断補助ソフトウェアを全国の医師に公開し、日本全国の遺伝医療に貢献する 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性疾患協議会のメンバーとして県庁での8回の会議に出席した ・遺伝性疾患データベースと診断補助ソフトウェアを全国の医師に公開し、診断ソフトの登録医師数が1800名を超えた 	
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究評議会評議員として琉球大学の運営に参画する ・ヒトゲノム倫理審査委員会委員長として琉球大学でのヒトゲノム研究に寄与する 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究評議会評議員として琉球大学の運営に参画した。またハラスメント調査委員会やその他の委員会委員として参画した ・ヒトゲノム倫理審査委員会委員長, および疫学倫理審査委員として琉球大学でのヒトゲノムおよび疫学研究申請の審査を行った 	
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生指導教員として学生を総合的にサポートする ・学生の将来の進路についての助言を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・学生指導教員として指導学生を総合的にサポートした ・学生の将来の進路についての助言した 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		要 旨	所 属	医学研究科医・遺伝医学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎配属学生への実験・研究指導を行う。 ・遺伝医学における最新の動向を講義・指導に取り入れる。 ・研究業績を取り入れた講義を行う。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎配属学生への実験・研究指導を行った。 ・次世代シーケンサの進展、1000人ゲノムプロジェクト、1000ドルゲノムプロジェクト、遺伝子解析における偶発的所見など最新の知見を取り入れた講義を行った。 ・遺伝子解析など遺伝医学分野で行っている内容を取り入れた講義を行った。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を学会で発表する。 ・競争的資金の獲得を目指す。 ・共同研究(学内、学外の大、研究施設など)を行う。 ・研究成果を研究誌へ投稿する。 ・学術誌の運営に貢献する。 ・学会へ提言、助言等を行い、学会運営へ貢献する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・人類遺伝学会(日本、米国、欧州)、日本分子生物学会、日本先天異常学会等で成果発表、シンポジウム講演、座長等を行った。 ・厚生労働省研究費補助金を獲得した。 ・国立遺伝学研究所、長崎大、名古屋市立大、東大、横浜市立大、沖縄総合科学研究所等と共同研究を行った。 ・JHG, AJMG, BMC Med Genet等の雑誌へ論文を発表した。 ・AJMG, JHG, IAM, Pediatrics International, JMV等の投稿論文の審査を行った。 ・先天異常学会、人類遺伝学会等の評議員会へ参加した。 	
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の学術委員会等へ参画する。 ・学術誌の編集委員を務める。 ・地域貢献へ向け、実験講習会や講義などの教育を行う。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄高等工業専門学校の遺伝子組換え安全委員会へ参画し、申請審査等を行った。 ・IAM, IJGGの副編集長、編集委員として編集を行った。 ・学外で開催されたDNA体験講座、講習会での講義、実習指導を行った(熊本大学、北海道医療大学)。 ・沖縄リハビリテーション学院で言語発達障害学の講義を行った。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内委員会などに参加、貢献する。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内ハラスメント担当相談窓口を担当した。 ・H26年度大学センター試験の監督を行った。 ・CBT作成問題を作成した。 ・CBT試験監督を行った。 	
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学生(指導学生等)に対し、勉学や生活などに関する話す会を開く。 ・学生の将来的進路(診療科など)に関して助言を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・指導学生と勉学や生活などに関して話し合う会を開いた。 ・6年次学生、5年次学生より進路について相談を受け、助言を行った。 ・6年次学生の推薦状を作成した。 	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山根 誠久	所 属		大学院医学研究科先進検査医学講座
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.20	系統講義の世話人を務め、自らは論理性と想像力を培う講義方法に努めた。 大学院教育では、受講院生の研究指導を務めた。 臨床実習では、検査部と輸血部の実習で臨床検査技師との協調を培う機会を提供した。また、保健学科学生3名について卒業研究を指導した。
研究	0.25	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.25	3件の原著論文を誌上発表した。また、全国規模の国内学会にて3件の研究発表を行った。 九州地区で3つの研究会を継続して企画、開催した。 奨学寄付金(4件、245万円)、受託研究事業(3件、112万円)の外部資金を獲得した。
社会貢献	0.04	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.04	九州臨床検査精度管理研究会の会長として九州地区の精度管理を推進すると共に、沖縄県では沖縄県医師会臨床検査精度管理委員会解析委員長を務め、沖縄県における検査成績の互換性保証に尽力した。 受託研究から薬剤耐性菌のサーベイランス事業に参画した。
管理運営	0.10	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.10	委員として出席が求められている各委員会に出席するように努力した。 検査部運営協議会を年度内に開催したが、輸血部運営協議会は開催できなかった。
進路指導	0.01	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.01	講義と臨床実習で、医学科学生に対して心得るべき臨床医としての資質と研鑽について自らの経験を伝承した。
診療	0.40	担当する系統講義で、医学的判断において特に求められる論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。		0.40	検体検査管理加算(IV)の施設基準を取得し、必要な要件を満たすことができた。 外来迅速検体検査加算の算定が可能な病院情報管理システムの整備を図り、50%を超える算定率を確保するに至った。 検査部運営協議会にて、外部委託検査と院内検査の整合性と可否を検討した。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		戸田 隆義	所 属	先進臨床検査医学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	臨床実習の一環として、ポリクリ学生の学生実習の指導を行う。臨床医あるいは、研究者として必要な英語論文を理解できるように、医学英語の教授指導を行う。		0.35	臨床実習の一環として、ポリクリ学生の学生実習の指導を行っている。臨床医あるいは、研究者として必要な医学論文を理解できるように、医学英語の教授指導を行った。	
研究	0.33	生活習慣病の代表である動脈硬化症の成因には色々な説があるが、炎症説が、有力視されている。食事中のリン脂質は、3-8%であるが、脂質代謝改善作用があり、また免疫機能にも関与する事が報告されている。今回は、リン脂質と自己免疫性肝炎マウスモデルを用いて、リン脂質の肝炎に及ぼす影響を検討する。		0.35	研究成果は、Molecular Nutrition and Food Research.2013;57(9);1671-1679に発表した。	
社会貢献	0.17	地域医療に貢献するために、地域病院の外科病理診断および病理解剖業務を行。沖縄県の健康維持と改善の啓蒙を目的として、癌の早期発見および生活習慣病の予防に関する公開講座を計画開催する。		0.15	地域医療に貢献するために、地域病院の外科病理診断および病理解剖業務を行っている。沖縄県の健康維持と改善のため、癌の早期発見および生活習慣病の予防に関する公開講座を準備していたが、台風直撃のため、延期を余儀なくされた。	
管理運営	0.15	検査部業務の適切かつ円滑な運営および医療過誤を防止するために、リスクマネージャーとして、定期的に臨床各科のリスクマネージャーと意見交換を行う。		0.15	検査部運営の適切かつ円滑な運営および医療過誤を防止するために、リスクマネージャーとして、定期的に臨床各科のリスクマネージャーと意見交換を行っている。	
進路指導	0.00	ない		0.00	なし	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		潮平 知佳		所 属	大学院医学研究科先進検査医学講座		職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 部局内検査技師および学生研究研修業務および研究業務に関する指導および相談。 医学科運営の教育連絡主任を努める。 			0.20	部局内の研究に係る機器に対する指導及び相談を行った。医学科教育連絡主任担当連絡業務を行った。学科内の試験業務を行った。			
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 多剤耐性結核菌の薬剤耐性メカニズムの解明および遺伝学的多様性の解析。 Live/Dead染色を用いたフローサイトメトリ法での尿中酵母真菌細胞の解析 			0.40	結核菌の遺伝学的分類に関する他施設との共同研究の成果のまとめ論文投稿への準備、および臨床研究「Live/Dead染色を用いたフローサイトメトリ法での尿中酵母真菌細胞の解析」を推進中。学内外で開催された研究に関する最新技術や最新機器に関する研修やセミナーに積極的に参加した。			
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の学会発表。 学会誌への論文投稿。 学外研究会および研修会への参加。 			0.20	学内外の学会や研究会に参加し、また研究会開催運用に協力した。			
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 部局内の劇毒物薬品管理および報告業務。 入試関連業務。 本学学術リポジトリのための部内管理。 医学科運営会議教育連絡主任業務。 			0.20	全学的委員会(琉球大学エコロジカル・キャンパス推進委員会)においてエコアクション21に係る部局内の毒物および劇物管理および報告業務を行った。医学科内の化学薬品取扱責任者としての管理・報告業務を行った。入試関連業務を行った。			
進路指導	0.00				0.00				
	0.00				0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	高山千利		所 属	医学研究科・分子解剖学講座	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科修士課程・博士課程の学生に対するe-learningシステムを構築する。 ・医学部1年次・2年次の学生に対して組織学・神経解剖学・発生学の講義・実習を行い、基礎医学学力の向上に努める。 ・医学部4年次学生に基礎研究の指導を行い、研究者マインドの涵養に努める。 ・離島実習、地域医療セミナー、患者付き添い実習、体験実習を企画し、引率、まとめなどを行いながら、沖縄県における地域医療の実情を体得できるよう努める。 ・総合試験、CBTなどの問題作成・ブラッシュアップをすると共に統括する。 	0.30	大学院・医学部ともに、講義・実習を行った。学部において、本年度は2学年同時進行で行った。 基礎配属3名の学生に対し、光学顕微鏡・電子顕微鏡を用いた研究を指導し、学生の研究への関心を高めることが出来た。 医学教育企画室の業務を発展させ、地域医療教育教育の実践、総合試験の実施と適正な評価を行った。		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院博士課程の学生の研究指導を行い、4人の学位論文を完成する。 ・現在執筆中の上記学位論文4本を受理させ、そのほか論文2本以上を投稿する。 ・学内・学外との共同研究(概算要求事項)をすすめ、期間内に共著論文を投稿する。 ・新規科研費獲得に向けて申請書を作成する。 	0.30	大学院博士課程の学生2名の学位論文を作成し、学位取得に向けて準備を進行している。 論文を2報受理させ、共同研究論文3報が受理された。 新たに2件の研究費(財団研究助成金)を獲得した。		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人 沖縄県医科学財団の監事・専門部会委員長として理事会・評議会・専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に寄与する。 ・沖縄県地域医療協議会委員として沖縄県の地域医療に貢献する。 	0.05	沖縄県医科学財団の監事・専門部会委員長として、運営を行った。		
管理運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント関連の委員・規約策定メンバーとして琉球大学からあらゆるハラスメントが追放されるように努力する。 ・医学部附属動物実験施設長(兼全学動物実験委員長)として、組織の管理・運営、改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展するように努める。 ・医学教育企画室長、教務委員長、ARTプログラムWG委員長として、率先してカリキュラムの改変、学生への介入の強化を行い、学力の向上、医師となるための技術の向上、国家試験合格率の向上、大学院充足率の向上を進める。 ・医学部・医学研究科教授、様々な委員として医学部・医学研究科の管理運営に参加する。 	0.35	各種委員長として琉球大学、医学部のために尽力した。 動物実験計画申請書の入力システムを完成した。 総合試験実施のプログラムを整備した。 カリキュラム全面見直しの作業を行っている。		
進路指導	0.00		0.00			
	0.00		0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		岡部明仁		所 属		医学研究科・分子解剖学講座		職 名		准教授	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成25年度 年度末自己点検結果			
教育		0.55		<ul style="list-style-type: none"> 医学部第1学年次生に対して組織学の講義及び実習を行う。 医学部第2学年次生に対して解剖学II及び神経解剖学の講義・実習を行う。 医学部第2学年次生に対して発生学の講義を行う。 医学部第4学年次生に対して基礎研究の指導を行う。 医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習を行う。 		0.65		<ul style="list-style-type: none"> 医学部第1学年次生に対して組織学の講義及び実習を行った(合計6コマ)。また、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行った(合計8コマ)。 医学部第2学年次生に対して解剖学IIの講義・実習を行った(合計17コマ)。また、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行った(合計8コマ)。 脳実習の実習ポイントをまとめたビデオを作製し、提示した。その結果、昨年度よりも学生の実習に取り組む姿勢が大幅に改善されたと感じた。 医学部第2学年次生に対して発生学の講義を行った(1コマ)。また、臨床奇形の分野の講義に参加し定期試験及び再試験の問題作成を担当した(合計5コマ)。 上記の担当した講義・実習について、定期試験及び再試験問題を作製した。 医学部第4学年次生3名に対し、基礎研究の指導を行い、その結果を本講座のWebサイトで公表した。 医学部第4学年次生に対し、第三内科伊佐先生を責任教員としてTBLの講義を担当した(1コマ)。 			
研究		0.45		<ul style="list-style-type: none"> 本年度科学研究費補助金を獲得できなかったため、来年度の取得を目指す。 本年度の研究を遂行するための外部資金獲得を目指す。 大学院博士課程の学生の研究指導を行う。 現在執筆中の論文1本を投稿する。 兵庫医科大学生理学生体機能部門(荒田准教授)との共同研究を進め、期間内に学会発表を行う。 		0.33		<ul style="list-style-type: none"> Neuroscience Lettersに共著者として投稿中。 日本神経科学会にて筆頭著者として発表した。 また、その結果をもとに現在論文を執筆中である。 医学部2年次学生及び博士課程大学院生に研究指導を行った。 科学研究費補助金(基盤研究C)に応募した。 			
社会貢献		0.00				0.01		<ul style="list-style-type: none"> 琉球リハビリテーション学院の夜間部(理学療法及び作業療法学科)にて解剖学IIの講義を15コマ担当し、定期試験及び再試験問題を作製した。 那覇市立看護学校、消防士学校、歯科衛生士学校に対し、本学にて一般解剖の実習見学を行った。 沖縄リハビリテーション学院(補助教員として)、琉球リハビリテーション学院(責任教員として)の第2学年次生に対して、本学にて神経解剖学・脳実習の実習見学を行った。 			
管理運営		0.00				0.01		<ul style="list-style-type: none"> 極低温センター運営委員会2号委員に任命された(至H27年3月31日)。 GBTブラッシュアップ検討委員会第一班班員として参加し、ブラッシュアップ及びGBTの問題作成を行った。 大学入試センター試験監督(主任監督員) 			
進路指導		0.00				0.00					
その他		0.00				0.00		<ul style="list-style-type: none"> 「女性研究者研究活動支援事業」に基づく「研究補助員制度配置制度」について、琉球新報より取材を受け、掲載された。 「女性研究者研究活動支援事業」に基づく「研究補助員制度配置制度」についてRBCより取材を受け、「沖縄BON」内のコーナーで報道された。 			
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大倉信彦	所 属		大学院医学研究科分子解剖学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.50	昨年に引き続き、学部担当科目(生命科学, 組織学, 発生学, 基礎研究)の講義ならびに実習を分担する。昨年導入した、組織学各論開始時のTBLを改良する。これまでに作製した教材の改良に努める。CBT問題作成を担当する。教育連絡主任として、医学部教育の改善に貢献する。		0.60	学部担当科目について、パワーポイントを使用した講義教材をさらに改良し、講義と実習を実施した。改良された教材はオンライン学習システム(ウェブクラス)にアップロードし、学生の自習の便を図った。組織学実習においてTBLを継続実施するとともに、実習の要点を定着させるためのグループ口頭試問を導入した。教育連絡主任医学部教育の改善に貢献した。
研究	0.40	二型精子の研究を継続して行う。カワニナを材料として、二型精子の雌性生殖道における動態を詳細に調べる。人体解剖学分野との共同研究で、ホヤ卵の受精に関する研究における形態学的解析を分担する。これらの研究結果を学会発表し、学術雑誌に掲載する。		0.30	二型精子研究については、目標に掲げた研究は継続中である。人体解剖学との共同研究の一部は、日本動物学会第84回大会で発表された。
社会貢献	0.10	地域のコメディカル教育(那覇看護専門学校)に協力する。解剖生理学の講義および解剖見学実習を通して、看護職の基盤教育に貢献したい。その他に、地域団体等からの要請があれば、一般市民を対象に、二型精子の研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う。		0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能(解剖生理学)の講義と解剖実習見学を行った。
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.00	
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	清水 千草		所 属	医学研究科・分子解剖学部門	
職 名	特命助教				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.50	医学部2年次学生に対し、組織学・神経解剖学の講義・実習を行う。 医学部4年次学生に対し、基礎研究の指導を行う。 医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習等を行う。	0.39	*医学部1及び2年次学生に対し、組織学・神経解剖学の講義・実習に参加し、学生への指導を行った。実習中は学生に質問をし、わからない部分をともに考えるようにした。 *医学部4年次3名生に対し、基礎研究の指導を行い、その結果はWebサイトで公表した。	
研究	0.50	医学研究科博士課程の学生に対して、研究指導を行う。 現在執筆中の論文を1本完成させ、投稿する。 第2内科及び分子・細胞生理学講座との共同研究を推進し、共著論文を投稿する。	0.60	*医学部2年次学生及び博士課程大学院生、理学部海洋自然研究科博士課程大学院生に研究指導を行った。その成果を、日本神経科学会、韓国解剖学会学術集会、韓国獣医学会にて、学生が発表を行った(清水は共著者)。 *日本神経科学会にて共著者として発表した(2報)。 *内藤カンファレンスで筆頭著者として発表を行った。 *Neuroscienceに1報論文が受理された(共著者)。さらに1報投稿中である。 *第二内科との共同研究の論文を1報現在投稿中である。 *解剖学雑誌に「子持ち研究者、日本解剖学学会男女共同参画ワークショップに参加する」を寄稿した。 *分子・細胞生理学との共同研究については、現在進行中であり、論文を投稿準備中である。 *科学研究補助金基盤研究(C)「胎児期における抑制性GABAシナプスの構築と呼吸リズム」に採択された(代表、437万円(間接経費含む))。 *すかいらくフードサイエンス研究所研究助成について研究を行った。(代表:高山千利、研究分担者:清水千草、190万円)。 *人・健康・未来研究財団研究助成について研究を行った。(代表:高山千利、研究協力者:清水千草、100万円)。 *沖縄県知的・産業クラスター形成推進事業(国際共同研究事業)[生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発]について研究を行った。	
社会貢献	0.00		0.01	*沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院に対し、神経解剖学の実習を行った。 *那覇市立看護学校、消防学校、歯科衛生士学校について、人体解剖学の実習を行った。	
管理運営	0.00		0.00		
進路指導	0.00		0.00		
その他	0.00		0.00	*RBCより研究補助員制度について取材を受け、その様子が放送された。 *「女性研究者研究活動支援事業」に基づく「研究補助員制度配置制度」について、琉球新報より取材を受け、掲載された。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		陣野吉廣		所 属		医学研究科ゲノム医科学講座		職 名		教授	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成25年度 年度末自己点検結果			
教育		0.49		1. 誠心を込めて生命科学の講義を全うする。 2. 医学英語を通して医学への関心を高める。		0.49		1. 誠心を込めて生命科学の講義を全うした。 2. 医学への関心が高まったか尋ねるのを失念した。			
研究		0.50		学会発表および次の論文を目指して実験を進行させる。		0.50		1. データを出して学会に発表した。 2. 京都大学との共同研究を開始した。			
社会貢献		0.00				0.00					
管理運営		0.01		大学入試面接委員としての役割を果たす。		0.01		2月、3月に役割を果たすことになる。			
進路指導		0.00				0.00					
		0.00				0.00					
計		1.00		・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00		・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前	小田 高也		所 属	大学院医学研究科・ゲノム医科学講座		職 名	准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.10	(学 部) ・ H24年度に実施した授業評価に基づく1年次担当講義(生命科学)の改善。H24年度単位不認定者に対するfollow up。 ・ 1年次新規カリキュラムを担当(シミュレーション演習#12)。 ・ 教育連絡主任としての医学科教育への貢献。 (大学院) ・ 教授担当講義の代行予定(7月25日分)。	0.20	(学 部)・M1前期の生命科学では、本年度よりウェブクラスを利用して専門用語の解説をおこなった。また、昨年度受講生からの要望により小テストを複数回実施した。本試験終了後に希望者(8名)に対し答案を開示し、採点の解説と履修指導を行った。また、講座の主任教授が担当する2年次の医学外国語の8コマを代行した。M1前期のシミュレーション演習では「見る・聞く・触る体験8」を担当した。M5の倫理総合討論では、昨年に引き続き『遺伝子診断』をテーマとしてG2グループを担当した。 (大学院)・医学研究科博士課程コース共通科目 #8を担当した。				
研究	0.84	・ 研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため、胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物の細胞核内での挙動を検証する。 ・ H26年度『科学研究費補助金』の申請に向けて、上記遺伝子の細胞内挙動を決定し、既知の核内構造体との相互作用を検証するという予備実験を行う。	0.74	・ 左記のテーマに基づき研究を進めているが、培養細胞で強制発現させた当該転写物の安定性を左右する核酸領域の絞り込みをおこない、複数の実験方法で確認した。これは、新規の発現ベクターの開発につながる知見であり、H26年度『科学研究補助金』の課題として申請した。				
社会貢献	0.00		0.00					
管理運営	0.01	・ H24年度末より引き継いだハラスメント相談室相談員として、キャンパスにおける健全な環境維持に貢献する。	0.01	・ ハラスメント相談室相談員として3回の会議に出席した。				
進路指導	0.05	・ 担当する医学科6年次の指導学生11名に対する履修および進路指導。また、メンタルヘルスに対するケアを要する場合に迅速に対応できる体制をとる。 ・ オフィスアワーおよび前後期の懇談会を通して、卒業後の進路決定に関する情報を提供する。	0.05	・ H20年入学生9名、H21年2年次編入生1名、H16年入学生1名を担当している。 ・ 前後期の懇談会を通して担当学生と接し、臨床実習および卒業後研修病院選定等に関する指導を行った。 ・ 11月に実施された卒業判定では、担当学生全員が卒業認定されたものの、合格ラインにかなり近い者が数名いた。該当する学生には臨時的懇談会を通じて徹底した指導を行った。				
	0.00		0.00					
計	1.00	・ ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・ 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・ 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石田 肇	所 属		医学研究科人体解剖学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	2年次解剖学総論の授業数を増やし、内容を充実させる。解剖学実習前の説明を行うとともに、骨学、解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。4年次基礎研究で実施する局所解剖学実習の効果を筆記試験等で定量的に判定、評価する。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促す。今年度から始まる1年次の解剖学総論と骨学実習については、厳格な成績評価を実施する。			0.25	2年前期の解剖学総論、骨学の授業数を増やし、試験も厳格化し、再試験を実施した。解剖学実習では、ご献体の死因について調査させ、また、解剖所見を提出させることにより、実習の実質化をさらに進めた。局所解剖学としては、耳鼻咽喉科の協力を得た。Webclassについては、講義前資料、実習資料を常に掲載し、自主学習を促した結果、アクセス数は一資料あたり、300を超えた。1年次についても同様の講義、実習を実施しており、早期の専門教育導入に対応した。		
研究	0.30	基盤研究A, B(分担)などをもとに北里大学および北海道大学と連携し、琉球列島の人々の遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学などの形質人類学研究を進め、アメリカ形質人類学雑誌等のインパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。科学研究費獲得インセンティブ経費に応募し、11月に大型科研費を申請する。			0.30	基盤研究A, B(分担)などをもとに北里大学や東京大学と連携し、琉球列島の人々の遺伝学や形質人類学研究を進め、DNA ResearchおよびJournal of Human Geneticsなどに論文を掲載できた。科学研究費については、10月に基盤研究(A)が追加採択された。また、法文学部の池田栄史教授とともに、中期計画実現経費により、台湾調査を実施した。		
社会貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定、北海道大学からアイヌ遺骨の整理を依頼されているので実施する。			0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力を実施した。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図った。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定、北海道大学からアイヌ遺骨の整理を依頼され、これを実施した。		
管理運営	0.25	医学科長として、学部長の補佐をするとともに、入試委員長として、業務に当たる。入試改革を進め、入学生の質保証を進める。県内各高等学校入試説明会並びに高等学校校長会との懇談会、朝日新聞社主催の入試説明会に出席し、受験生の質の確保を図りたい。			0.25	医学科長として、学部長の補佐をするとともに、入試委員長として、業務に当たる。入試改革を進め、地域枠学生をすべて推薦入試から採った。県内各高等学校説明会、八重山地区説明会、朝日新聞社主催の入試説明会に出席し、受験生の確保を図った。地域枠学生の定員増を図っている。また、医学教育企画室員として、国際認証に向けたカリキュラム改革を進めた。		
進路指導	0.10	今年度は、1年次指導教員および医学科長として、積極的に学生の進路相談に応じる。とくに1年次については、新たなカリキュラムに対応できるように随時相談に応じる。			0.10	今年度は、1年次指導教員および医学科長として、積極的に学生の進路相談に応じた。1年次については、たびたび、指導教員として、会を持った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		泉水 奏	所 属	医学部人体解剖学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	教育連絡主任としての業務をおこなう。解剖I、基礎配属の実習において、肉眼解剖的構造が細胞組織学的知識と関連づけ、さらに生理学的視点からの理解が深まるよう、そして臨床との関連についての学生へ指導と説明を行う。		0.40	教育連絡主任としての業務をおこない。解剖I、基礎配属の実習において、肉眼解剖的構造が細胞組織学的知識と関連づけ、さらに生理学的視点からの理解が深まるよう、そして臨床との関連についての学生へ指導と説明を行なった。	
研究	0.50	細胞外pH 上昇による卵受精能獲得において、受精プロセスとの関係の研究を進め本年度動物学会で発表を行う。また細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿する。精子誘引の種特異性に関する論文を投稿する。JAMO共同研究および科研を申請する。		0.50	細胞外pH 上昇による卵受精能獲得において、受精プロセスとの関係の研究を進め本年度動物学会で発表を行なった。細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の準備を進めたが投稿に至らなかった。精子誘引の種特異性に関する論文を投稿し受理された。JAMO共同研究を申請し採択された。	
社会 貢献	0.1	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する		0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献した。	
管理 運営	0.00			0.00		
進路 指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松下正之	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	学部学生 1)生理学Iの授業・実習により生理学への理解を深めさせる。 2)国家試験レベルのミニテストなどを講義終了時に行う。 3)授業に対するアンケートを実施し、今後の改善点とする。 4)研究成果を紹介し、学生の基礎医学に対する興味を喚起する。 5)授業資料はホームページでも閲覧可能とする 大学院学生 1)生理学概論や各論の授業により、研究に必要な考えを習得させる。 2)4人の大学院生の研究指導を行い、学位論文の作成指導を行う。		0.10	生理学Iの授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる、基礎医学に対する興味を喚起することができた。その結果として、3人程度の学部学生が授業終了後に、自主的に研究室でプロジェクトを持ち実験を行っている。平成25年度の目標に関しては、すべて達成している。大学院生3名の研究指導を行い、学会発表をや論文投稿を行った。
研究	0.30	1)現在論文執筆中の責任著者論文を2～3報投稿する。 2)平成26年度概算要求(ガスバイオロジー)の採択を目指す。 3)JSTなどの大型研究費の獲得を目指す。 4)現在行っている沖縄大学院大学との共同研究を推進する。 5)医学部で獲得している2件の概算要求プロジェクトに貢献する。 6)平成25年度新規採択された科研基盤(B)研究計画を推進する。		0.30	1)責任著者論文を1報、共著著者論文2報が受理された。 2)平成26年度概算要求(ガスバイオロジー)が採択された。 3)先端医療基盤活用型クラスター事業の代表として大型研究費に採択された。 4)沖縄大学院大学との共同研究は論文執筆に入った。 5)医学部で獲得している2件の概算要求プロジェクトに貢献した。 6)平成25年度新規採択された科研基盤(B)研究計画を着実に推進した。
社会貢献	0.05	沖縄県内の医療福祉関係の大学生や専門学校生に講義を行い、沖縄県の医療発展に貢献する。		0.05	平成24年度の目標は達成している。さらに、沖縄県の医療分野での多岐にわたる領域で委員などを務めている。
管理運営	0.50	1)医学部長・医学研究科長として医学部の管理運営業務を行う。 2)分子・細胞生理学講座教授として講座の運営を行う。		0.50	医学部長・医学研究科長として医学部の管理運営業務を行い、学部の改革にも取り組んでいる。さらに、医学部に再生医療開発拠点事業を産学官連携のもとに推進している。
進路指導	0.05	大学院生の進路に関する助言、推薦などを行う。		0.05	本年度卒業見込みの大学院生の進路指導を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中村 真理子	所 属		医学研究科分子・細胞生理学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム編成のため、本年度はM1とM2の生理学I合同講義を後期 11コマと実習10日間担当する。理解度を深める講義を目指し、FDで得たTBLのような形式も講義に取り入れていく。血管内皮細胞・血小板機能等、自分の研究内容を講義や実習に導入する。M2生理学II実習を前期5日間 脳波のとおり方と解説を指導する。 医学外国語は、[血液の凝固線溶]、輪読・解析し知識を吸収できる講義にする。 M4基礎配属では実技を通して、血小板の基礎—臨床応用の研究を指導する。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> M1とM2の合同講義のため、大講義室で行うことから、講義資料は、可能な限り、文章を多くして、講義後の復習に役立つように構成した。 生理学講義内容に関する質問は、講義の休憩時間や講義終了後に再度説明するよう努力した。講義開始前に、講義内容について一部学生に意見を聞き、学生への対応に時間が持てるようにした。 基礎配属は、血小板の基礎として画像解析を中心に研究指導した。
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 国際生理学会(バーミンガム)で研究報告発表を行う。 「ハプトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」の研究を継続し、学会でその内容を発表する。組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果について追究する。さらに、現在進行中の実験を論文にまとめる。 学内共同研究のNGF測定法を確立する。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> 国際生理学会(2013年7月バーミンガム)で研究発表し、目標を達成した。その後、組換えハプトビンの血小板凝集抑制機序の追究実験を継続している。日本生理学会(2014年3月鹿児島)にて、研究発表を行う。これらの結果を論文へまとめる準備を現在行っている。
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士や作業療法士を目指す学生に、正常な身体の機能を生理学講義・実習を通して教授する(学外)。 県立看護大学大学院で、病態生理学的観点から講義およびセミナーを行う。 日本生理学会・日本病態生理学会の評議員会へ参画する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 理学、作業療法士を育成する専門学校で生理学講義・実習を担当した。 県立看護大学大学院で、病態生理学の講義を依頼され、講義およびセミナーを行った。 日本生理学会の評議員会へ出席し、医学教育や研究者育成について意見を交換した。
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教育連絡主任として、会議に出席し、医学科の教育向上に貢献する。 センター試験・入学試験およびCBT等の試験監督を率先して行なう。 CBT試験問題の作成を率先して行なう。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> センター試験の試験監督を行なった。 FD、国家試験対策関連のセミナーに率先して参加するように心掛けた。
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 本年度はM6の指導教官として指導(特に総合試験II/III)・任務を遂行する。 M1/M2の在学生からの要望があれば、オフィスアワーを設けるようにする。 さらに、国家試験に向けての学習法等、在校生と既卒者との懇談会も予定したい。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> M6指導教官として、総合試験II/IIIに対して指導を心掛けた。 国家試験の学習方法などのセミナーから得た知識を学生へ伝授した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		砂 川 昌 範	所 属		大学院医学研究科 分子・細胞生理学講座	職 名		助 教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業評価に基づき、講義内容を厳選し、理解度を高めるよう改善する。 ● 生理学実習をとおして生体反応の解析方法を習得させる。 ● 研究仮説、方法、結果考察を大学院生と共にやり、研究協力を行う。 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義時間数を増やし、説明を平易にし学生の理解度を高めることが出来た ● レポートに示された図表とその説明内容を基に判断すると、生体反応の解析方法を学生に適切に習得させることができた。 ● 研究内容を吟味し、研究指導協力を行った。 		
研究	0.60	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究成果をを学会および学会誌に発表する ● 基盤研究(C)「血管平滑筋の形質変換における電位依存性カルシウムチャネルの役割」の研究代表者 ● 基盤研究(B)「細胞選択的導入ペプチドを用いた疾患治療戦略」の研究分担者 ● 基盤研究(B)「ハプトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」の研究分担者 ● 化学物質・病原体の管理、報告書作成 			0.60	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際生理学会学会にてポスター発表を行った。 ● 基盤研究(C)22590210の研究を行い、4年目の研究課題を遂行した。 ● 基盤研究(B)22390038の研究を行い、4年目の研究課題を遂行した。 ● 基盤研究(B)21390060の研究を行い、研究成果報告を行った。 ● 沖縄血管病態研究会の運営を行った。 ● PRTR、有機溶剤管理を適切に実施し、報告書を提出した。 		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 生理学会、日本病態生理学会の評議員会への参画 ● 産業医として企業の安全衛生の向上に努める 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本生理学会の評議員会に参加。 ● 職場検診結果を基に、120名の従業員に安全衛生の指導を実施した。職場巡視報告書による改善指導により事業所の安全衛生が向上した。 		
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 医学教育企画室室員として運営に協力する ● センター試験、入学試験等での試験監督としての業務を行う ● 局所排気装置の定期自主点検の実施 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 医学教育国際認証カリキュラム作成に取り組んだ。 ● センター試験において警備業務を実施し、セキュリティー管理に努めた。 ● 局所排気装置がないため報告義務は生じなかった。 		
進路指導	0.00				0.00			
医療支援	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療における血液透析療法の支援を行う ● 地域医療における総合内科医としての支援を行う 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ● 外来透析患者の病状に応じて診断治療を適切に行った。 ● 外来患者の診断治療を行い、中部地区および宮古島の地域医療に貢献できた。 		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		筒井 正人	所 属	薬理学	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.37	①医学科3年生の薬理学講義・実習、②基礎研究室配属の学生指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科2年生の医学外国語の講義、および⑤指導学生の指導を行う予定である。熱意と誠意を持って、当該教育に打ち込む。		0.37	左記の目標は十分に達成できた。	
研究	0.37	世界的に権威のある雑誌に、出来るだけ多くの論文をpublishさせることを目指す。さらに、外部資金の獲得に尽力する。		0.37	論文業績も外部資金獲得も、ある程度の成果は出せたが、全く満足していない。今年をさらなる飛躍の年にしたいと考えている。	
社会貢献	0.02	久留米大学医学部において薬理学の講義を支援する。		0.02	左記の目標は十分に達成できた。	
管理運営	0.20	医学部および大学院医学研究科において、①副医学部長、②学務委員会委員長、③医学研究科・医学部予算委員会委員、④教務委員会委員、⑤臨床研究利益相反審査部会委員、⑥薬事審議会委員を担当している。当該役職の職責を全うする。		0.20	左記の目標は十分に達成できた。	
進路指導	0.04	医学科の薬理学講義、基礎研究室配属の学生指導、薬理学大学院生の指導、医学外国語の講義、指導学生の指導、および医科学研究生の指導に際して、自身の体験を踏まえて進路指導を行う。		0.04	左記の目標は十分に達成できた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前		野口克彦	所属	大学院医学研究科薬理学	職名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	基礎配属された学部学生ならびに大学院修士課程学生に対し、基礎薬理学に関するセミナー形式や実験による教育を昨年度までの反省を踏まえた上で実践する。また、大学院博士課程の学生に対し、研究の指導助言を行う。3年次学部学生には担当する「薬理学」の講義を、できるだけ最新の知見を取り入れつつ、全体的なレベルアップを図ることを目標に行う。		0.30	基礎配属の学部学生に対して、基礎薬理学の考え方や医師としての心構えについて議論した。3年次学部学生に対しては、担当する「薬理学」の講義16時限を、最新の研究成果を織り交ぜつつ、行った。薬理学実習では、従来担当していた項目に加えて、新たな項目を担当し、昨年の経験を踏まえて改善しつつ実施した。大学院博士課程の学生に対し、研究の指導助言と実験の一部とデータの解析を行った。	
研究	0.60	現在取り組んでいる研究テーマ「循環器疾患と血管内皮細胞機能の役割」について、情報収集と実験及びデータの解析を実施し、学会発表の準備を行う。今年度は、新しい遺伝子改変マウスを用いた研究を始める。また、これまでの研究成果をまとめ、欧文誌への投稿を行う。		0.60	現在取り組んでいる研究テーマについて、情報収集と実験及びデータの解析を行い、日本薬理学会・日本循環器学会・日本NO学会・琉球医学会での発表を行った。その一部は、琉球医学会誌に投稿し、掲載された。理化学研究所のご協力により、新しい臓器特異的・時期特異的ノックアウトマウスの作成を開始した。また、別のテーマについて、論文にまとめ、欧文誌への投稿原稿を作成した。	
社会貢献	0.05	平成25年に主催することになっている学術集会の準備を行う。また、沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究に関連して、県内企業との共同研究の可能性について検討する。		0.05	平成25年6月に教室で主催した学術集会開催の準備と運営を行った。今期では、県内企業との共同研究は実現しなかったが、企業など外部からの関心が得られるような沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究テーマについて情報収集を行った。	
管理運営	0.01	学内および教室内の省エネ・省資源などのエコアクションに協力し、いっそうの充実を図るよう努力する。今年度より、琉球大学AO会議のオフィス員に就任したので、構成員としての役割を果たしたい。		0.02	琉球大学AO会議のオフィス員としてAO会議に出席し、8月に開催された「全国国立・有名私大相談会2013名古屋」に琉球大学の説明員として派遣された。	
進路指導	0.04	5年次学部学生の指導教員として、年次別懇談会を実施するとともに、学生の修学、経済問題、学生生活全般などに関する諸相談に応じ、適切な指導助言を行う。また、他の学部学生、および大学院生に対しても進路や履修などについて積極的に相談に応じられるよう努める。		0.03	5年次学部学生の指導教員として、年次別懇談会を定期的実施するとともに、学生の修学、経済問題、学生生活全般などに関する諸相談に応じ、適切な指導助言を行った。また、他の学生に対しても履修や卒後の進路などについて積極的に相談に応じた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	坂梨 まゆ子		所 属	医学研究科	
職 名	助教				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	中枢作用薬の講義では、新規発売されたアロステリック作用を有する薬物の特徴の説明を追加したい。漢方薬の講義では、西洋薬との併用療法について、相互作用などを内容に追加する予定である。また昨年度に引き続き、学内外で開催されるFDや薬に関する研修会に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映する。		0.25	各講義では、目標設定した講義内容の追加を果たした。学内開催の東洋医学研修会、学外開催の中医学研修会、循環器疾患、呼吸器疾患、精神疾患治療薬に関する研修会 等々に参加し、得られた知識を講義や実習に反映した。漢方薬の講義をより充実させるため、漢方薬・生薬認定薬剤師講習を受講後試験に合格し、認定薬剤師を取得した。講習で得た知識は、学生への講義に反映した。
研究	0.55	科研費を獲得している研究は、今年度が最終年度のため研究のまとめを行う。またトリプルNOSノックアウトマウスを用いて、自然発症心筋梗塞マウスの性差に関する研究を行い、共同研究する大学院生の研究指導を行う。研究の成果は、日本薬理学会、日本NO学会等で報告発表する。さらに、研究成果を論文にまとめて投稿する。		0.55	科研費を獲得した研究は、研究の成果を日本薬理学会年会ならびに西南部会、日本NO学会で報告発表した。さらに、研究成果をCirculation Journal誌に発表した。2/3腎摘トリプルNOSノックアウトマウスによるAMIモデル研究では、現在大学院生と共同で、卵巣摘出♀マウスモデルを作成し、性差の機序の解明を進めている。
社会貢献	0.10	専門分野(薬理学)の知識を生かして、学外の看護学生への教育を行う。保険調剤薬局やドラッグストア等の薬剤師から、薬の使用法や適応などに関する相談に応じたり、副作用情報の提供を行う。一般の方向けのお薬相談で薬の飲み方や相互作用に関する相談に応じる。		0.10	浦添看護学校にて非常勤講師を務め、看護学生への教育を行った。保険調剤薬局の薬剤師に向けて、薬理学に関する講習を行った。漢方薬・生薬認定薬剤師として、一般薬剤師に漢方薬に関する講習を行った。一般の方向けのお薬相談で「健康食品と薬の併用に関する質問」や「薬の副作用に関する相談」に応じた。海外雑誌のPeer Review誌のreviewerをつとめた。
管理運営	0.05	教育連絡主任として会議等に参加し、活動に貢献する。CBTの問題作成を行う。センター試験の試験監督業務など入試業務に協力する。エコアクションの一環として、研究室内の毒劇物管理を行う。		0.05	2次試験の採点業務、CBTの問題作成業務に従事した。本学開催の学士入学入試、CBTならびに大学入試センター試験においては監督業務に従事し、入試業務に協力した。毒劇物管理、PRTR該当薬物の管理を引き続き行った。学内講座等の機器選定に関わる仕様策定委員をつとめた(2回)。
進路指導	0.05	大学院進学希望者に対応する(キャンパス案内や研究内容の紹介など)。薬剤師資格を持つ大学院生に対しては、就職先の相談に応じる。琉球大学への進学希望者(高校3年生)に対応する(大学構内や病院内の案内、医学部学生の紹介による学部生活の紹介など)。		0.05	大学院進学希望者へ研究内容の説明や、研究施設の案内を行った。本学の最終学年の大学院生に対して、就職先の相談に応じ、希望業種の求人を複数紹介した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		國吉 幸男	所 属		医学研究科(胸部心臓血管外科学講座)
			職 名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成25年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	1)学部学生への講義(M3,4);循環器外科に関する講義。大学院生への講義;人工弁、人工心肺等の人工臓器に関する講義。 2)臨床実習(M5,6)学生への実地臨床の教育(術前・術後管理、手術の実際、提出レポートに基づく口頭試問の実施・評価)。		0.10	ほぼ目標は達成できた。大学院生への講義時間および内容をもっと十分にまた充実したものにしたい。
研究	0.10	1)科学研究費による、MEP(運動誘発電位)に関する研究・実験的研究 2)科研多施設研究、厚労省科研補助事業への参加 3)学会の理事・評議員として運営への参加 4)国内外学術雑誌への投稿論文の査読への参加		0.10	1)実験回数を増やしたい。 2)参加し、報告を行った。 3)学会の運営に参加した。 4)国外の査読要請なし、国内雑誌の査読は行った。
社会貢献	0.30	1)循環器外科疾患に対する診療 2)沖縄県医師会への琉球大学の代議員として参加 3)循環器疾患に関する専門的な講演会の開催 4)離島(八重山地方)への出張学術講演会		0.30	4項目とも達成できた。特に、県立八重山病院での先進高度医療(ステントグラフト、体内植え込み型補助人工心臓)の講演は多くの医師、職員が聴講して頂いた。その後の患者の紹介が増え、またそのやりとりにおいてもスムーズに行えた。
管理運営	0.05	各種委員会委員として会議参加		0.05	参加できた。
進路指導	0.10	指導学生に対する、Early exposureとしての、医師国家試験(循環器領域)トライアル、他指導		0.10	指導学生(M3)への懇談会において、国試(循環器領域のみ)を試させ、最低限の目標を提示した。
診療	0.35	附属病院第二外科、外来・入院患者に対する循環器診療;本土へ渡航する必要がない診療体系の構築 1)重症患者に対する外科治療および綿密な術前術後管理による外科治療成績の向上 2)患者に優しいより低侵襲な新しい治療法の導入および従来治療法の低侵襲化への改善		0.35	沖縄県内で初の植え込み型補助人工心臓の植え込み手術に成功した。それをメディアで広く県民へ広報を行った。 ハイブリッド手術室が完成し、極めて良好な環境下でより安全にまた確実にステント治療を行えた。また、右開胸にて僧帽弁を中心とした低侵襲弁膜症治療を開始し、より低侵襲化を計っている。
計	1.00			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山城 聡	所 属		胸部心臓血管外科
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト 比(実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部3年次及び4年次の臨床講義(系統講義)に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科(呼吸器外科・心臓外科)の教育を行う。また、研修医の1回以上の学会発表或いは症例報告を目標とする。		0.20	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。また、研修医に県医師会での症例報告を行わせることができた。
研究	0.20	基礎研究(心筋虚血・再灌流障害)の継続。臨床研究として開心術中の心筋虚血・再灌流障害についての解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。		0.20	十分な実験研究時間を得ることができず、新たな取り組みは進行し得なかった。しかし、臨床研究としての術中心筋虚血についての構想をすすめている。
社会貢献	0.10	臨床経験・治療成果(手術成績等)を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。		0.10	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては数回にわたり迅速に対応できた。又、低浸襲手術への取り組みが行えた。
臨床	0.40	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。		0.40	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。
管理運営	0.05	医学部6年次の指導教官として進路指導を行う。		0.05	懇談会等をとおして、学生へ対応することができた。
進路指導	0.05	医学部3年次及び4年次の臨床講義(系統講義)に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科(呼吸器外科・心臓外科)の教育を行う。また、研修医の1回以上の学会発表或いは症例報告を目標とする。		0.05	臨床指導をとおして、学生へ対応することができた。研修医への対応、指導ができた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		喜瀬 勇也	所 属		胸部心臓血管外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部臨床実習学生の指導を行う。主にベッドサイドを中心に、周術期の患者管理、手術中の注意点の基礎を指導する。レポートの作成、プレゼンの指導を行う。		0.10	臨床実習学生に対し、心大血管症例の受け持ちを1例ずつあたえ、その疾患の理解を深めるとともに術後管理(とくにICUでの術後管理)をとおして学習してもらい、不明点の説明指導をおこなった。また担当症例についての文献的考察をおこなうためのレポート指導をおこなった。
研究	0.20	現在臨症状問題となっている、大血管手術の際の脊髄虚血に対して、犬モデル実験にて、脊髄血流保護に関する研究を継続する。研究課題は「脊髄分節動脈遮断下の脊髄血流量の変化について」である。 また、筆頭著者論文を執筆する。		0.20	基礎研究として犬モデルにおいて胸腹部大動脈露出、遠位側かん流下胸腹部segmental arteryを遮断した際の脊髄血流の変化を計測し、脊髄環境の研究を行い、現在論文を執筆中である。
社会貢献	0.10	臨床業務を通して、適切な手術および患者管理を継続する。また高度心血管治療(人工心臓への取り組み等)の推進、社会的に認知されるよう、啓蒙も同時に行う。		0.50	緊急紹介症例の受け入れを積極的にできたと思われる。今後救急隊との連携をはかっていく。補助人工心臓症例の受け入れ、管理等先進治療も行っている。
管理運営	0.10	医学部運営管理に関する報告を受け、それぞれの持ち場で適切に実践する。		0.10	医学部管理運営に関して、臨床を通じて積極的に行っている。
進路指導	0.10	臨床実習で接する機会の多い学生を中心に、胸部心臓血管外科の特徴を伝え、地域に貢献できる医者が育つよう早い時期より指導を行う。		0.10	臨床実習を行っている学生に対して、主に専門性としての心臓血管外科領域の地域医療への貢献の在り方を説明、指導している。
診療	0.30	外来、検査、入院患者の担当(主治医)を主とし、手術患者の周術期管理全般を担う。特に緊急、高齢者、合併症を持つ患者など他院での受け入れ、治療が困難な心臓外科領域の症例を多く担当する。		0.30	年間100例程度の患者の担当医として患者の治療にあたり、特に開心術症例では50例程度術者として受け持った。術後経過に難渋する合併症併発症例に対してもリハビリ転院、自宅退院へ向けた治療を行う事ができた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		前田達也	所 属		胸部心臓血管外科学講座(第2外科)
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	大動脈瘤疾患に対するアプローチ方法(診断、治療、フォローアップ)について医学部学生および臨床研修医に十分に周知できるように、外来見学、ベッドサイドレクチャー、手術見学などを積極的に行っていく。		0.20	医学部学生(臨床実習生)に対して、受け持ち患者を1例ずつあたえ、その疾患についての理解を深めるとともに、その周術期管理およびフォロー方法について学習してもらった。また、文献検索方法や疾患についてのレポート指導を行った。
研究	0.20	胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術に関して、学会での報告発表を行う。 また、筆頭著者論文を執筆する。		0.10	胸部・胸腹部大動脈瘤に対する標準的治療(人工血管置換術)およびステントグラフト治療におけるMEP変化を比較し、対麻痺発症予防に対するMEPの有用性についての研究を行った。
社会貢献	0.10	沖縄県内において、大動脈瘤疾患に対するステントグラフト治療の周知および普及に努める。また、径カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)の導入による新たな治療の普及に努める。		0.20	地域への講演などを通して大動脈瘤疾患に対する、ステントグラフト治療の周知に努めた。また、関連病院におけるステントグラフト治療にも協力できる体制を作っている。
管理運営	0.10	経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)の導入のためのハイブリッド手術室の導入に携わる。		0.20	ハイブリッド手術室の導入および、その有効利用について検討および周知に携わった。
進路指導	0.20	臨床研修医や医学部学生に対して、胸部心臓血管外科の特徴を伝え、地域に貢献できるような医師の育成に努める。		0.10	専門性の高い分野であるが、興味のある学生に対して、進路相談にのり、勧誘を行った。
診療	0.20	大動脈瘤疾患に対する診断ならびに手術治療を行う。定期手術に加えて、緊急手術にも対応できるような態勢を整える。 また、退院後の定期外来管理を行う。		0.20	臨床を通じて緊急でも対応できる診断、治療、フォローアップに努めた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		垣花 学	所 属		大学院医学研究科・麻酔科学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。		0.20	M3への系統講義、M5、M6の病院実習の指導を行った。初期研修医のみならず後期研修医に対して指導を行った。
研究	0.15	基盤研究(B)ならびに挑戦的萌芽研究の採択に伴い、これらの課題研究を推し進める。研究結果を公開するために、学会発表および筆頭著者論文を執筆する。		0.15	採択された基盤研究(B)ならびに挑戦的萌芽研究内容の動物実験を行い、さらにそれに関する英文総説などを執筆・投稿した。
社会貢献	0.05	北部地区病院ならびに宮古・八重山地区の巡回診療を行い、地域の医療に貢献する。また、研究活動を学会および論文として公表し、その成果を臨床に応用できる体制を整える。		0.10	研究活動を学会で発表し、その成果を臨床で応用した。
管理運営	0.20	集中治療部部長として集中治療の運営、診療に従事し、安全かつ効率的な運営を行う。さらに病院再整備準備室長として、病院再整備計画を推進する。		0.20	集中治療部部長として集中治療の運営、診療に従事し、安全かつ効率的な運営を行った。さらに病院再整備準備室長として、病院再整備計画を推進し文部科学省へ説明に赴いた。
進路指導	0.05	担当教官として班員の進路指導ならびに初期研修医への後期研修説明などに関わる。		0.05	担当教官として班員の進路指導ならびに初期研修医への後期研修説明などに関わった。
診療	0.35	麻酔管理症例を安全かつ効率的に行い、手術症例の増加に努める。		0.30	年末から年始にかけて手術室工事にさいし、麻酔管理症例を安全かつ効率的に行い、手術症例の増加に努めた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		照屋 孝二	所 属		医学部 麻酔科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.15	M5, M6学生に集中治療室において実際の集中治療管理を見学させ、集中治療の基本を理解してもらう。年度末には試験を分担作成し、評価を行う。また、後期研修医に対する教育も行う。後期研修医と供に症例の集中治療を担当し、集中治療領域での理論、手技を理解させる。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をする。学会発表、論文作成の指導をする。		0.15	M5, M6学生に集中治療室において実際の集中治療管理を見学させ、集中治療の基本を理解してもらうよう講義も行った。年度末には試験を分担作成し、評価を行った。また、後期研修医に対する教育も行った。後期研修医と供に症例の集中治療を担当し、集中治療領域での理論、手技を理解させるよう、実技指導、講義を行った。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をした。学会発表、論文作成の指導を行った。
研究	0.20	麻酔・集中治療に関する臨床研究に加えて、集中治療医学に関する症例報告、臨床研究を行い、学会発表、論文作成を行う。		0.20	麻酔・集中治療に関する臨床研究に加えて、集中治療医学に関する症例報告、臨床研究を行い、学会発表を行った。
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。
管理運営	0.15	集中治療室において重症患者の診療を行ない、看護師・他科医師とともに円滑な病棟運営に貢献する。		0.15	集中治療室において重症患者の診療を行ない、看護師・他科医師とともに円滑な病棟運営に貢献した。
進路指導	0.00			0.00	
診療	0.40	附属病院集中治療室に置いて、業務に専従し、重症患者の治療に貢献する。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。		0.40	附属病院集中治療室に置いて、業務に専従し、重症患者の治療に貢献した。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		齊川 仁子		所 属		麻酔科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	M5, M6学生に手術室において実際の麻酔導入を見学させ、麻酔の基本を理解してもらう。年度末には試験を分担作成し、評価を行う。また、後期研修医に対する教育も行う。研修医と共に症例の麻酔を担当し、臨床麻酔の理論、手技を理解させる。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をする。学会発表、論文作成の指導をする。				0.20	学生には麻酔実習における指導と講義を行い、臨床への興味を持ってもらえるよう努力した。また研修医と麻酔を担当し実際の手技や麻酔理論について学習してもらった。また症例検討会や学会発表の指導を行った。				
研究	0.10	麻酔症例の年2回学会あるいは研究会での発表を行う。				0.00					
社会貢献	0.20	沖縄県内の地域病院で、手術麻酔を担当し、安全な手術管理に貢献、出張病院での手術室スタッフ、後期臨床研修医の教育を行う。10月13日の”麻酔の日”には、一般市民に対する啓蒙イベントを開催、運営する。				0.20	地域の関連病院で手術麻酔を担当し、後期研修医の指導も行った。消防学校において講義を行った。				
管理運営	0.10	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行う。				0.10	手術麻酔、スーパーバイザー業務で円滑な手術部運営が図れるよう努力した。				
進路指導	0.20	附属病院手術室に置いて、麻酔業務に専従し、手術数増加の為に貢献する。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。				0.30	日々の麻酔業務やスーパーバイザー業務を通じて患者の術前評価や麻酔計画およびリスクマネジメントにおける注意点など指導を行う。				
診療	0.20	手術麻酔、日々のスーパーバイザー業務を行う。また、月に4〜5回程度集中治療部の当直業務を行う。				0.20	手術麻酔、スーパーバイザー業務、および当直業務を行った。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金谷 文則	所 属		医学研究科医科学専攻整形外科学講座
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	臨床講義「case presentation」では学生に主体性を持たせ発表させている。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。、後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診		0.25	臨床講義「case presentation」を5コマ行い学生に主体性を持たせ発表させ、アンケート結果も良好であった。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。、後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診を行った。
研究	0.25	教科書「標準整形外科」、「手の外科診療ハンドブック」の改訂作業、今日の臨床サポート、「先天性橈尺骨癒合症の分類」の執筆、大学院生の指導		0.25	教科書「標準整形外科」、「手の外科診療ハンドブック」の改訂作業、今日の臨床サポート、「先天性橈尺骨癒合症の分類」の執筆、大学院生の指導を行った
社会貢献	0.10	「熱中症の予防と対応」についての市民公開講座、運動器をテーマにした市民公開講座を行う		0.10	市民公開講座を2回(那覇市)行った
管理運営	0.15	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島および北部地区医療の充実のための人員配置と研修体制の確立		0.15	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島および北部地区医療の充実のための人員配置と研修体制の確立を目指した。おおむね良好な配置を行えたが、本年の入局者も3名と少なく未だ人手不足である。学外からも研修を希望する魅力的な医局を形成したい。
進路指導	0.05	県内・県外施設および病院の紹介		0.05	県内・県外施設および病院の紹介を行った。
診療	0.20	地域医療の充実を図る(教育的診察・回診を除く)		0.20	手術件数は増加し、地域医療の充実に貢献している
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		普天間 朝上	所 属		整形外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	医学生に対する手の外科領域の講義、研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導		0.10	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床実習指導、研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導を行った
研究	0.10	骨間神経麻痺、		0.15	骨間神経麻痺の患者のデータ収集、神経再生に関する資料の解析
社会貢献	0.20	スポーツ大会への帯同・医師派遣、市民公開講座の企画		0.20	ソールド沖縄などの帯同医師の派遣や装備等のアドバイス、「骨と関節の日」の市民公開講座の企画、社保委員
管理運営	0.10	診療報酬委員会、医局長、安全ガス対策委員、など		0.10	DPCおよび診療報酬委員会
進路指導	0.10	医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明会の実施		0.10	大学で研修を希望する初期研修医は未だ新臨床研修制度開始前の人数に達していない
診療	0.25	整形外科外来および病棟(手術)業務		0.35	整形外科外来および病棟(手術)業務
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		堀切 健士	所 属		医学部整形外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部実習生に対する手の外科領域の講義、実技指導。		0.20	実習生への講義、指導を十分行うことができた。
研究	0.10	前・後骨間神経麻痺に関する多施設共同研究への参加。学会参加、発表活動		0.10	多施設共同研究の症例を蓄積中である。また、その他学会への参加、発表も行うことができた。
社会貢献	0.10	スポーツ専門医を取得し各種スポーツ大会への帯同。市民公開講座への参加。		0.05	市民公開講座を開催できた。
管理運営	0.05	医療福祉支援センター運営		0.05	定期的に会議へ参加した。
進路指導	0.05	医学部卒業予定者への進路説明		0.05	年に2～3回の説明会を開催することができた。
診療	0.50	整形外科外来および病棟(手術)業務		0.55	特に医療事故等トラブルなく診療へ従事することができた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		齋藤誠一		所 属		大学院医学研究科 泌尿器科学講座		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.40	医学部学生に対する基本的な教育(基礎的知識、考え方)。大学院生に対する研究指導。医局員に対する教育。				0.40	医学部学生に対しては、講義や外来診療を通して 基本知識を身につけさせるよう努力した。				
研究	0.30	基礎と臨床の融合した研究を推進する。				0.30	基盤研究C「シアルル T発現糖蛋白の腎癌血清マーカーとしての可能性」(平成25-27年度、課題番号25462491、5070千円)を獲得した(研究代表者: 齋藤誠一)。大学院生の研究を指導し、腎癌、尿路上皮癌において研究成果が出始めた。				
社会貢献	0.10	市民公開セミナーを開催する。				0.10	2014/4/6那覇市の沖縄県立博物館で市民公開講座「おしっこの悩みありませんか」を開催した。				
管理運営	0.20	各種委員会で積極的な提案、発言を行う。				0.20	各種委員会では気づいたことを積極的に発言した。しかし一方、教育面での管理運営が十分でなかった。				
進路指導	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大城 吉則	所 属		医学研究科 泌尿器科学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.15	医学部学生に対する腎移植関連に臨床講義。臨床実習医学生に対する、病棟、外来、手術室での指導。 臨床実習医学生に対する腎移植領域における最新内容のクルズスを行う。医学科の指導教官として、学習および生活面の諸々のアドバイスを行なう。		0.15	左記の教育目標はほぼ達成できた。
研究	0.15	日本泌尿器科学会、西日本泌尿器科総会、移植学会、九州腎移植研究会、腎移植血管外科研究会、臨床腎移植学会、日本EE学会等において臨床研究の発表を行う。		0.15	左記の学会で筆頭および共同者として臨床研究の成果を発表した。
社会貢献	0.05	(財)沖縄県保健福祉事業団 「臓器推進委員会」における委員会活動		0.05	予定された臓器推進委員活動は遂行できた。
管理運営	0.05	手術部運営会議委員、病院材料委員会委員など		0.05	予定された委員活動は遂行できた。
進路指導	0.00			0.00	
診療	0.60	入院、外来患者数の増加:腹腔鏡下症例数の増加および技術の向上(腹腔鏡下腎部分切除)、腎移植症例数の増加		0.60	腹腔鏡下手術は増加したが、腎移植は増やすことが出来なかった。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	新崎 章		所 属	医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	①最新の情報やデータを取り入れた学部講義を行う。②ポリクリ学生ヘクリニカルクラークシップを重視したチェアーサイドでの臨床実習を実践する。③歯科医師臨床研修支援室長として歯科医師臨床研修医に臨床研修指導とメンタルヘルスケアを行い、充実した研修を提供する。		0.25	①最新の情報やデータを取り入れた学部講義を行った。②ポリクリ学生ヘクリニカルクラークシップを重視したチェアーサイドでの臨床実習を実践した。③歯科医師臨床研修支援室長として歯科医師臨床研修医に臨床研修指導とメンタルヘルスケアを行い、充実した研修を提供した。
研究	0.25	①学会発表:第58回日本口腔外科、第52回日本癌治療学会、第11回日本口腔ケア学会で発表する。②論文投稿:Survival outcome of early stage oral cancer. -Preoperative chemotherapy followed by surgery versus surgery alone.-をJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathologyに投稿する。		0.25	①学会発表:第58回日本口腔外科、第52回日本癌治療学会、第11回日本口腔ケア学会で発表者の指導を行った。②論文投稿:Survival outcome of early stage oral cancer. -Preoperative chemotherapy followed by surgery versus surgery alone.-をJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathologyに投稿への最終段階である。
社会貢献	0.15	①市民公開講座や研究会を通して口腔ケアの普及を図り、本県をオーラルケアアイランドにする②沖縄ラオス友好協会や沖縄ラオス名誉総領事の活動を通して社会貢献を行う。③ラオスでの医療援助活動や口腔保健活動を積極的に行いラオス国への国際を貢献を行う。④浦添看護学校や沖縄歯科衛生士学校の講義・実習を担当し、人材育成に協力する。		0.10	①市民公開講座を通して口腔ケアの普及を図った②沖縄ラオス友好協会や沖縄ラオス名誉総領事の活動を通して社会貢献を行った。③ラオスでの口腔保健活動を積極的に行いラオス国への国際を貢献を行った。④浦添看護学校や沖縄歯科衛生士学校の実習を担当し、人材育成に協力した。
管理運営	0.04	①国際交流委員会委員として本学の国際交流について積極的に支援活動を行う②リハビリテーション部運営協議会委員、手術部運営協議会委員、集中治療部運営協議会委員として病院運営に積極的に協力する。		0.05	①国際交流委員会委員として国際交流について積極的に支援活動を行った②リハビリテーション部運営協議会委員、手術部運営協議会委員、集中治療部運営協議会委員として病院運営に積極的に協力した。
進路指導	0.06	①担当指導学生(M2)と定期的にコミュニケーションをとり、学習意欲の向上を図ると同時に、進路に対するアドバイスやメンタルヘルスケアを行う。②外国人留学生の奨学金獲得に協力し、留学生の学習・生活環境を支援する。		0.05	①担当指導学生(M2)と定期的にコミュニケーションをとり、学習意欲の向上を図ると同時に、進路に対するアドバイスやメンタルヘルスケアを行った。②外国人留学生(ラオス国)の奨学金獲得に協力し、留学生の学習・生活環境を支援した。
診療	0.25	①EBMに基づいた質の高い治療を提供する。②悪性腫瘍患者の標準治療に基づいた診療体系を確立し、治療成績の向上を図る。③口腔ケアセンターを活性化し口腔ケアの浸透を図る。④障害者歯科センターを充実し、地域医療連携を確立する。⑤口唇口蓋裂センターの充実を図る。		0.30	①EBMに基づいた質の高い治療を提供した。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた診療体系を確立し、治療成績の向上を図った。③口腔ケアセンターを活性化し口腔ケアの浸透を図った。④障害者歯科センターを充実し、地域医療連携を確立した。⑤市民公開講座等を行い、口唇口蓋裂センターの活性化を図った。
計	1.00			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		喜名 振一郎	所 属		顎顔面口腔機能再建学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.50	大学院助教として所属医員の英文誌作成に積極的に関与する		0.50	数報準備段階であるが、未だ投稿にはいたっていない
研究	0.30	民間助成団体からの外部資金を獲得し、筆頭著者論文を執筆する。		0.30	科研費の継続が達成されたのみであり、筆頭筆者論文は準備段階である
社会貢献	0.10	市民公開講座に参加する		0.10	市民公開講座は開催されなかった
管理運営	0.05	試験監督を行う		0.05	試験監督は適切に行った。
進路指導	0.05	大学院教育の重要性を若い医員に周知する		0.05	大学院入学予定者を育成できていない
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		久木田一朗		所 属		医学部・医学研究科
職 名		教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論、保健学科講義等で救急災害医療・医療倫理について教育する。臨床実習でER(北米救急外来)方式の救急現場において経験させ問題発見・解決能力、プレゼンテーション力を養う。救急医療を実践している学外医師を非常勤講師として呼び、幅広い救急医療の実情を学ばせる。初期臨床研修医への救急診療教育、多職種への医療安全教育を行う。ERへ出向する各科医師への救急医療教育と専門知識の相互交流の場を作る。		0.30	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論、保健学科講義等で救急災害医療・医療倫理について教育した。臨床実習でER(北米救急外来)方式の救急現場において経験させ問題発見・解決能力、プレゼンテーション力を養う臨床実習を行った。救急医療を実践している学外医師を非常勤講師として呼び、幅広い救急医療の実情を学ばせた。海軍病院への視察見学会も実施した。初期臨床研修医への救急診療教育、多職種への医療安全教育を行った。ERへ出向する各科医師への救急医療教育と専門知識の相互交流の場として救急部が活用された。	
研究	0.20	重症救急患者の集中治療に関する基礎および臨床的研究を進める。災害医療に関し、日本における災害の研究および米国災害医療システムの研究を進める。外傷外科に関する研究を進める。高気圧治療部との共同研究で、救急領域での高気圧酸素療法の研究を進める。		0.20	重症救急患者の集中治療に関する基礎的研究を進めた。災害医療に関し、米国災害医療システムの研究、教育法の導入を進め日本国内初の米国災害コース(DMEPコース)を開催した。高気圧治療、集中治療に関する臨床的研究を進めた。	
社会貢献	0.10	アメリカ心臓協会(AHA)による心肺蘇生講習のトレーニングサイト(TS)を運営し、「NPO法人沖縄救急災害医療機構」を通じて多くの県内医療従事者、一般市民に研修の機会を与える。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担う。県防災訓練における医療班の指導、その他関連する研究会を主催する。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献する。		0.10	アメリカ心臓協会(AHA)による心肺蘇生講習のトレーニングサイト(TS)を運営し、「NPO法人沖縄救急災害医療機構」を通じて多くの県内医療従事者を中心に研修を行った。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担い総務大臣表彰を受けた。県防災訓練における医療班の指導、ドクターヘリの事後検証の委員長を担った。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加し、長官より感謝状・盾の授与を受けた。	
管理運営	0.09	安全管理対策室長、医療機器安全管理責任者として、附属病院における医療安全を向上させる。病院再整備委員会、救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の再整備、救急災害診療体制構築を副院長として推進する。		0.09	安全管理対策室長(12月31日まで)、医療機器安全管理責任者として、附属病院における医療安全を向上に努めた。病院再整備委員会、救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の再整備、救急災害診療体制構築を副院長(12月31日まで)として推進する。	
進路指導	0.01	医学部医学科6年次学生の指導教官として学生の指導に努める。臨床実習の機会等に救急医学分野の魅力について説明し、将来この分野を専門とする医師や専門としなくとも救急医療に関わる医師の育成に努める。地域枠の学生、救急部にローテーションする初期臨床研修医への指導につとめる。講座に属する大学院生(博士課程)の進路および進学指導を行う。		0.01	医学部医学科6年次学生の指導教官として学生の指導に努めた。臨床実習の機会等に救急医学分野の魅力について説明し、将来この分野を専門とする医師や専門としなくとも救急医療に関わる医師の育成に努めた。地域枠の学生、救急部にローテーションする初期臨床研修医への指導につとめた。講座に属する大学院生(博士課程)の進路および進学指導を行った。	
診療	0.30	医学部附属病院の救急部部長として救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、診療体制の維持向上に努め、救急患者受け入れの充実、救急医療体制の向上に努める。病院再整備における高度救命救急センター構想の実現に向けた救急部拡張計画を遂行する。		0.30	医学部附属病院の救急部部長として救急部専従スタッフを3名から5名へ増員した。出向医の安定確保、診療体制の維持向上に努め、救急患者受け入れの充実、救急医療体制の向上に努め、救急部所属入院患者が増えた。病院再整備における高度救命救急センター構想の実現に向けた救急部拡張計画を進めた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		近藤 豊	所 属		救急医学講座	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	医学生や研修医への救急教育を実践する。			0.20	M4,5医学生に中毒に関する講義を行うとともに、実際の患者さんにも診療をとおしながら聴診をおこなうなどの教育をした。		
研究	0.30	フラジェリンによるBacterial Translocationが起こるかどうかなどを確かめるために、小腸上皮細胞であるIEC6細胞を用いて、細胞間の接着因子の生化学的分析を実施している。また臨床研究は外傷データを用いて、治療と外傷の予後との関連をみている。これらの結果を論文化させて、公表する予定。			0.30	フラジェリンの研究についてはIEC cellを用いて、特に α SMAに注目しながら研究を継続しており論文化を目指している。外傷については国際学会で実際に研究成果の一部を発表した。		
社会貢献	0.10	前年に引き続き、洋上救急の要請に対応する。また現在社会から声高に叫ばれている救急のたらい回し等の問題にも真摯に向きあう。			0.10	洋上救急の要請に対し、実際にヘリ添乗をおこなった。また北部医師会病院のドクターヘリMESHの人手不足の要請にも答え、月1回程度応援をおこなっている。		
管理運営	0.10	救急部門の管理、運営について以前よりもさらにactivityをあげて管理していく。			0.10	院内災害マニュアルの改訂などを現在おこなっている。		
進路指導	0.10	M6学生への研修先の進路指導をおこなう。			0.10	初期研修の病院選びについて指導、助言をおこなった。		
診療	0.20	救急患者に対して適切な初期治療を行い、重症患者の治療を行う			0.20	入院患者に重点的に治療をおこなった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		植田 真一郎	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 春および夏の臨床研究ワークショップによる臨床研究人材の継続的な養成 医学部卒前教育における臨床研究に関する教育の充実 臨床研究に関する院内向け研修の実施 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> 春および夏の臨床研究ワークショップによる臨床研究人材の継続的な養成を行った。 医学部卒前教育における臨床研究に関する教育の充実を行った。TBL方式を導入した。 臨床研究に関する院内向け研修を3回開催した。
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 外資系製薬会社との正式な契約による研究費取得 臨床研究基盤構築事業費の申請(臨床研究中核拠点病院) 主任研究者であるランダム化比較試験の結果の学会発表、論文化と投稿 臨床研究支援センターで支援およびデータ管理を行ったランダム化比較試験 論文化 大規模コホート研究の解析と厚生労働省への報告 臨床薬理学研究の論文化 糖尿病ゲノム薬理学研究のデータ収集と解析 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> 外資系製薬会社HQの厳密なreviewを経て正式な契約による1億円(3年間)の研究費取得に成功(研究代表者) 主任研究者として実施したランダム化比較試験の論文を欧州高血圧学会で発表(口演)し投稿(BMJ, 審査中) 臨床研究支援センターで支援およびデータ管理を行ったランダム化比較試験 論文化された(Nephrol Trans Dialysis 2013) 大規模コホート研究の解析を行い、年度末の報告会で報告予定である。 いくつかの臨床薬理学的研究が論文化された。(Clinical Science, Life Science) 糖尿病薬のゲノム薬理学研究のデータ収集と解析を行い、American Diabetic Associationに抄録を提出した。
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品医療機器総合機構外部委員として薬剤の承認や添付文書改訂に貢献 高血圧学会ガイドライン作成委員としてガイドライン作成に貢献 臨床薬理学会の理事、学術委員長として学術集会のプログラム作成や学会の教育プログラムを実施 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品医療機器総合機構外部委員として添付文書改訂に貢献 高血圧学会ガイドライン作成委員としてJSH2014ガイドライン作成に貢献 臨床薬理学会の理事、学術委員長として学術集会のプログラム作成や学会の教育プログラムを実施(ベッドサイドの臨床薬理学)
管理運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤部長代理としての薬剤部管理 薬事委員長として新薬採用に関する委員会を運営 治験審査委員会委員長として治験審査を管理運営 臨床研究支援センターの管理運営 臨床研究支援センターにおいて倫理審査委員会へ申請された全研究のプロトコルレビューと指導 倫理委員会への迅速審査分の審査。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤部長代理としての薬剤部管理業務を行った。 薬事委員長として新薬採用に関する委員会を運営した。 治験審査委員会委員長として治験審査を管理運営した。 臨床研究支援センター長として臨床研究の支援を実施した。 臨床研究支援センターにおいて倫理審査委員会へ申請された全研究のプロトコルレビューと指導をおこなった。 倫理委員会への迅速審査分の審査約60件の審査を実施した。
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 担当の学生の進路についての指導 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 担当の学生の進路についての指導を実施した。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		根津 潤	所 属	大学院医学研究科 臨床薬理学講座	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	1.医学部4年次の系統講義を担当する。 2.医学部5年次及び6年次の臨床薬理学臨床実習の講義担当する。 3.当科大学院生の研究および論文執筆の指導をする。 4.M1シミュレーション教育を担当する。		0.20	左記に加え、3年次の薬剤学講義にて薬物療法の総論を担当。大学院講義にて薬理遺伝学について講義した。	
研究	0.60	1.糖尿病性腎症患者における蛋白制限食の腎機能予後に関するRCTのメタ解析の論文化。 2.糖尿病患者におけるCDKAL1遺伝子多型の臨床特性と糖尿病薬に対する臨床効果との関連調査を進め論文化。		0.60	1.メタ解析がBMJ openに掲載。Nezu U, Kamiyama H, Kondo Y, Sakuma M, Morimoto T, Ueda S. Effect of low-protein diet on kidney function in diabetic nephropathy: meta-analysis of randomised controlled trials. BMJ Open. 2013 May 28;3(5). pii: e002934. doi: 10.1136/bmjopen-2013-002934. PubMed PMID: 23793703 2. 現在論文準備中。	
社会貢献	0.10	1. 研究結果を学術セミナー、学会発表、論文発表などで公表し医学研究活動の推進に貢献する。		0.10	糖尿病学会総会(大阪)、アメリカ糖尿病学会(シカゴ)でオーラル発表した(アメリカ糖尿病学会は論文化により発表中止申請した)。	
管理運営	0.10	1. 臨床薬理学講座の運営に必要な庶務を担当する。		0.10	そのほか、センター試験監督や各会議への出席。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松下明子	所 属		医学研究科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	臨床薬理学講義を分担し、臨床研究、基礎研究のデータから薬物の作用機序の理解と、適切な選択ができるような思考を身につけてもらう。		0.20	臨床薬理学講義では、循環器領域を中心に、疫学研究からわかること、その発症機序を調べるためには基礎研究が大事であること、バイオマーカーの意義と信頼性等を理解してもらった。また、がん治療薬に関して、古典的なものから最近の分子標的型にいたるまでを取り上げて、作用機序、副作用、開発の歴史等を織り交ぜて講義した。
研究	0.70	ヒト薬理試験、培養細胞実験を組み合わせ、高血圧、動脈硬化関連疾患の発症メカニズム、治療法の探索を行う。成果を国内、国際会議での研究発表、論文投稿する。		0.60	得られた研究成果を、日本循環器学会、アメリカ心臓協会(AHA Scientific Sessions 2013)で発表した。特にAHAでは口頭発表演題に選出され、またATVB Travel Grant Award for Young Investigatorsを得た。成果の一部を論文にまとめ、国際誌に2論文が掲載された。近日中に投稿する予定の論文も2報できている。
社会貢献	0.05	学会、論文発表等による研究成果の社会への還元		0.15	上記の通り研究成果を国際誌に2報発表できた。急きょ学内の先生の代わりの私立看護学校の薬理学の今年度の講義の依頼があったため、毎回講義資料を作成し、看護学生が薬理学に親しみやすい内容の講義を行った。
管理運営	0.05	必要である場合協力する		0.05	大学入試センター試験業務を行った。
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		苅谷 研一	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	大学院教育(講義、演習、実習、コース共通講義等)、学部教育(生化学系統講義・実習オーガナイザー、基礎研究)、および共通教育(医学概論)を担当する。			0.35	臨床系院生には子宮頸癌研究、留学生には学位論文作成を指導した。学部生教育のFDIに参加し、講義では今年度から各講義修了後に理解困難な点についてのアンケートを実施した。医学概論は初回を担当。		
研究	0.35	大学院博士課程の学生や他の教員とともに研究の進展、情報交換(学会や他大学・研究機関との共同研究等)、論文の採択に努力すると共に、外部資金の獲得を目指す。			0.35	科研費(基盤C)により独自のRap2 KOマウスの解析を沖縄科学技術大学院大学や他部局と共同で進め、新知見を行動異常、免疫異常(論文作成)について得た。患者由来子宮頸癌の異種移植と継代移植に成功した(先行報告2編のみ)。		
社会貢献	0.10	研究で得たシーズを企業との共同研究により社会に還元できるよう努力する。また、外部機関からの依頼業務を必要に応じ遂行する。			0.10	Rap2 KOマウスについて民間法人と相談して課題を作成、沖縄科学技術大学院大学で承認された。スイスの行動解析装置企業に新しいパラメータを提案しアップデート時に採用された。また、国際専門誌の査読を担当した。		
管理運営	0.10	学内、学部内の各種委員会の構成員、附属図書館分館長等の職務を遂行する。			0.10	学内、学部内の各種会議・委員会の構成員の職務を遂行し、図書館分館長として全学的な学術誌・データベース削減の緩和のため学部での問題提起、本館全学会議での調整に努力した。		
進路指導	0.10	大学院博士課程の卒後の進路について話し合い、本人の適性を把握し希望が実現するよう努力する。			0.10	卒後留学院生のグラント応募支援(高評価)、別の卒後院生(留学生)の米国異動先の相談と学振再研究フェローシップの書類準備、学部学生においては指導教員として班会や個別の指導を行った。		
	0.00							
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		海川 正人	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	大学院教育(講義、副指導教員)および学部教育(系統講義、実習、基礎研究、医学英語)、学部学生指導教員としての生活指導等に従事する。			0.30	講座大学院生の実験の中心的指導と他講座大学院生の副指導教員業務、学部学生への講義、実習指導とともに、講座の教務連絡主任としての業務を行った。		
研究	0.40	大学院生や他の教員と協力して研究の進展、情報交換(学会や他大学・研究機関との共同研究等)、論文の採択や外部資金の獲得を目指す。			0.40	科学研究費補助金(基盤研究C)に採択された。さらに学内では平成24年度研究教育業績評価に係る顕彰と研究費の補助を受けた。また、昨年度の外部資金研究の成果発表会に出張した。		
社会貢献	0.10	基礎研究で得られた知見、技術を民間企業や研究者との交流を通じて社会に還元できるよう努力する。			0.10	腫瘍のエピジェネティクス的治療法に関する民間企業との共同研究に必要な実験を継続して指導した。		
管理運営	0.10	講座内業務分担、機器運用の効率化等について総合的に先導的役割を担う。また教務連絡主任として学部教育関連の業務を遂行する。			0.10	学内共通機器導入についての提案、運用法習得、講座内での指導にあたった。また、大学入試関連の試験監督も遂行した。		
進路指導	0.10	大学院生、特に留学生の進路について、希望が実現するよう助言する。また、学部学生指導教員として助言を行う。			0.10	大学院生、特に留学生の相談、また学部学生の指導教員として班会等での生活指導等を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安里 剛	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	大学院教育(講座内院生)、学部教育(生化学系統講義、実習指導、各種学内試験問題作成、レポート評価等)を遂行する。			0.35	講座大学院生の実験指導に関わる一方、学部教育では講義のみならず特に実習での実験手技指導と評価において中心的な役割を果たした。		
研究	0.40	大学院生、講座内外の教員、さらには他大学研究者との共同研究を通して、論文等での研究成果の発表につとめる。			0.40	講座独自のKOマウスについて、沖縄科学技術大学院大学と共同研究の行動解析を主導、新規行動解析装置の借用試運転など、新たな試みを行った。		
社会 貢献	0.10	企業・学外施設との交流を通じて、研究を通して得たシーズや技術を地域の需要にこたえることを目指す。			0.10	企業との子宮頸癌エピジェネティクス共同研究に必要な実験の一部について指導・助言した。		
管理 運営	0.10	講座内実験環境の適切な維持、節電・節水等に注意喚起する。			0.10	実験室の環境・機器の適切な整備、液体窒素などの安全維持、環境負荷軽減等につとめた。		
進路 指導	0.05	大学院生の卒後進路について話し合い、可能な範囲で協力する。			0.05	留学生を含む博士課程の大学院生と対話して適正等を把握する努力をした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中 公子	所 属	医学研究科・医化学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	医学研究科では講座の大学院生実験指導、医学科では生化学実習等の学部生教育を分担する。		0.30	大学院生の実験上の相談に随時助言するとともに、学部学生の生化学実習の指導を主に行った。	
研究	0.50	大学院生や他の教員、他講座の教員と共に研究を推進し、学会、研究会等で情報交換するとともに、論文による成果公表、外部資金の獲得に努める。		0.50	科研費(基盤C)により皮膚科と共同で臨床研究するとともに、沖縄科学技術大学院大学との共同研究に従事した。	
社会貢献	0.05	将来的には診療の向上に還元されるような知見を目標に研究する。		0.05	本学や地域の患者の診療の向上を目指して研究し、非常勤医師として地域医療へも参加している。	
管理運営	0.05	試薬・機器の維持管理を適切に行い、教室院の効率的な研究活動と環境負荷の削減がなされるよう配慮する。		0.05	各種マウスの講座としての維持管理、対外連絡を中心となってい、動物実験施設関連の機種選定にも参加した。また、入試関連業務を分担した。	
進路指導	0.10	臨床系大学院生や学部学生の卒後について、女性研究者／医師としての経験に基づく助言を行う。		0.10	臨床系女性大学院生、学部の後輩女子学生と話し、自らの経験から家庭との両立や進路について助言した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		山本 秀幸	所 属	大学院医学研究科・生化学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	医学部医学科1年次学生の医学概論A、2年次学生の医学英語および、生化学の講義を担当する。生化学の講義では、講義内容等についてのアンケートを実施する。大学院医学研究科修士課程の基礎医学概論と生化学特論を担当する。また博士課程の環境長寿解析学概論、情報生物学特論と生化学演習、生化学実習を担当する。		0.35	医学部医学科1年次学生の医学概論A、2年次学生の医学英語および、生化学の講義を担当した。医学概論Aの講義では、講義内容等についてのアンケートを実施した。大学院医学研究科修士課程の基礎医学概論と生化学特論を担当した。また博士課程の環境長寿解析学概論、情報生物学特論と生化学演習、生化学実習を担当した。	
研究	0.35	生化学会、神経化学および神経科学会に出席し研究成果を発表する。会場での討論により研究者間での情報交換と研究内容の改善を目指す。大学院博士課程の学生4名および教室員の研究教育を指導し、生化学系、生理学系、薬理学系の雑誌でインパクトファクターの高い雑誌への論文の採択を目指す。科学研究費補助金等による外部資金獲得を目指す。		0.30	5月の生化学会九州支部会、6月の神経化学会、9月の生化学会大会に出席し、研究成果を発表した。9月に島根大学での勉強会で講演した。生化学系、薬理学系の英文雑誌に計4編の論文が採択された。和文雑誌に計3編の総説論文が採択された。科学研究費補助金として、基盤研究(c)が採択された。	
社会貢献	0.10	薬理学に関連する企業との共同研究を計画し、研究成果の社会への還元を目指す。		0.10	薬理学に関連する企業との共同研究を行い、研究成果を学会で発表した。また2編の論文が英文雑誌に採択された。	
管理運営	0.15	遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用実験の指導と管理を行う。大学院委員会委員、学生生活委員会委員、学生支援指導専門委員会委員、医学科および医学研究科厚生委員会委員長、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員、医学部及び附属病院交通対策委員会委員としてそれぞれの審議を行う。		0.20	遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として、遺伝子組換え生物等使用実験の指導と管理を行った。とんがりプロジェクトチーム委員、RI施設長、学生生活委員会委員、学生支援指導専門委員会委員、医学科および医学研究科厚生委員会委員長、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員、医学部及び附属病院交通対策委員会委員としてそれぞれの審議及び職務を行った。	
進路指導	0.05	医学部医学科2年次学生の指導教員として将来の進路について話し合う。		0.05	医学部医学科2年次学生の指導教員として将来の進路について話し合った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		仲嶺 三代美	所 属	医学研究科・生化学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	医学科2年次の生化学では生体内でのタンパク質の合成および分解について講義する仕組みを講義し、生化学実習では生体に含まれるタンパク質の分離精製法などを担当する。医学科4年次の基礎配属を担当する。大学院生への実験の指導を行う。		0.35	医学科2年次の生化学実習ではタンパク質の分離精製とその特徴について、学生の理解を深めるための実習となるように工夫した。講義では分かりやすいスライドおよびプリントの作製を心がけた。医学科4年次の基礎配属では、最先端の研究について紹介するなど、研究の現場を体験できるように努めた。	
研究	0.60	視床下部由来の培養細胞を用いて、膜上に存在する受容体のひとつであるErbB4切断の分子機構を解明することをめざす。本年度の研究成果を日本分子生物学会にて発表することにより、研究者間での情報交換を活発に行う。また、研究費の獲得をめざす。		0.60	視床下部由来の培養細胞を用いてErbB受容体を介した細胞内情報伝達系についての研究成果を日本分子生物学会、日本生化学会にて発表した。また、本研究課題にて科学研究費の若手Bに採択された(継続)。また、研究教育業績評価で表彰された。	
社会貢献	0.01	沖縄県で開催する学会、研究会へ積極的に参加することで県内のコンベンション事業の活性化に貢献する。		0.01	学内の学術および試薬セミナーなどに積極的に参加した。	
管理運営	0.03	研究室内で使用する劇物および毒物指定の試薬、免税エタノールの使用に関して保管および使用記録等の管理に携わる。センター試験などの試験監督業務に従事する。		0.03	劇毒物の調査、免税エタノールの使用について保管と使用記録を管理した。大学入試センター試験では警備案内役を勤めた。	
進路指導	0.01	大学院生および学生から進路についての相談を受けた場合に、情報を集めるなど手助けをする。		0.01	大学院生へ培養細胞の取り扱いおよび生化学実験を指導し、研究環境の基盤整備を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		吉見 直己	所 属		医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	1. 病理学講義等を実施する。実習はバーチャルスライドシステムの充実を諮る。2. 病理部臨床実習の継続と病理医育成を視野にシステムの充実を諮る。3. 大学院院生に関しては学会発表と論文指導を諮る。4. 引き続き、病理解剖検討会を開催し、医学部での医療の質を確保する。		0.20	すべてクリア。2では臨床実習での当講座選択が9割以上を占め、貢献した。4では剖検検討会は特定機能病院に必須で有り、当講座のみで維持している。3に関しては、最終学年となる院生の博士論文を作成し、修了予定である。
研究	0.35	1. 日本発がん研究会と日本病理学会開催に向けて準備する。2. ラオスでの細胞診での支援を継続するとともに、それに対する外部資金獲得を目指す。3. 厚労省の指定型研究の班長としての任務を遂行する。4. 特別研究として放射線講座との連携での研究を施行する。5. 他の外部資金の獲得を目指し、共同研究での産学連携研究を目指す。		0.35	すべてクリア。特に厚労省指定型研究費(吉見班)と中島平和財団からの研究費を獲得するとともに、ラオスからの国費留学生の指導とともに、学位後指導のための支援金を得て、ラオスから短期留学生を受け入れた。4は共同研究員として2社から連携している。
社会貢献	0.15	1. 県立宮古病院に関して今までの臨床症例カンファレンスを継続だけでなく、遠隔病理診断を含む病理診断を開始する。2. 本島での種々の病院標本の病理診断に貢献する。3. 県下の医療系学校で必修である病理学講義を通じて社会貢献する。4. 県下の企業との連携を諮る。		0.15	すべてクリア。県立宮古病院の新病院における病理室開設に努力し、外科系とのカンファレンス開催した。3では関係する医療系学校数は3校)。4として沖縄パソロジーと中部医師会センターから共同研究として、研究員の受け入れを行っている。
管理運営	0.05	1. 教授会を含め、各種担当委員会に可能な限り参加する。		0.05	可能な限り参加した。学務委員会に所属。
進路指導	0.05	1. 一年次学生の指導教員として対応する。		0.05	班会開催を年間2回、適宜、講義受講や成績に関して学生の訪問を受けた。
診療	0.20	1. 病理部での病理診断を遂行する。2. 遠隔病理支援システムを模索する。		0.20	すべてクリア(診断業務とともに、研修医の指導を行った)。2は県の地域再生医療事業の一環として、実施し、社会貢献に記載している宮古病院のみならず、県立八重山病院との遠隔に関して、業務提携を予定している(今年度中には完了予定)。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松崎 晶子	所 属		医学部
職 名				助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	ポリクリを通じて、学生の病理学ひいてはヒトの疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。		0.30	ポリクリを通じて、学生の病理学ひいてはヒトの疾病の理解を助けた。ポリクリを通じて外科病理の実際業務を理解させ、実際の診断／臨床の現場で学生に診断病理学の重要性を理解させた。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も、CPCなどを通じて、行った。
研究	0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表。国際細胞学会での研究発表などを予定。外科病理症例で、問題症例や稀症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討する。		0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表。国際細胞学会での研究発表も共著者として行った。外科病理症例で、問題症例や稀症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行った。
社会貢献	0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。		0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助をおこない、これら外勤先でも、研修医の指導や、学会発表の病理部分の援助を行った。
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.00	
診断	0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科(消化器、泌尿器)とのカンファレンスへも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。		0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科(消化器)とのカンファレンスへも参加し、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新垣 和也	所 属		大学院医学研究科細胞病理学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・M3の担当講義、実習、M4のautopsy case studyにおいて視聴覚教材を有効に用い学生の自学自習の態度を育てる教育・指導を実践する。 ・M5・M6の病院実習学生に病理診断科業務の意義を理解させる教育・指導する。 ・病院内外の剖検、教育CPCを担当し、あわせて研修医の教育・指導を行う。 			0.25	M3の講義を複数担当した。M4のautopsy case studyでは、複数のグループを担当し、教育・担当した。M5、M6の病院実習では、病理医が通常行っている業務内容について説明を行った。		
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の病態解明に関する研究成果を得て、学会及び誌上での発表を行う ・文部省科学研究費をはじめ外部からの研究資金に積極的に応募する。 			0.05	動脈硬化性病変形成に関連した遺伝子解析を行った。		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・教室HP上での研究成果の還元などを行う。 			0.00	研究成果が上がり次第、随時、教室HP上で公開していく予定。		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教室および病院の管理業務(主に書類作成)に参画する。現在進行中である附属病院の再整備計画において、剖検室の設計に関する計画立案を行う。 			0.05	現在進行中である附属病院の再整備計画において、剖検室の設計に関して、計画立案を行った。		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に不足することが予想されている病理医確保のため、病理を希望する学生ならびに研修医に対し、7月の沖縄県病理医懇談会、10月の日本病理学会九州沖縄支部主催・秋の病理学校in長崎等の交流を通じて、実際の業務内容、病理診断の重要性を伝え、啓蒙を行っていく。 			0.05	10月の日本病理学会九州沖縄支部主催・秋の病理学校in長崎に、学生を引率した。		
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の日常臨床で行われている外科手術、消化管内視鏡検査等により採取された手術・生検材料、細胞診検体の病理診断業務を担当し、病院業務への参画、病理部の整備、精度管理に参画する。琉大附属病院ならびに教室の関連病院より依頼される剖検を担当し、医療の質の管理、医師の生涯教育に参画する。 			0.60	病理専門医資格を取得するための研鑽を行いながら、病院病理部より提出された手術・生検材料について診断を行った。他院から依頼された分も含め剖検を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	等々力英美		所 属	医学研究科	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	医学部医学科「衛生学・公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ」講義実習を担当する。 大学院修士課程「医学研究方法特論」、「研究方法概論」講義を担当する。 医学科配当科目の「医学外国語」の講義演習を担当する。 M6臨床配属自由選択、配属学生の指導担当する。 M4基礎研究配属学生の指導担当する。 非常勤講師として琉球大学医学部保健学科「栄養疫学」、東京大学大学院医学系研究科「疫学方法論」、名城大学看護学科の集中講義を担当する。		0.35	医学部医学科「衛生学・公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ」講義実習を担当した。 大学院修士課程「医学研究方法特論」、「研究方法概論」講義を担当した。 医学科配当科目の「医学外国語」の講義演習を担当した。 M4基礎研究配属学生の指導担当した。 非常勤講師として琉球大学医学部保健学科「栄養疫学」、東京大学大学院医学系研究科「疫学方法論」の集中講義を担当した。
研究	0.35	『ソーシャルキャピタルと地域の力——沖縄から考える健康と長寿(仮)(日本評論社)』を編著者として執筆、出版した。 科研費基盤研究(B)の研究主任者として(「社会経済的要因を背景にした伝統的沖縄食による3世代への介入研究」)新規立ち上げを行った。 厚生労働省科研費「介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究」における分担研究者として研究を行う。 科研費に関する関連論文を執筆する。 公衆衛生、疫学の関連国際、国内学会において発表を行う。		0.35	『ソーシャルキャピタルと地域の力——沖縄から考える健康と長寿(日本評論社)』を編著者として執筆、出版した。 科研費基盤研究(B)の研究主任者として(「社会経済的要因を背景にした伝統的沖縄食による3世代への介入研究」)新規立ち上げを行った。 科研費基盤研究(C)の分担研究者として(「高血圧の非薬物療法および一次予防を目指した沖縄型食事による介入研究」)研究の遂行に参画した。 厚生労働省科研費「介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究」における分担研究者として研究を行った。 科研費に関する関連論文を執筆した。 公衆衛生、疫学の関連の国内学会において発表を行った。
社会貢献	0.20	日本疫学会、日本栄養食糧学会、日本民族衛生学会および日本栄養改善学会評議委員として学会運営のための支援活動を行う。 公益財団法人沖縄県医科学研究財団評議員として財団運営のための支援活動を行う。 沖縄県公衆衛生学会幹事長として学会運営のための支援活動を行う。 沖縄県医師会産業医研修会講師として産業医育成のための教育支援を継続して行う。 沖縄県「健康行動実践モデル実証事業」の遂行のための支援活動を行う。 沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク「地域農産物に指向したソーシャルマーケティングと地域の健康再生・創造ネットワークの可能性(チャンプルースタディのエビデンスを基礎に)」ワーキンググループの代表者として推進させる。		0.20	日本疫学会、日本栄養食糧学会、日本民族衛生学会および日本栄養改善学会評議委員として学会運営のための支援活動を行った。 公益財団法人沖縄県医科学研究財団評議員として財団運営のための支援活動を行った。 沖縄県公衆衛生学会幹事長として学会運営のための支援活動を行った。 沖縄県「健康行動実践モデル実証事業」の遂行のための支援活動を行った。 琉球大学産学連携推進事業「学校給食」「社内給食」プロジェクトのアドバイスをを行った。 公益財団法人生存科学研究所の研究助成「社会歴史文化的要因を背景とするソーシャルキャピタルとwell-beingに関する研究会」の研究代表者として運営を行った。 沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク「地域農産物に指向したソーシャルマーケティングと地域の健康再生・創造ネットワークの可能性(チャンプルースタディのエビデンスを基礎に)」ワーキンググループの代表者として推進させた。 沖縄県社会福祉協議会、那覇市における社会人教育事業の一環として講演を行った。
管理運営	0.05	琉球大学国際沖縄研究所の併任教官として企画・運営に携わる。 琉球大学医学部附属病院専門研修センター員として企画・運営に携わる。 琉球大学疫学研究倫理審査委員会委員として、申請事項に対して審査を行う。		0.05	琉球大学国際沖縄研究所の併任教官として企画・運営に携わった。 琉球大学疫学研究倫理審査委員会委員として、申請事項に対して審査を行った。
進路指導	0.05	地域医療研究会の顧問教官として、学生の地域医療の学外活動にかかわる支援を行う。 医学科1年次生の指導教員として、教育生活指導を行う。		0.05	地域医療研究会の顧問教官として、学生の地域医療の学外活動にかかわる支援を行った。 医学科1年次生の指導教員として、教育生活指導を行った。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		宮崎哲次	所 属		法医学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	3年次学生の指導教員としての責務を果たす。 法医学講座に在籍している博士課程学生をTAとして採用する。 割り当てられた授業時間数が大幅に減少となった4年次学生の授業で授業効果を維持できるように内容を大幅に組み替える。		0.30	担当する3年次学生の年次別懇談会を実施し、報告書を大学に提出した。 大学院生をTAとし学部学生の指導に当たってもらった。 4年次学部学生の授業時間変更にあわせ、授業内容を大幅に変更した。学外からの非常勤講師の依頼はせず、学内教員のみによる授業とした。			
研究	0.30	法医学の研究に資するため、期間内に60体以上の解剖を自ら執刀する。 採択されている科研費基盤研究(C)の最終年度として研究内容をまとめる。学術誌に原著論文を掲載する。		0.30	平成26年1月23日までに69体の法医解剖(司法解剖60体、承諾解剖5体、新法解剖4体)を自ら執刀した。 科研費基盤研究に採択されていた、減圧障害の剖検診断に関する論文を国際誌(Rom J Leg Med)に掲載した。			
社会貢献	0.20	沖縄県警の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」では20時間を担当し、受講者に分かりやすい授業を行う。		0.10	警察向けの授業を20時間担当した。配付プリントに写真・図を多く用い、医学に関する基礎知識の少ない捜査機関職員の理解に供した。			
管理運営	0.20	評価・点検担当副学部長としての責務を果たす。 倫理審査委員会等の委員としての責務を果たす。		0.30	平成26年度夏完成に向けて、部局別の自己評価書を中心となって作成中である。 疫学研究倫理審査委員会および臨床研究倫理審査委員会の迅速審査の依頼があった場合には速やかに回答した。			
進路指導	0.00			0.00				
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		福家 千昭	所 属		法医学
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	学生に講義の内容を理解しやすくするために、実例をもとに考え方や手順を解説できるように、ビデオや動画などを盛り込んだ講義資料を作成・準備する。 大学院生に対して実験の原理、本質を理解させるようディスカッションを多く取り入れ、本や文献の紹介、抄読会を積極的に行う。		0.10	学生に対してはカリキュラム改訂もあり新規レジメの作成など講義内容の変更を行った。 修士課程学生に対しては例年通りの講義を行うとともに、法医学専攻の研究生に対して研究指導、論文紹介、抄読会を行った。 卓球部顧問として九州山口医学生体育大会卓球の部の大会委員長として運営を行った。また、部活動の新入生勧誘や運営を支援し、部活動の活性化に努めた。
研究	0.30	農薬や医薬品などの急性中毒に関する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会、中毒学会や法中毒学会などで発表する。 発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。 日本法医学会にて評議員としての活動と法医学中毒ワーキンググループの一員としての役割を果たす。 日本法中毒学会の評議員として学会運営に協力する。 日本中毒学会にて評議員として学会運営に協力する。		0.30	研究成果を日本法医学会全国学術集会、日本法医学会学術九州地方会にて発表した。また、日本中毒学会学術九州地方会にて特別講演を行った。投稿した論文が学術雑誌に掲載された。 法医学中毒ワーキンググループの委員として委員会に参加し、法医学分野における薬毒物分析に関する意見交換を行った。 法医学中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行った。
社会貢献	0.50	法医解剖例や医療機関から依頼された薬毒物検査を行う。		0.50	平成25年に解剖した症例の内31例について各薬毒物の定性・定量分析を行った。また、3件外部機関からの薬物分析の依頼に対して薬毒物分析を行った。
管理運営	0.05	保有個人情報管理委員会委員委員 琉球大学ハラスメント相談窓口担当者 琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員		0.05	琉球大学ハラスメント相談窓口担当者として講習会に参加した。 琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員として部会に参加した。
進路指導	0.05	指導教官として学生との連絡を密にし、修学、生活面で支援する。		0.05	班会を開催し、学生の生活状況を把握し、修学に対する意識の持ち方や方法について話し合った。また、学生の修学に対する悩みの相談に対応した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		井濱 容子	所 属	法医学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	大学院生に対して法医解剖実務ならびに診断技術を習得するための指導を行うとともに、研究ならびに論文作成の指導を行う。医学部4年生の講義を担当し、基礎配属では中心となって実習指導を行う。6年生の選択実習ではより実務的な法医学的指導を行う。久留米大学医学において特別講義を行う。		0.40	大学院生・研究生に対して法医実務の指導を行った。大学院生の研究指導を行い、博士号を取得させた。学部4年生の講義ならびに基礎配属を担当した。6年生の選択実習では、国家試験対策を含めた実践的な教育を行った。久留米大学医学部ならびに九州大学医学部において特別講義を行った。	
研究	0.40	科学研究費に採択された課題についての研究を進める。学会に参加して1回以上の学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に掲載される。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体程度の法医解剖を執刀する。		0.40	科学研究費の採択課題の成果が国際誌に掲載された[Rom J Leg Med 2013;21:20-26]。筆頭著者として2つの論文を国際誌に投稿、受理された[Forensic Sci Med Path, Forensic Sci Int(in press)]。研究生を指導し、論文を学術誌に掲載させた(法医学の実際と研究 2013;56:199-204)。学術集会で発表を行った。期間中に157体の法医解剖を自ら執刀した。	
社会貢献	0.20	沖縄県立中部病院において「死亡診断書(死体検案書)の書き方」についての教育講演を行う。和歌山県警察嘱託医会において特別講演を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。		0.20	県立中部病院と同南部医療センター・こども医療センターで教育講演を行った。和歌山県警察嘱託医会で特別講演を行った。「法医実務教養」で講義を担当した。那覇地方裁判所で特別講演を行った。沖縄県警察学校での専科教養の講師を務めた。児童相談所からの依頼で虐待児の生体鑑定を行った。	
管理運営	0.00			0.00		
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		二宮 賢司		所 属		法医学講座		職 名		特命助教	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成25年度 年度末自己点検結果			
教育		0.20		医学科4年生への講義を担当し、前年度における反省点を踏まえ内容の改善に取り組む。選択実習生に対し、より具体的な法医学実務の紹介を行う。大学院生に対し解剖実務の指導を行う。大学院生及び研究生に対し論文作成の指導を行う。		0.20		所属教室の医学部4年生に対する講義を2コマ分担当した。6年生の選択実習生に対し法医学実務の紹介を行った。大学院生に対し、解剖事務の指導を行った。大学院生ならびに研究生に対して論文作成の補助を行った。			
研究		0.60		学術論文を作成し、国際誌に掲載する。法医学関連の学会への参加、発表を行う。法医学の研究に資するため、期間内に100体以上の法医学解剖を執刀する。		0.60		学術論文を作成し、共著者として国際誌(Rom J Leg Med)に、筆頭著者として国内誌(法医学の実際と研究)に掲載された。国内学会に参加し、口演及びポスター発表を行った。平成25年1月28日現在までに、145体の法医学解剖を執刀した。			
社会貢献		0.20		沖縄県警察の行う検視業務に協力する。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医学実務教養」を担当する。沖縄県警察嘱託医会において、講演を行う。		0.20		平成25年1月28日現在までに、検視業務への協力を4件行った。また「法医学実務教養」において4時間の講義を行った。沖縄県警察嘱託医会において、講演を行った。			
管理運営		0.00				0.00					
進路指導		0.00				0.00					
		0.00				0.00					
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		益崎 裕章	所 属		医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学生・研修医向けの講義・総回診・外来見学実習を中心とする臨床実習を通して教育・指導を徹底する。		0.25	当初の目標を達成できた。		
研究	0.25	教室員の論文指導を通して研究活動を推進し、学会発表、英文論文発表を中心とする成果発信を積極的に進める。農林水産省やJST・文部科学省の大型競争的研究資金の獲得を目指して鋭意、努力していく。		0.25	当初の目標を達成できた。		
社会貢献	0.05	県医師会・県栄養士会・県薬剤師会における講演や指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会・ウェブ情報発信・新聞やメディアを通じた医療啓発活動に積極的に関与する。		0.05	当初の目標を達成できた。		
管理運営	0.10	学務委員会や研究戦略推進委員会、知的所有権(発見審査)委員会をはじめ、院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。		0.10	当初の目標を達成できた。		
進路指導	0.10	学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導、キャリア・プランニングを、キャリア・プランディング支援する。		0.10	当初の目標を達成できた。		
臨床	0.25	総回診や外来実習を中心として、教室全体の臨床レベルの向上と教育・指導に専心する。内分泌代謝、糖尿病、膠原病リウマチ疾患のエキスパート(専門医)を育成する。		0.25	当初の目標を達成できた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		友寄 毅昭	所 属		内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.15	(1)M4学生への血液学系統講義(4コマ)および試験の統括, (2)ポリクリ実習生への教育, レクチャー, (3)院内看護師勉強会の開催(年4回)		0.15	(1)M4学生に血液学系統講義を4コマ実施し, 講義のアンケートにより学生から積極的な意見の聴取を行った。講義担当教官と試験問題の作成を行い, 統括を行った。(2)ポリクリ実習生への教育, レクチャーを約40コマ実施した。(3)看護師・薬剤師・技師へ積極的に学外講演会の参加を促した。(4)初期研修医A疾患レポート評価。(5)共通研修カリキュラム講師(1コマ)			
研究	0.20	(1)臨床研究リサーチ:HTLV-1キャリアおよび成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の臨床研究(沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業)(学会報告1件), (2)症例報告発表・論文化(国内誌ないし国外誌(2件), 学会発表2件)		0.20	(1)臨床研究リサーチ:HTLV-1キャリアおよび成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の臨床研究を実施中(沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業), (2)第一筆頭として海外誌1編, 共同著者として海外誌2編, 国内誌1編。学会発表を第一演者, 共同演者として, 国内学会・地方会をそれぞれ2回実施。(3)書籍共同著書:敗血症の診断/治療の実状と病態・メカニズムをふまえた開発戦略(技術情報協会)			
社会貢献	0.15	(1)骨髄バンクコーディネーター活動(年10件), (2)製薬会社の社外勉強会講師・座談会(年1-3件), (3)県内血液内科関連施設との協力関係の構築(BCR-ABL変異解析), (4)血液疾患に関する市民フォーラムの開催(年1回), (5)先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る認定審査(年2回)		0.15	(1)骨髄移植推進財団調整医師活動(年10件)。H25年8月1日に同財団理事長より感謝状を授与。(2)九州後天性血友病研究会会長。(3)県内血液内科関連施設との協力関係の構築(BCR-ABL変異解析), (4)県内研修医・学生対象に「沖縄若手血液勉強会」を実施。(5)先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る認定審査(年2回)。(6)沖縄HTLV-1感染対策協議会委員。			
管理運営	0.20	(1)第二内科医局長, (2)骨髄採取術の安全管理;マニュアルの改訂		0.20	(1)第二内科医局長。(2)レジメン登録審査委員。(3)病院情報管理システム更新拡大ワーキング(輸血)構成員。			
進路指導	0.10	(1)血液内科を希望する研修医, 学生に対しての研修先などの進路指導(年8回, のべ30回), (2)指導教員として担当1年次指導(年2回, 10人)		0.10	(1)血液内科を希望する学生に進路指導と勉強会(1回に平均5人参加, 計3回)。(2)M1指導教員(担当学生10人と年2回懇親会を開催)。(3)大学院生の副指導教員(年1回面談)。			
診療活動	0.20	(1)血液内科に関する診療;外来診療, 入院診療, セカンドオピニオン, (2)骨髄バンクドナーコーディネート(年10回), (3)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年10~12回)		0.20	(1)血液内科外来・移植外来・ATL外来の外来診療(週2日)。(2)入院診療:グループカンファレンス。(3)非血縁者間骨髄移植ドナーの移植骨髄採取術を含めた入院・外来診療。(4)県内2医療機関の外来診療支援。			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大屋 祐輔	所 属		大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリクリ改革の実行 ・ハワイ大学との共同での指導医育成プログラムの実施 ・シミュレーション教育の従来カリキュラムへの導入 ・地域医療に貢献する総合診療のできる医師の育成に関する制度整備 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリクリ改革に着手して進行している ・ハワイ大学と共同の指導医育成プログラムを実施している ・シミュレーション教育を従来カリキュラムに一部は導入している ・地域医療に貢献する総合診療ができる医師の育成システムを提案中である
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・降圧治療に関する臨床研究の実施および新規立ち上げ ・認知症の発症に関する疫学研究の実施 ・脳卒中・心筋梗塞の県内での登録事業の立ち上げ ・沖縄県民の健康増進に関する観察および介入研究 ・ゲノム研究の予後調査の継続 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・降圧治療に関する臨床研究を実施している ・認知症の発症に関する臨床研究を実施している ・医師会の行う脳卒中・心筋梗塞の地域連携パス・登録事業に協力している ・沖縄県の地域に対して健康増進実践事業を実施している ・ゲノム研究のベースになる臨床データを整備中
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・高血圧、脳卒中、認知症、地域医療に関する市民公開講座の開催 ・沖縄県の健康政策への協力 ・県内の小学生～高校生へのシミュレーションセンターを用いた体験学習 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患に関する市民公開講座を開催した ・健康おきなわ21委員として行政に協力した ・シミュレーションセンターで、高校生や小学生の体験学習を行った
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学病院の教育研修の機能向上 ・シミュレーションセンターの管理体制の整備 ・琉大病院新築・改築に関する情報収集 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学病院の医療トレーニングをシミュレーションセンターで企画した ・シミュレーションセンターの整備を継続して行った ・病院新築に関して委員会にて情報収集を行った
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生、県内の臨床研修医へのキャリアパスの提示 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生、県内の臨床研修医のキャリアパスをWEBや講演会で提示した
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓リハビリテーションの件数増加 ・肺高血圧診療体制の整備と開始 ・不整脈インターベンション診療の件数増加 ・血液透析患者のシャント狭窄へのPTA治療の情報収集と開始準備 ・腎臓リハビリテーションの情報収集と開始準備 ・循環器・脳卒中救急患者の対応に関する情報収集および院内整備 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓リハビリテーションの件数は増加した ・肺高血圧専門外来と特殊治療を開始した ・血液透析患者のシャントトラブルの情報収集を行った ・腎臓リハビリテーションの効果に関する基礎データを収集した ・循環器・脳卒中の救急患者が増加している。対応も適宜行っている。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		渡嘉敷 崇(とかしき たかし)		所 属		医学研究科循環器・腎臓・神経内科学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	臨床講義内容の見直し(症例検討, 画像の活用), 臨床実習における指導(症例検討), 初期研修医の指導, 後期研修医の指導・専門医資格所得に向けた指導の充実				0.25	・・・臨床講義の内容に症例提示を組み込むようにし, また臨床実習や研修医指導においても実際の症例の診察を通して症候を検討するようにした。鹿児島大学神経内科へ専門的研究(遺伝子解析)で1名。電気生理学技術習得のため1名を派遣した。				
研究	0.25	神経疾患における病態解明(認知症)を行う 平成23年から学術研究助成基金助成金による研究の最終年度になるため, 次年度以降の研究の継続, 拡大に向けてこれまでの研究をまとめ学会や論文で発表する				0.25	・・・認知症研究で厚生労働省科研費を獲得し, 宜野湾市地域高齢者を対象に生活状況, 健康度, 栄養と認知機能に関する研究を行った。解析結果もまとめており, 学会および論文等へ発表予定である。				
社会 貢献	0.15	神経疾患領域の家族会や市民公開講座への参加, 研究会活動, 地域医師会と協力した地域診療連携システムの構築				0.15	・・・南部保健医療圏における脳卒中地域連携システムの構築に参画し, 継続中である。地区医師会の勉強会・講演会などで認知症診療に関する講師を担当し, かかりつけ医の認知症診療能力向上に寄与した。				
管理 運営	0.05	診療科内における入退院管理, および研修医・担当医の健康管理				0.05	・・・本年度は入院患者数も昨年度を上回り高水準で維持した。研修医・担当医の負担軽減・健康管理に留意し, 担当患者の割り振りなどで偏重がないようにした。				
進路 指導	0.05	初期研修病院選択のアドバイス, 専門医教育プログラムの作成・実施				0.05	・・・初期研修病院選択および専門医教育プログラムの実施も行い, 個別に希望・能力に合わせたアドバイスも行った。鹿児島大学神経内科へ専門的研究(遺伝子解析)で1名。電気生理学技術習得のため1名を派遣した。				
診療	0.25	新患予約外来の充実, 病診連携の充実・地域連携システムの構築				0.25	・・・地域連携システムの一環として神経内科新患予約システムを稼働している。神経内科は予約数は多く, 維持できている。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大城 克彦	所 属		琉球大学大学院医学研究科. 循環器・腎臓・神経内科学
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	初期研修医および医員の循環器診療に関するスキルアップを支援. 病棟実習生の指導		0.30	毎日朝夕の回診で初期研修医および医員の診療の相談を受け, 適宜指導を行った. その際に病棟実習生に対しても指導を行った. 後期研修医や医員が行う心臓超音波検査や心臓カテーテル検査など専門手技に立ち会い適宜指導した.
研究	0.20	内科学会での報告発表 循環器学会での報告発表		0.05	Real CAD研究(ピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験)の参加協力
社会貢献	0.40	生活習慣病の予防や治療法に関する診療を行い, 動脈硬化性疾患(心筋梗塞, 脳梗塞など)の発症予防を目指す. 動脈硬化性疾患の治療を行い, 罹患者の社会復帰を支援する.		0.10	1回/月程度の頻度で沖縄県総合保健協会において生活習慣病患者の生活習慣改善を目標とした指導を行った.
管理運営	0.20	心臓カテーテル検査および治療のスケジュール管理および件数増加を目指す.		0.05	心臓カテーテル検査のスケジュール管理を行った.
進路指導	0.00	-		0.00	-
診療	0.00	・循環器救急診療の充実 ・年間100件以上のカテーテル検査件数を目指す.		0.50	今年度, 開始された循環器ホットラインによる近隣開業医からの急患対応要請に対し診療を行った. また, 救急部と連携をとりそれらがスムーズに行われるよう整備した.
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください. ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください. ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください.		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください.
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山里正演	所 属		循環器・腎臓・神経内学
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	病棟実習生のカルテ記載を中心に指導する。 初期研修医のカルテ記載の指導と発表能力が向上するよう支援する。		0.20	・・・医学科4,5年生の病棟実習を担当し、特にカルテ記載をPOSにそって指導した。総回診後に症例検討を含む勉強会を行い、初期研修医および後期研修医に発表の機会を提供し、発表の仕方を指導した。
研究	0.30	高血圧の中枢性機序における骨髄由来細胞の役割の検討で科学研究費を獲得した。引き続き脳内骨髄由来細胞とneurogenic hypertensionの関係につき検討を進める。骨髄由来単核球細胞の肺高血圧治療に対する可能性をモデル動物を用い検討結果をまとめる。		0.30	・・・DOCA-食塩高血圧モデルでは骨髄由来細胞の脳室内自家移植が交感神経活動に影響する可能性を示唆する結果が得られ、国内外の学会発表を行った。骨髄由来単核球細胞の肺高血圧治療に関しては論文作成中である。
診療	0.30	高血圧や腎疾患の知識の普及に努め生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。 臓器合併症の発症・進展予防を目指し高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行う。		0.30	・・・月に1度、病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧勉強会を行なった。高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行なった。週約20名の外来患者の診療を行なった。朝夕2回の病棟回診を行い入院主治医への助言を行った。
管理運営	0.10	病棟入院中の患者・家族と病棟スタッフの安全に留意し、コミュニケーションを密にし安全に関わる情報の共有を即す。		0.10	・・・医局長として重大な事故につながる可能性のあったインシデントなどを構成員に報告し、事故防止の観点から情報の共有につとめた。
進路指導	0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う		0.10	・・・医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		白石 祐之		所 属		医学部第一外科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	学生講義や各種試験問題を、最新の情報にて更新・施行していく。				0.20	最新情報にて講義内容を更新して学生の理解につとめた。				
研究	0.20	臨床研究データを解析し、学会発表などに生かしていく。				0.20	学会発表にて臨床研究データを発表した。				
社会貢献	0.10	各種、県内外の医学系会議の主催や参加、他病院での手術支援を行う。				0.10	県内病院からの紹介患者の診療や技術支援を施行した。				
管理運営	0.10	院内の会議とうで職責を果たす。				0.10	複数の院内会議で職責を果たした。				
進路指導	0.10	講義や担当学生との面会などを通じて進路指導を行う。				0.10	担当学生と班会等を通じて、進路指導を行った。				
診療	0.30	肝胆膵領域の高難度手術を中心に、術者および指導者として職責を果たす。				0.30	高難度手術を多数行った。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。 				

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		佐村 博範	所 属		消化器・腫瘍外科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	ポリクリ学生に対して(1)医療行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。(2)臨床実習を通してのclinical questionあるいは興味あるテーマに関し英語論文の抄読会を担当させ論文リサーチスキルと適正な読解力および理論的思考法の指導を行う。(3)講義において疾患概念と特徴と問題点、および現在の専門医会でのコンセンサスを教授する。		0.25	(1)ポリクリの期間の受け持ち症例を術前から術後まで通して診療する臨床実習を行った。また、相当期間に可能な限り外科手技を教授し施行させる事ができた。(2)同じくポリクリ期間に英文抄読会を担当させる事でリサーチスキル、読解力および論理的思考法を深めるべく指導した。(3)講義を通して教示した事を試験で確認できた。
研究	0.25	(1)担当専門領域に属する他の教員と共同で、消化器外科領域の臨床医研究成果を学会で発表する。(2)同じく論文作成報告する。(3)九州地方での臨床研究グループにプロトコール委員および推進委員として参加し、地域共同研究を学会報告および論文報告する。(4)全国規模の臨床試験に参加し、evidenceの構築に寄与出来る診療体系を構築する。		0.25	消化器外科の臨床研究成果を学会および研究会で報告した。臨床研究グループでは試験の遂行と新しい試験の提案を行った。同研究グループでの研究成果の論文化も進行している。当科主体の新規臨床研究を開始した。
社会貢献	0.10	(1)県医師会に参加し、地域医療に貢献する。(2)地域病院で主に手術応援を通して消化器外科最先端の技術を実地指導する。(3)九州地域および全国規模の臨床研究グループに参加し臨床実績を公正に評価報告することで本邦における診療のエビデンスを確立する。		0.05	県内の大腸関疾患連研究会にて司会および座長をつとめ啓蒙に寄与した。関連施設に手術応援を通して技術指導が行えた。離島において講演会を行った。
管理運営	0.25	(1)医学部教授会、病院運営委員会、などの医学部および病院委員会の資料から管理運営に貢献できる分野を確認し、適切な事務処理および医療資源の節減を通して管理運営に寄与する。(2)病院再整備準備室に参加し次期病院構想に参画する。		0.30	各種委員会、がん診療連携協議会部会での活動、再整備準備室の活動を通して運営管理に貢献できた。
進路指導	0.05	ポリクリ学生および前期臨床研修医と積極的にコミュニケーションをとり、進路選択の一助となるよう相段に応じる。また、参考となる様、担当科(消化器一般外科)の実際を適宜説明する。		0.05	知識・技術の教示とともに当科の特色・魅力を説明した。
診療	0.10	医学部附属病院では自科単独あるいは他科と共同で集学的医療を行うことで難易度の高い手術を行っている。特に他科との共同では機能温存手術、根治性の高める工夫をした手術を施行する。		0.10	機能温存手術、集学的治療+他科合同手術により専門性の高い高度医療を実践できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	下地 英明		所 属	琉球大学大学院 医学研究科 消化器・腫瘍外科学	
職 名	助教				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	①医学部の学生に対して: 1) 担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2) 医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NSTカリキュラムの作成、指導を行う。また初期臨床研修医オリエンテーションでNSTレクチャーを行う。		0.20	① 1) 担当講義 1. 食道の外科的治療、2. 栄養法・NST、をおこなった。2) 1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NST活動と、前期・後期の2回平成23年度栄養サポートチーム専門療法士研修カリキュラムを開催し、院内及び院外の受講生の指導と講義を行った。以上より、目標は全て達成できた。
研究	0.30	①基盤研究(C)、研究課題名「食道癌術前化学療法の治療効果予測」を交付された科学研究補助金の終了に伴い報告を行う。また現在新たな化学研究補助金を申請中である。②消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。③論文を作成し、発表する。		0.30	①基盤研究(C)、研究課題名「食道癌術前化学療法の治療効果予測」を交付された科学研究補助金の終了に伴い報告を行った。②国内国外の学会・研究会で10件の発表を行った。③筆頭著者として、英文論文2編、和文論文2編の発表を行った。以上より、目標は全て達成できた。
社会貢献	0.05	①沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会及び5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループに参加し、地域医療に貢献する。②沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。③所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。		0.05	①5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループ、沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会に参加活動を行った。②沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。③評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。以上より、目標は全て達成できた。
管理運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。②コアNSTの中心メンバーとして、病棟NSTの指導を行い栄養サポートチーム加算に協力し、運営に寄与する。		0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。②栄養サポートチーム加算の施設基準の担当医師として、栄養サポートチーム加算に協力し、加算可能ものとしている。以上より、目標は全て達成できた
進路指導	0.05	医学部学生および研修医に進路指導を行う。		0.05	初期研修医に進路指導を行い、後期研修医の入局を促している。以上より目標は達成できた。
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。③NSTのコアメンバーとして、NST活動を行う。①・②・③を通して、若手医師の指導と育成を行う。		0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。③NSTのコアメンバーとして、毎週のNST症例検討、NST回診のほとんどに参加した。以上より目標の全てを達成した。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	青木 陽一		所 属	医学研究科 女性・生殖医学講座	
	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療マニュアル作成による医局員教育の実施 チュートリアル授業の取り入れ 研究業績の授業への反映 産婦人科専攻医に対するセミナー講演 医学研究科大学院生4人の研究指導 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 4月に当科診療マニュアルを発刊し、医局員教育を実施した。 講義、BSTに当分野の研究業績を盛り込んでいる。 5回の定例研修セミナーを行った。 大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。2人の4年生には論文執筆指導を行った。 	
研究	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省科学研究費による研究の遂行 開発治験、臨床研究の遂行 子宮頸癌、子宮体癌、既往帝切、卵胞液に関する新研究の立ち上げ 	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省科学研究費による臨床試験で、3例の登録を行い治療を実施した。 現在、開発治験1件が進行中、臨床研究は多数件進行しており、今年、関連論文2本をpublishした。 	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会腫瘍委員会への委員としての参画 各種学会での理事、評議員としての参画 沖縄産科婦人科学会での研修会企画 子宮がん検診、ワクチン接種啓発のための公開講座等への参画 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会腫瘍委員会の委員として、全国婦人科悪性腫瘍登録事業で、2012年の患者年報、2006年までの治療年報を報告した。 婦人科がん取扱い規約抜粋改訂委員会に参画し、改訂版を発刊した。 各種学会での理事会、評議員会への出席。 沖縄産科婦人科学会として、胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。 子宮がん検診啓発のための講演会を行った。 	
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 医学研究科学務委員会での貢献 医学部教務委員会での貢献 附属病院材料部長、輸血療法委員長としての貢献 医学部、医学研究科、附属病院における各委員会での貢献 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院材料部長として、医療材料委員会の開催等、職務を遂行した。 医学部、医学研究科(学務委員、教務委員、ヒトゲノム倫理審査委員)、附属病院(治験倫理委員、患者サービス推進委員、病理部運営委員等)における各委員としての任務の遂行。 	
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 研修病院選択への助言 医学博士号取得の勧奨 サブスペシャリティー専門医取得の勧奨 	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 2名が医学研究科大学院博士課程を受験した。 産婦人科専攻医の大学病院、研修病院での研修支援、産休明けの女性医師の関連病院への復帰支援を行った。 生殖医療専門医、産婦人科内視鏡技術認定医を各1名、産婦人科専門医を2名が取得した。 	
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数の増加、特に腹腔鏡下手術 子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術(腔・子宮体部温存手術)の実施 機能再建手術の実施(造膈術、奇形修復手術等) 外来・病棟診療体制の再構築 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数の増加を得ている。 平成25年は広汎子宮頸部切断術を3例施行し、1例妊娠17週で施行した。 外来、病棟診療体制の再構築のため、当科診療指針を発行した。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長井 裕		所 属	大学院医学研究科 女性・生殖医学講座	
職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義/チュートリアルの実施・学生病院実習での評価をフィードバック 専門研修委員会(教育連絡主任) ・大学院生の指導・アドバイス 		0.20	最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義の実施:子宮頸癌、子宮体癌、絨毛性疾患に関する系統講義および婦人科悪性腫瘍に対する妊孕能温存治療に関する総合講義、子宮頸癌についてのチュートリアルを行った。・学生病院実習での評価をフィードバック:病院実習における学生の要望を医局会で検討し改善してきた。
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 国際/国内学会での発表 ・国際誌への投稿 婦人科悪性腫瘍に関する臨床研究(GOG Japan, JCOG 婦人科グループ、JGOG等)への参加・実施 ・文科省科学研究費採択(予定)研究の推進 JGOG子宮頸癌臨床試験の主任研究者(予定)としての活動 		0.25	国内全国学会で、シンポジウム 1回、ランチョンセミナー 1回、その他ポスター発表2回を行った。 ・関連学会誌への投稿:国際誌への掲載がなされた。 ・多施設共同研究への継続参加:当科の実務担当である。積極的に多施設共同臨床研究に参加してきた(JCOG, JGOG, 米国GOG)。科研費採択研究として子宮頸部腺癌に対する多施設共同研究(JGOG1074)の主任研究者としてプロトコル作成を進めた。当科の臨床研究の指導を行った。
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> Gynecologic Oncology Group Japan (GOG Japan)委員会委員 ・ 沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局長 ・沖縄県がん診療連携協議会・普及啓発部会長 ・りゅうきゅう臨床研究ネットワーク・がん臨床研究部会委員 		0.10	左記の委員活動を積極的に行ってきた。・沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局活動に関して:沖縄県内の婦人科悪性腫瘍患者の登録作業を行い沖縄産科婦人科学会誌に掲載、報告した。 ・沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会会長としての活動に関して: 2隔月部会を開催し、がん検診をテーマにラジオ番組、公開講座、ポスターコンテストの企画運営した。・臨床研究部会では、ワークショップを定期的に行い臨床研究教育を行ってきた。沖縄県産婦人科医会がん部会理事として、医師向け講演会を企画運営した。
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 医学部附属病院がんセンター「化学療法レジメン登録審査管理委員会」委員長 		0.10	・レジメン登録審査管理委員会を隔月開催(迅速レジメン審査委員会は必要時開催)し、附属病院内の化学療法レジメンの登録・審査・管理を進めてきた。
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床医、医学生の産婦人科医希望に関する相談、進路指導 		0.05	また、琉球大学医学部附属病院臨床研修進路説明会(2回開催)に、積極的に参加し医学生、初期臨床研修医に対して産婦人科への進路説明、相談を行った。病院実習生への進路相談を行った。
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 婦人科診療グループの統括 セカンドオピニオン外来対応(婦人科領域) 病棟NST(栄養サポートチーム)としての活動 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 婦人科診療グループの実地臨床の統括を行った。 セカンドオピニオン外来の対応を行った。 病棟NSTとして検討会と回診を週1回行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		久高 亘	所 属		大学院医学研究科 環境長寿医科学 女性・生殖医学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学科学生臨床実習指導を充実させる。実習を通して医学・医療に関する理解を深めさせる。		0.20	医学科学生の臨床実習指導を行った。実地臨床を通して医学・医療への理解を深めさせた。臨床系統講義により婦人科学の理解を深めさせた。
研究	0.40	国内・海外の婦人科腫瘍関連各学会への出席、演題発表を行う。婦人科腫瘍関連の各臨床研究に参加する。		0.40	第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、第51回日本癌治療学会へ参加し、演題発表を行った。婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、Gynecologic Oncology Group (GOG) に所属し、婦人科腫瘍関連臨床研究に参加した。
社会貢献	0.00			0.00	
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.00	
診療	0.40	琉球大学医学部附属病院における診療活動および医療支援を行う。		0.40	琉球大学医学部附属病院において、診療活動および医療支援を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大山拓真	所 属		産婦人科	職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	臨床講義、臨床実習を指導する。		0.25	3年次に臨床講義を行った。4、5、6年次の臨床実習を指導した。				
研究	0.25	子宮頸癌放射線治療後の子宮摘出について研究する。		0.25	子宮頸癌放射線治療後の子宮摘出について研究、発表と行った。				
社会貢献	0.25	婦人科癌検診を行う。		0.25	婦人科癌検診を行った。				
管理運営	0.25	感染対策委員会、緩和ケア委員会に参加する。		0.25	感染対策委員会、緩和ケア委員会に参加した。				
進路指導	0.00			0.00					
	0.00			0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 忠嗣	所 属		産婦人科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する			0.30	A 3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。		
研究	0.30	大学院に在籍し、周産期、特に超音波領域での研究テーマを見つけ数年後の論文作成を目指す			0.30	A 大学院に在籍し、帝王切開創のエコーでの評価と開腹での創の評価というテーマを挙げ、数年後の論文作成を目指す。		
社会貢献	0.01	大学病院の医師の一員として求められれば人がいないところに応援に行く			0.01	A 産科当直の依頼があった時に応援に行った。		
管理運営	0.09	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。			0.09	A リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。		
進路指導	0.00				0.00			
診療	0.30	日常診療、特に周産期分野において診療し、学会発表を重ねる			0.30	A 産科医として診療し、沖縄産婦人科学会、日本産婦人科学会、周産期新生児学会で発表した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		只野昌之	所 属		微生物学・腫瘍学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.50	ウイルス学(全課程)、医学外国語、微生物学・腫瘍学特論の講義を担当する。これらの講義では学生の発表等を積極的に促し、教官からの一方的な授業形態にならないようにする。また、医学概論Aでは受講生に専門教科に興味を持たせ、今後の専門教育課程に入り易いような授業を目指す。指導教官としての職務を遂行する。		0.50	本来ならウイルス学は教授と分担し、概論と特論は教授が担当するところだが、それら全てを担当する事になった。これによって、他の業務や受講する学生への影響は無かったと思う。目標を達成した。
研究	0.30	新しいワクチン候補の研究開発とともに、動物実験等によるそれら候補ワクチンの評価を行う。西ナイルウイルス(WNV)の増殖を強く制限するヤンバルクイナ由来細胞で増殖可能なWNV変異体産生に成功したが、変異体遺伝子の構造蛋白領域には変異が認められなかった。そこで、今年度は変異株遺伝子の構造蛋白領域以外を解析して感染の制限に関わる領域の解明に近づける。		0.30	ワクチン関連では学会発表や論文(2報)受理など、WNV変異株の解析は完全ではないが進展があり、目標を概ね達成した。
社会貢献	0.10	名桜大学・看護課程、沖縄看護専門学校の微生物学の講義を担当する。日本脳炎ウイルス生態学研究会の事務局運営を担当する。沖縄県委託事業「知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業」に於ける研究推進委員を担当する。		0.10	滞り無く実施した。
管理運営	0.10	琉球大学医学部医学科教育連絡主任の職務を遂行する。		0.10	遂行した。
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		鈴木敏彦	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 研究業績の授業への反映 学生からの積極的な意見の聴取 授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> up to dateな知見を授業へもフィードバックしている 各授業において学生用質問シートを配布して学生の生の声を収集している 授業評価等にもどづいて授業の改善を随時行っている Web classを利用した過去問公開、出席確認、メール配信、点数開示を行っている
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学会誌への投稿、発表 学会での報告発表 学外との共同研究・外部資金の獲得 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> すでに国際雑誌発表済みのもの2報、現在、国際誌への投稿準備中 国内学会に発表 学外国内4か所海外1か所との共同研究を実施中。JSPS科研費基盤B、挑戦的萌芽研究、沖縄県の感染症医療研究ネットワーク事業の継続
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献としての具体的取組 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄科学技術研究基盤整備機構の遺伝子組換え安全委員会メンバー 沖縄県の感染症医療研究ネットワーク事業において公開シンポジウムを開催
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局における委員会での具体的貢献 所属学科等の管理運営における具体的貢献 入試関連業務における具体的貢献 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学務委員会、教務委員会、戦略的研究推進委員会、RI施設運営委員会、動物実験施設運営委員会、医学部概要編集委員会、博士論文資格審査会委員長、病原体等安全管理委員会委員長、大学本部遺伝子組換え安全委員会委員、医学部附属実験実習機器センター長、学科運営会議メンバー、入試面接委員
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 進学指導のための具体的取組 		0.05	医学科3年次学生の指導教員、各種FDへの参加
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		仲宗根 昇	所 属		琉球大学・大学院・医学研究科・細菌学
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	最新医学の知識をわかりやすく、覚えやすいように工夫する。		0.40	イラストや動画を用い、臨床症状を紹介して学習の高揚をはかり、次に病原菌の特性を学習させるなど工夫した。学生の評価は良かった。
研究	0.50	病原細菌の発症メカニズムの解明と予防、迅速診断法への応用に関連した研究を行い、論文を作成する。		0.50	論文がアクセプトされた。
社会貢献	0.00			0.00	
管理運営	0.20	学内教育連絡主任として学生と教員間の情報の共有を図る。		0.10	学内教育連絡主任としてTBLの設問を作製し、解説をおこなった。
進路指導	0.00			0.00	
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高江洲 義一	所 属		医学研究科細菌学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	・大学院教育(講義)、学部教育(講義、実習および基礎配属)を担当する。		0.20	学部3年生講義1コマ(4月)、学生実習(4月)、大学院セミナー(6月)、基礎配属2名(7月)、自由選択実習1名(9月)を担当した。
研究	0.60	・敗血症および感染症の新規治療法の開発を目指して、活性化マクロファージの細胞死制御機構とその生理的意義を明らかにする。 ・腸炎ビブリオのエフェクター分子の作用機序を明らかにする。 ・科研費および民間の競争的資金を獲得する。		0.65	・科研費(若手B)、琉大後援財団若手研究者支援事業採択 ・学外研究者との共同研究による論文発表(Nat Struct Mol Biol、PNAS、J Cell Biol、各1報) ・マクロファージの細胞死制御機構について、国際学会でポスター発表(キーストンシンポジウム、2月、米国)
社会貢献	0.10	・学会、研究会活動に積極的に参加する。 ・昨年度の高校学習指導要領改訂に伴い、高校などにおける生物学(特に分子生物学領域)の授業を支援するため、所属する分子生物学会が行う講師派遣事業への協力および県内高校への自主的働きかけを行う。		0.05	・原著論文の査読を行った(PLOS ONE、3件)。 ・千葉大学医学部野田公俊教授の依頼を受けて、県内で無料出張講演会開催可能な小中学校を紹介した(室川小、城東小、興南中)。 ・日本分子生物学会の講師派遣事業に登録した。(実際の派遣依頼はなかった)
管理運営	0.10	・入試関連業務への参画		0.10	・試験監督(センター試験) ・学内共同教育研究施設等研究環境整備費、評価WGメンバー(9月) ・医学部附属実験実習機器センター、セルソーター仕様策定委員会委員(9月) ・CPC技術審査委員(セルソーター) ・CBT追試試験監督(12月)
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		トーマ クラウディア	所 属		大学院医学研究科・細菌学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	①授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 ②学生からの積極的な意見の聴取		0.10	① 最新の研究の知見等を学生へ伝えられるよう資料を改善した。 ② 各授業において学生用質問や意見等を記入する用紙を配布し、学生の声を収集した。
研究	0.80	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究		0.80	① 国際雑誌に2報掲載、現在学術誌への投稿準備中のものがある。 ② 10月に福岡で行われた第8回国際レプトスピラ学会で口頭発表した。 ③ 「琉球大学後援財団」の研究助成金を獲得および科研費基盤研究(C)を継続 ④ 学外国内2カ所、海外2カ所との共同研究実地中
社会貢献	0.10	地域貢献としての具体的取り込み		0.10	「沖縄県感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」に登録研究員として参加している。
管理運営	0.00			0.00	
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岸本 英博	所 属	医学研究科・寄生虫・免疫病因病態学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。修士学生の修論のとりまとめを促し、国際紙へ論文を投稿する。基礎研究室配属された学生に対し、全員が英語の論文を読みこなせるように指導し、生命科学の研究に興味を持つよう指導する。		0.20	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行った。特にタイ国からの留学生の生活・修学指導を行った結果、他の学生とよく話すようになり明るくなった。修士学生の修論を指導した。現在、国際紙への投稿準備をしている。基礎研究室配属された学生1人に対し、英語の論文を読みこなせるように指導し、生命科学の研究に興味を持つよう指導した。	
研究	0.30	講座スタッフ、学内、学外の研究者と協力して公的外部資金の獲得をめざす。財団法人等の研究助成金の獲得を目指す。国際学会での発表、国内学会での発表を各2回以上行う。国際紙への論文発表を1編以上行う。琉大内での共同研究のシーズを開発する。民間と協力してバイオ医療機器の開発を行う。		0.25	JST2件、民間財団2件の外部資金・助成金に応募したが残念ながら採択されなかった。国際学会では5回以上(共同研究者の発表も含む)、国内学会は3回以上(共同研究者の発表も含む)を行った。国際紙への論文発表は、3編。医学研究科生理学講座や薬理学講座とin vivoイメージングにおいて共同研究をスタートさせた。島津製作所と共同で近赤外光を利用した新しいin vivoイメージング機器の開発を行っている。また、同じく近赤外光を利用した新規の腹腔鏡・内視鏡の開発に着手している。	
社会貢献	0.10	日本免疫学会評議委員として日本免疫学会のアウトリーチ活動に積極的に参加し免疫学の一般への普及を進める。がん医療を支える新技術の研究開発を沖縄の地域の臨床医にも参加を促し、地域特異的な研究のシーズをさがす。		0.20	日本免疫学会の企画する会議に出席した。がん医療を支える新技術の研究開発を模索するワークショップを3回沖縄県で主催し、地域特異的な研究のシーズの探索を積極的に行っている。	
管理運営	0.20	1)講座の責任者として管理・運営に努める。研究実験室がフルに稼働できるよう整備する。2)ホームページ委員会の委員長として医学部のホームページの充実改善に努める。3)学務委員会の委員として大学院生の入学者数の増加につながる方法を模索する。4)機器センターの委員として機器センターの機器や使用法の改善を図る。5)研究戦略委員として医学部のみならず他分野との連携を模索し、琉大として大きな研究戦略プロジェクトの立案を試みる。6)動物運営委員として研究しやすい動物室の運営改善を図る。7)国際交流委員として東南アジアのみならず欧米等への交流を模索する。		0.25	1)研究実験室の整備を進めた。具体的には、故障している機器の整備や購入と研究室の清掃を行い80%程度完了した(研究が行える環境を整えた)。2)ホームページ委員会の委員長として医学部のホームページの充実改善に努めた。特にインフォメーションのアップドートを頻繁に行った。3)学務委員会の委員として大学院生の入学者数の増加のため学内に大学院紹介、沖縄工業高等専門学校と連絡をとり、初めて大学院紹介を行った。4)機器センターの委員として機器センターの機器の充実を行っている。5)琉大医学部内で沖縄県との共同CPCプロジェクトに協力している。6)動物室の運営改善を提案した。7)国際交流委員としてタイ国タマサット大学との連携を推進し、台北医学大学との連携も推進している。また、文科省の国費留学生重点配分特別プログラムの応募を行った。	
進路指導	0.15	1)医学科1年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面、精神面に対して指導する。2)医学研究科の学生の就職活動に対して出来る限りサポートする。3)留学を希望する琉大の臨床医や大学院生に対して留学先の斡旋・推薦等を行う。		0.10	1)医学科1年次の指導教員として、受持ち学生と2回の班会を開き、修学面、生活面、精神面に対して指導を行った。2)医学研究科の学生の就職活動に対して、人事担当者と話し、学生の就職先を決定した。3)留学を希望する琉大の臨床医や大学院生の相談がなく、協力する事ができなかった。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		當 眞 弘	所 属	大学院医学研究科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「熱帯医学・国際保健医療学(学士編入者対象)」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「病原寄生動物学特論」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。		0.25	学部教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。なお、大学院博士・修士課程講義・実習は受講者がいなかったため、開講しなかった。	
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文3編の国内外学術雑誌への投稿・採択、及び関連ある国内外の学会での発表1回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。		0.25	国内英文誌1編、国外英文誌1編、論文が掲載された。また、現在国外英文誌に論文1編を投稿中である。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、投稿予定の論文1編を作成中である。	
社会貢献	0.10	研究課題(マラリアに対する感染防御ならびに薬剤耐性機構の解析)に関して、中期目標に掲げられている社会との連携、特に国際連携としてラオス国との共同研究を進める。この国際連携については、国立国際医療センター・国際医療協力研究委託事業の分担研究者である熱生圏分子生命科学施設渡部久実教授の研究協力者として積極的に参加する。名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行う。		0.15	ラオス国との共同研究については、これまでの研究成果を取りまとめ、海外英文誌に掲載された。また、名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。	
管理運営	0.15	寄生虫・免疫病因病態学講座の一員として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。継続して、医学部交通対策委員会委員として、構内の交通指導等を行う。		0.20	講座の一員として、教室の管理・運営に努めた。交通対策委員としては、自身の研究・教育活動の妨げにならない範囲で、警備員と協力して違反車両の取り締まり、指導等を行った結果、一定の効果が得られた。	
学生指導	0.15	医学科2年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。		0.15	受持ち学生と個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		野中 大輔	所 属		医学研究科 寄生虫・免疫病因病態学
			職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	寄生虫学実習を補佐し、理解度が低い学生のフォローアップを行う。国際保健に関する講義(3年次特別講義、学士編入学に対する特化授業)を通して、国際保健に関する学生の理解を促進させる。シュミレーション演習(1年次)が円滑に進められるよう補助する。		0.30	寄生虫学実習を補佐し、理解度が低い学生のフォローアップを行った。国際保健に関する講義(3年次特別講義、学士編入学に対する特化授業)を通して、国際保健に関する学生の理解を促進させた。シュミレーション演習(1年次)が円滑に進められるよう補助した。
研究	0.50	海外学術誌に4編の論文発表を行う。学会にて2回の報告発表を行う。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究推進に貢献する。科研費に応募し、外部資金の獲得を目指す。		0.50	海外学術誌に3編の論文発表を行った。海外学会にて2回の報告発表を行った。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究推進に貢献する。科研費および民間研究費(大山健康財団)に応募し、外部資金の獲得を目指した。
社会貢献	0.10	ラオス保健研究コンソーシアムや国際学校保健コンソーシアムの事務局として、社会貢献に努める。大学の海外プロジェクト(チャーガンじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)へ参画することで、国際社会に貢献する。		0.10	ラオス保健研究コンソーシアムや国際学校保健コンソーシアムの事務局として、研究と実社会の橋渡しを推進することによって、社会貢献に努めた。大学の海外プロジェクト(チャーガンじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)に参画することを通して、国際的な社会貢献をした。
管理運営	0.10	チャーガンじゅー学校地域歯科保健プロジェクトのプロジェクトマネージャー補佐および派遣専門家として、プロジェクトの管理運営に貢献する。		0.10	チャーガンじゅー学校地域歯科保健プロジェクトのプロジェクトマネージャー補佐および派遣専門家として、プロジェクトの管理運営に貢献した。
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		上里 博	所 属		大学院医学研究科・皮膚病態制御学
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	①臨床(外来・病棟)での皮膚科診療について教育を行う ②学部学生および大学院生への皮膚科分野の講義を行う ③研修医に皮膚科学の基礎知識、診断、治療の教育を行う ④後期研修医および医局員の学会発表、論文作製に対する教育、指導を行う。		0.20	一般皮膚科外来および病棟回診、臨床・組織検討会を医学生、研修医に対して行った。また大学院生や尹学生への講義も行った。
研究	0.20	①皮膚科学会、褥瘡学会、熱帯医学会などの各種学会への参加、発表を行う。 ②各学会雑誌への投稿、発表を行う。 ③本邦におけるリーシュマニア症遺伝子確定診断を行う。		0.20	所属学会へ参加し、それぞれ学会および紙上発表を行った。
社会貢献	0.20	①地域での皮膚疾患の知識の啓蒙(市民公開講座の開催)を行う。 ②沖縄県医師会活動を支援し、皮膚疾患に関する講演などを行う。 ③他病院における診療支援(外来診療)を行う。		0.20	他関連病院皮膚科外来の支援を週1-2回(午後)行った。日本皮膚科学会総会、地方会などの発表、論文作成の支援を行い、論文を作成した。
管理運営	0.15	①医学部委員、附属病院委員として各種委員会に出席し、医学部および附属病院の運営に参加する。		0.15	医学部各種委員会と附属病院委員会の各種委員会に出席し、その運営にかかわった。
進路指導	0.10	①医局員、大学院生の進路指導を行う。 ②専門医試験への準備、指導を行う。		0.10	後期研修終了の皮膚科医師を、関連病院(5施設)への勤務従事に推薦した。
診療	0.15	①琉球大学医学部附属病院での診療(外来および入院)を行う。		0.15	琉球大学附属病院での診療(外来および入院)に従事した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		高橋 健造	所 属		大学院医学研究科皮膚科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	皮膚科大学院生の研究指導、皮膚科修練医の学会発表指導、学部学生のポリクリにおける指導、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部3年生の担当教官としての指導、生活指導		0.20	卒前教育としての講義、毎週のポリクリを行っている。卒後教育として皮膚科専門医取得へ向けた国際学会、国内学会での臨床、研究の発表の指導を行った。専門医取得へ向けて、多数の症例報告論分の助言、作成を行った。		
研究	0.20	※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください 大学院生の研究指導を含め、遺伝性皮膚角化症の創薬研究、部位特異的な表皮角化に関する研究、皮膚腫瘍における血管増生因子の解析、ATLと菌状息肉症の臨床鑑別、カポシ肉腫のサーベイランス、血管肉腫の原因病原体の究明、紫外線皮膚癌の進展様式の解析、間葉系腫瘍の発症機序の解明などを進める。:この中で、遺伝性皮膚角化症の創薬研究、ATLと菌状息肉症の臨床鑑別、血管肉腫の原因病原体の究明において、文科省の科研費を得ています。		0.30	ダリエー病の治療薬の探索を継続している。大学院生の指導により、沖縄県に多い皮膚科疾患の研究を継続している。血管肉腫の原因病原体の探索、皮膚のRNA編集現象の探索、数種の遺伝性皮膚症の原因遺伝子の探索を継続している。内因性の皮膚老化因子の研究に着手した。教室員の科研費申請を指導し、新規に2つの若手Bの獲得をした。民間グラントにも申請した。		
社会貢献	0.10	各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演、東部支部学会での教育講演、九州医師会医学界での講演、日本美容皮膚科学会総会での講演		0.05	皮膚科関連の学会での招聘講演、教育講演を数回行った。各地域の皮膚科医師会での教育講演を数回行った。		
管理運営	0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動		0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディターとして、1年間に約40報ほどの論文の採否の決定を継続している。また10報ほどの皮膚科雑誌での査読を行った。活動学内では、教育担当、授業担当、共通機器購入選定の委員を継続した。		
進路指導	0.15	医局員・大学院生の将来の方向性の相談など、専門医試験のへの準備、申請用の論文作成指導など 医学部学生の進級、学習の指導		0.15	4名の大学院生の研究テーマを設定し、学位に向けての研究指導を行っている。医局員には専門医取得に向けての準備、指導を行っている。今年は2名の医局員が専門医を取得した。医学部3年生の担当教官としては、2回の面談を含め時々の連絡により、学習、生活指導を行い、学生達は脱落なく通学を続けている。		
診療	0.20	外来診療、病棟診療、回診、カンファレンス		0.15	毎週の外来診療、病棟診療のほか、回診、カンファレンス時に診断、治療の助言を継続している。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		苅谷嘉之	所 属		大学院医学系研究科皮膚病態制御学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部臨床実習生、研修医・研究生・医員および看護師の指導・教育。		0.20	医学部学生・研修医・大学院生・看護師へ指導・教育を行った。
研究	0.10	皮膚科学会・勉強会および病理学会への参加・発表。		0.10	皮膚科学会総会・地方会での発表や病理学会へ参加をした。
社会 貢献	0.10	沖縄県他施設での外来・病棟診療。		0.15	他施設での外来・病棟診療を行い地域医療に貢献した。
管理 運営	0.20	病棟医長としての病棟管理、感染症対策実務者会議への参加。		0.20	病棟の入退院調整やリスクマネージャー会議に参加した。
進路 指導	0.10	医学部学生・研修医への進路指導。		0.10	医学部学生・研修医へ進路指導を行った。
診療	0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療。		0.25	大学病院での外来・入院患者診療や生検・手術検体の病理診断を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		眞鳥 繁隆	所 属		皮膚科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.15	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育。皮膚外科コースの指導。			0.15	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育。皮膚外科コースの指導。		
研究	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。南九州合同地方会・日本形成外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科学会雑誌への論文投稿。依頼論文の投稿。			0.10	日本皮膚科学会沖縄地方会の参加。第68回沖縄地方会発表。第69回沖縄地方会発表。論文;①雑誌皮膚病診療35巻7、②日本臨床増刊号皮膚悪性腫瘍、③雑誌小児外科45巻10、④雑誌Derma3月頃掲載予定		
社会 貢献	0.10	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。沖縄フットケア研究会での講演。市民公開講座の開催、運営。			0.10	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。沖縄フットケア研究会での講演。		
管理 運営	0.25	皮膚科医局長としての医局の運営管理。がんセンター運営・手術部運営・カンサーボード運営・管理。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、南九州合同地方会の運営。			0.25	皮膚科医局長としての医局の運営管理。がんセンター運営・手術部運営・カンサーボード運営・管理。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、南九州合同地方会の運営。		
進路 指導	0.10	医学部学生・研修医への進路指導。医学部学生への臨床系統講義。皮膚外科コースの指導。			0.10	医学部学生・研修医への進路指導。医学部学生への臨床系統講義。皮膚外科コースの指導。		
診療	0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。			0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		田中勇悦	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学部学生および大学院学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。担当する大学院生の研究指導を行い、卒業論文を完成させる。また、短期留学生に授業として躰道を教える。		0.20	概ね計画通りに実施できた。
研究	0.60	外部から調達した研究資金を基盤として、HIVとHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的に行う。国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。		0.60	概ね計画通りに実施できた。
社会貢献	0.05	HTLV-1診断および研究用キットの開発に努め、広く社会に貢献できるようにする。		0.05	概ね計画通りに実施できた。
管理運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。		0.05	概ね計画通りに実施できた。
進路指導	0.05	担当する懇話会学生が1年生なので、学生生活や将来の進路の相談にのる。大学院生の進路についてサポートを図る。		0.05	概ね計画通りに実施できた。
その他	0.05	琉球大学躰道部の顧問および監督として躰道の指導を責任をもっておこなう。		0.05	概ね計画通りに実施できた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藤猪 英樹	所 属		医学研究科 免疫学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	M3免疫学講義4コマ担当、および実習16コマ担当(着任初年度のため、学生とのコミュニケーションを積極的にとる) 感染・免疫関連講座との授業内容のすり合わせを含めて講義内容のブラッシュアップを行う。 免疫学講座に所属する大学院生に対し免疫学教育を行う。		0.20	・M3免疫学講義6コマ担当、および実習16コマ担当した ・感染・免疫関連講座と講義内容の重複の確認を行った ・免疫学講座に所属する大学院生に対し免疫学教科書の輪読会を他教室と合同で行った。
研究	0.70	ヒト免疫機構を構築した「ヒト化マウス」を用いたHTLV-1初期感染細胞の同定、およびHTLV-1ワクチン開発研究を行う。(来年度の科学研究費補助金への応募の基礎データを得る) 学会報告(ウイルス学会、免疫学会)を行う。 感染・免疫関連講座との交流を始める。		0.60	・ヒト免疫機構を構築した「ヒト化マウス」及びラット感染モデルを用いて、HTLV-1治療・ワクチン開発研究を行った。 ・ウイルス学会、免疫学会で発表を行った。 ・細菌学教室、寄生虫学教室、本学センター免疫関連講座と交流を行い、「沖縄感染免疫シンポジウム2013」を行った。
社会貢献	0.05	慶應義塾大学医学部での講義1コマ担当(非常勤)		0.05	平成25年5月30日 慶應義塾大学医学部3年生講義科目「微生物学」で「インフルエンザ特論」の講義を行う
管理運営	0.05	CBT関連業務参画		0.10	・CBT問題作成、及びブラッシュアップ委員会での作業に従事 ・国際認証ワーキンググループに参画した
進路指導	0.00	免疫学講座に所属する大学院生の進路指導をサポートする。		0.05	免疫学講座に所属する大学院生の進路指導を日常的にコンサルタントした。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高橋 良明	所 属		大学院医学研究科 免疫学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	研究指導(大学院生)、免疫学講義(医学部3年次生)、免疫学実習(医学部3年次生)、基礎配属(医学部4年次生)、学内の試験監督(期末試験など)に当たる。		0.20	(1) 研究指導・学位審査対策(大学院生)、(2) 免疫学講義(医学部3年次生)、(3) 免疫学実習(医学部3年次生)、(4) 基礎配属(医学部4年次生)、(5) 学内の試験監督(期末試験)を担当した。
研究	0.50	平成25年度分としてすでに獲得している厚生労働科学研究費を使って、HTLV-1感染症解明のための基盤研究を行う。また、平成26年度科学研究費補助金の獲得に向け努力する。		0.70	厚生労働省および沖縄県からの平成25年度分の科学研究費を使って、HTLV-1感染症解明のための基盤研究を行った。また、平成26年度科学研究費補助金の獲得のため、申請を行った。その他、米国の研究者と共同で論文を2報発表した(いずれも筆頭著者)。
社会貢献	0.01	学外の試験監督への参加(センター試験など)。		0.01	大学入試センター試験の監督業務に従事した。
管理運営	0.09	研究室内設備の保全に務める(停電対策・自然災害対策・その他の緊急問題に対応)。		0.09	(1) 平日および休日に、交代で研究室内設備の保全に務めた。(2) 台風が接近・上陸した際に、研究室施設内に昼夜待機して、停電や緊急事態に備えた。(3) 学内委員会委員として従事した。
進路指導	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	藤田次郎		所 属	琉球大学大学院医学研究科・感染症・呼吸器・消化器内科学	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	講義(カラープリントを使用し、かつパワーポイント電子ファイルを配布)、および臨床実習をより充実(より視覚的な回診、スモールグループでの講義など)させる。		0.10	講義の工夫(カラープリントを使用し、かつパワーポイントファイルを配布)、および臨床実習の工夫(スモールグループでの講義など)、についてはいずれもほぼ達成できた。
研究	0.40	自身が第1著者の英文論文を3編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を2冊以上出版する。感染症関連の臨床研究「沖縄県における感染症防御を目的とした次世代ゲノム解析技術を用いた迅速診断方法の開発並びに対策拠点の形成(7000万円×3年間、2年目)を継続する。抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務める。		0.40	自身が第1著者の英文論文は短報も含め3編がすでにPUBMEDに掲載されている。感染症関連の臨床・基礎研究で、2編の博士論文を完成でき、うち1名は大学院を早期終了した。感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊発刊できた。感染症関連の臨床研究を展開し、沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業として「沖縄県における感染症防御を目的とした次世代ゲノム解析技術による迅速診断方法の開発並びに対策拠点の形成」というテーマでの大型研究費(7000万円×3年間)を取得した。日本では新たなキノロン系薬の調整医師として治験を展開中である。中国との共同抗菌薬治験(sitafloxacin)を日本側の調整医師として展開中である。平成24年度琉球大学医学研究科 研究・教育業績評価優秀者表彰(教授部門1位)を受賞した。
社会貢献	0.15	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。肺炎球菌ワクチンの公費助成に尽力するとともに講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、市民を対象として感染症関連の講演を企画する。新聞、マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する。		0.15	沖縄の感染症診療のスタンダードを英文論文で世界に発信することができた。沖縄県から喘息死を0にする活動を展開し、この目的での講演会を実施した。また薬剤師(すこやか薬局チェーン)との連携で共同研究を実施し、論文としてまとめた。肺炎球菌ワクチンの公費助成についてはさらに多くの市町村において実現し、ほぼ沖縄県全体をカバーした。沖縄県のインフルエンザ対策に関連して、新聞(琉球新報、および沖縄タイムズ)、テレビ(琉球放送)などでの啓蒙活動を行った。
管理運営	0.30	第一内科科長、感染対策室長としての責務を果たす。論文数を年間50編確保する。第1種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝炎診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担う。		0.30	第一内科科長、感染対策室長としての責務を果たした。論文数を年間50編以上(日本語総説も含む)確保できた。第1種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用しており、エイズ拠点病院、肝炎診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担った。なお琉球大学医学部附属病院の内科剖検率は2年連続、全国80大学のうち第一位であった。
進路指導	0.05	指導教員としての責務を果たす。年に2回、食事会を企画し、学生との親睦を図るとともに、国家試験対策に繋げる。		0.05	指導教員としての責務を果たした(年に2回のmeetingを開催)。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		健山正男	所 属		琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	1. 授業 a)目標:80%以上の出席をし、予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる。a)内容:診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う。b)評価:授業における質問と定期試験の成績、出席率により評価を行う。		0.15	定期試験の合格率は88.5%であったが、平均点は63点であり、不合格者の追試成績から怠学傾向が顕著認められこの群の学生に対する指導が課題である。
研究	0.30	1. 学会誌への投稿 邦文1編, 1編(英文誌). 2. 著書 2編(分担) 3. 総説 2編. 2. 研究関連領域の学会発表, 総会レベルでのシンポジウム1題, 6題(共同演者含). 3. 所属学会での役割 理事, 評議員としての活動. 全国総会レベルでの座長 3回. 4. 科学研究費 総額500万以上の獲得(分担研究含む)5. HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究		0.20	学会誌への投稿(筆頭著者)は邦文0編, 英文誌0. 著書は2編, 科学研究費報告書3編. 総説3編であった. 科学研究費獲得は2件(250万). 論文は目標を達成していない. 学会活動は全国総会レベルのシンポジウム3回(日本感染症学会、AIDS総会(シンポ2演題)),
社会貢献	0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演. 2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り. 3. 勤務医, 開業医むけの講演会の開催. 4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動.		0.15	講演 HIVと感染症関連で3回(北関東北信越HIV講演会特別講演)、沖縄県MSW講演会特別講演(厚生労働省研究班主宰)
管理運営	0.20	1. 院内貢献:a)院内感染対策室実務の責任者としての活動, b)新病院再整備準備室会議Wグループ長c)職員血液曝露対策の実務責任者としての活動. 2. エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(県内診療体制の構築, 研修会, 広報誌の発行)の遂行.		0.20	院内感染対策 実務責任者として左欄に掲げた目標を遂行できた.
進路指導	0.05	指導教官担当学生(10名)の留年, 退学の予防. 成績不振者に対する助言 2. 専門領域を含む進路指導. 具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催		0.05	全学生の勉学および進路相談を行い, 指導学生から留年無し.
診療	0.30	1. HIV/AIDS診療:当院の実務責任者としての役割を担う. 2. 輸入感染症の治療環境整備(厚労省研究班指定薬剤保管者). 3. 院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導		0.25	1. HIV/AIDS診療:当院の実務責任者として, 診療およびスタッフの指導・育成, 研修会開催5回実施. 外部機関との連携強化も十分な成果が得られた.
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		平田哲生	所 属		医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学分野
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学部学生の講義を双方向性に近づける。 臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実。		0.10	委員会活動により学生講義、ベッドサイドティーチングともに不十分であった。
研究	0.20	糞線虫症に関する臨床研究の遂行。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を1回以上行う。 科研費の獲得。		0.20	臨床研究に関しては十分遂行した。 学会、投稿については不十分であった。
社会 貢献	0.05	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。		0.05	他施設での講演を2回、研究会での講演も1回行なった。
管理 運営	0.05	大学病院内、学部内各種委員会の参加		0.40	多数の委員会への参加を行い、特に病院システム更新のWGリーダーとして積極的に活動を行った。
進路 指導	0.00	なし		0.00	
診療	0.50	附属病院における診療活動の充実		0.25	委員会活動により診療行為が十分に行えなかった。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		原永修作	所 属		琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	学生、研修医への講義 PBL,TBL導入への参画 臨床教育用資料の作成 FDに積極的に参加		0.20	学生講義の担当、研修医レクチャーの担当、教員FDの担当などを担当した
研究	0.30	臨床研究を立ち上げる 学会および論文での報告		0.20	学会でのシンポジストを2例担当。 症例報告論文2例作成
社会 貢献	0.10	開業医に対する講演 市民公開講座への参加 沖縄県の喘息死ゼロに向けた取り組み		0.10	A医師会関連の研究会でのレクチャーを複数担当した 喘息ゼロプロジェクトに参加
管理 運営	0.20	病棟医長としての病棟業務 卒後臨床研修センタースタッフとして臨床研修に積極的にかかわる 各種院内会議への積極的参加		0.20	病棟医長として病棟管理 医師キャリア支援センターでの臨床研修のマネジメントを通年で行った 電子カルテ委員会、リスクマネジメント会議、医療機器安全委員会
進路 指導	0.10	学生、研修医のキャリアプラン構築のサポートをする		0.10	研修医のローテーション調整、進路相談等を行った。
診療	0.00	外来および病棟診療		0.20	週2回の外来診療および、病棟の入院患者管理を通年で行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	